会史

社団法人 愛知県歯科技工士会



愛知県歯科技工士会会館

表紙題字　丸山　功会長



会史発刊に際して

会長　丸　山　　功

歯科技工界の黎明期、そして今日に至るを顧みると、数多先人方々の真摯な思いが組織を成し、叡智をもって懸かる案件の実現に、尽力されたかを伺い知ることができます。私たちは、そのご遺徳を偲ぶとともに、ご苦労に感謝を申し上げ、その展望にあるものを学ばなければなりません。これまで多くの懸案を実現されました。主たるものとして昭和30年歯科技工士法の制定を始め、学制改正、大臣免許、昭和63年には歯科技工製作に係わる告示など、またその後、平成５年には歯科技工法の一部改正により、大学化の途が開かれるとともに現行の歯科技工士法となったことなどです。

この愛知では、昭和４～５年にかけ二つの組織が創られ、互いに業界の育成が果敢に行われています。組織の発展、会員の増加、相互の交流などを経て昭和12年に統合されました。その後、中央組織への参加、また隣県にも働きかけを行い組織の発展に努力しつつ今日の基礎を築いてくださいました。

法制定後、組織の社団法人化が望まれ５年の歳月をかけ、昭和45年に認可され名称も社団法人愛知県歯科技工士会と改め発展を重ね今日にあります。また資格の根幹をゆるがす歯科技工助手の養成問題が生じるや、全国の支援をうけ反対運動を展開し、紆余曲折はありましたが養成は中止され解決を見ました。

長年にわたり念願であった会館は、会員の皆さんと歴代執行部の努力により平成７年に建設を果たし、すでに10年の歳月となりますが、今日まで学術講演や実技研修を始め、様々な会議の場として、また普通救命講習には、地域の住民方々の参加を得ての開催などに大いに利用され、当初の目的を十二分に果たしております。

その時代を担い、懸案を解決し、社会貢献を果たす、先人方々の志は連綿として今日に受け継がれています。

愛知県歯技は、68年余という歴史の途にあります。このたび会史発刊にあたり、多くの資料をもとに編纂にあたられた委員各位のご尽力に心より感謝を申し上げます。会員皆々様には、ご清栄とご活躍の限りなくあらんことをご祈念致しております。

歴代の座長・組合長・理事長・会長

大塚寛二	高田源重	増田四郎	大塚貞良	曽我重郎	中根源一郎
昭和6～7年度	昭和8～9年度	昭和9～10年度	昭和11～13年度	昭和14～20年度	昭和21～24年度



二村貴祐一
昭和25～32年度
昭和39～41年度



村井瀞一
昭和33～38年度
昭和47～48年度



永野志農夫
昭和41～46年度



岩見重郎
昭和49～50年度



亀田昭治
昭和51～58年度



山本武司
昭和59～62年度



小切間邦雄
昭和63～
平成2年度



柴田桂太
平成3～7年度



浅井貞雄
平成8～9年度



安形敏男
平成10年度

目　次
Contents

会史発刊に際して

歴代会長

黎明期～終戦 …… 1

昭和20年代 …… 5

昭和30年代 …… 9

昭和40年代 …… 15

昭和50年代 …… 29

昭和60年代 …… 53

平成元年度 …… 61

平成２年度 …… 63

平成３年度 …… 67

平成４年度 …… 69

平成５年度 …… 71

平成６年度 …… 73

平成７年度 …… 75

平成８年度 …… 79

平成９年度 …… 81

平成10年度 …… 83

平成11年度 …… 85

平成12年度 …… 87

平成13年度 …… 89

平成14年度 …… 91

平成15年度 …… 95

平成16年度 …… 99

平成17年度 ……101

会館建設の歩み ……105

歴代役員 ……111

組織図…… 138

会員数の推移 ……139

名称並びに事務所の変遷 ……140

連盟の歩み ……141

あとがき ……150

黎明期～終戦

昭和２年に歯科医師検定試験が廃止されたため、歯科医師を志していた人たちを含めて業として歯科技工に携わる人たちが出現した。徐々にその人たちの集団化が始まり、その輪が次第に大きくなっていった。やがて法律によって身分の保障を要望する声が高まり、法制化への運動を起こし始めた。

昭和５年

名古屋市南部（熱田、昭和、南、港）の人たち９人が名古屋市の近藤・石代・玉木各歯科医師の後援を得て親睦会を作った。親睦と技術の研究が目的であった。第１回の会合が名古屋市南区沢上町の料亭「ひさご」で持たれた（日時不詳）。

◇舟で伊勢神宮へ参拝。

昭和６年

会員14人。さらに増やすための各個人宅訪問。他地区にも歯科技工を業とする人たちは存在していた。

昭和７年

年間数回の会合。会員を増やすため、各個人宅を訪れて勧誘した。会員13人～15人、うち３人が歯科技工所を開業。

昭和８年

昭和８年の会則

会　則

第一条　本会ハ南部技工会ト称ス。

第二条　本会ハ会員相互ノ親睦ヲ図リ協力扶助シテ思想ノ向上、人格ノ修養ト技工ノ研究ヲ目的トス。

内規　扶助会必要ノ場合会員一同協議ノ上決定ス、技工手伝イ必要ノ場合院主ノ許可ヲ得テスベシ（都合スル事）。

第三条　本会ハ南区在住ノ技工士及ビ有志会ヲ会員トス。

第四条　本会ニ左ノ役員ヲ置ク。

第五条　会長一名、幹事二名、会計一名トス。

第六条　役員ハ選挙ニヨリ定メ任期ハ満一年トス。

内規　選挙ハ高得点者当選トシ欠員ヲ生ジタル場合補欠選挙ヲ行ヒ任期ハ前任者ノ残任期間トス。選挙ノ際ハ前任者当選ハ重任トス。

第七条　本会ノ経費ハ寄附金及ビ会費デ充テル。

第八条　本会ハ年四回ノ例会ヲ開キ必要ニ応ジ臨時会ヲ開ク事ガアルベシ此ノ場合会長之ヲ通知ス。

第九条　会員ハ毎月、金、二十銭納入スルコト。

◇会員有志会合（４月11日）
◇会員有志会合（５月４日）
◇会則起草のため大野、増田、種村、竹内集合（５月13日）
◇発会式打ち合わせ会（５月30日）
◇発会式打ち合わせ会（６月２日）
　種村、大野、増田、石代各歯科医院で会則の原案作り。
◇発会式（６月11日、名古屋市中区「杉原料理店」）
　出席者９人
　来賓＝玉木、石代、近藤各歯科医師、木村歯科新聞記者、林店主、東京の中井氏。

昭和９年

　歯科医院を訪ね、そこに働く“歯科技工に従事する人”に面会し、入会を誘った。
　名古屋市中区、西区方面にも同様の集まりがあった。そのグループとは、少なからず交流があった。名古屋市以外でも同様な活動があったようである。県下各グループの統一を望んで、名称を**愛知技工組合**に変えた。会員17人。
◇第１回定期総会（１月21日、菊水料理店）
　出席者８人、来賓　林材料店主。
◇第２回定時総会（４月１日、座長宅）
　出席者９人
◇第３回定期総会（７月15日）
　出席者10人。錦町巴楼で納涼会、舟遊び。
◇第４回定時総会（11月11日、座長宅）
　出席者５人。後、「魚よし」で宴会。

昭和10年

◇名称　愛知技工組合
　名古屋北部のグループ名古屋技工組合との交流があったが、合併の機運はなかった。家庭訪問などをして会員増加を図った。
◇第１回定時総会（１月６日、組合長宅）
　出席者５人
◇第２回定時総会（４月14日、組合長宅）
　出席者５人。このあと岡崎へ花見に。
◇第３回定時総会（10月）

昭和11年

◇名古屋技工組合と合併
　会員は36人となり、運営も活発に。会員相互の親睦を図るとともに、さらに会員増加を目指した。
◇定時総会　４回くらい開催。
◇慰労会　２、３回行われた。
◇規定料金表（組合用）作成。

昭和12年

　県下全体の組織統一を図った。会員36人
◇定時総会

昭和13年

◇技工所組合結成式（名古屋市、社会会館）
　〈来賓〉加藤孝一・県技官
　　細江・警察衛生課警務部長
　　吉川清雄・歯科医師会長
　　長屋弘・名古屋市長

◇講演会（名古屋市公会堂）
〈講師〉寺元武司・日本歯科技工協会会長　藤藪秀夫・同副会長　石鳥茂
講師は歯科技工士が社会に認められるには法制定されねばならないと資格獲得を主張した。
◇日本歯科技工協会に加盟

昭和14年

前年に開催した講演会で会員の資格獲得の認識が高まり、東海４県や東京都との交流が始まって、資格獲得運動の輪が広がった。会員30～40人
◇定時総会

昭和15年

日本歯科技工協会の資格獲得の法制定の動きに協力した。
◇定時総会及び対外との連絡会議
４回開催
◇基準料金
11年、12年ころと同じ。しかし、統一が図りにくかった。
◇潮干狩り
家族を含めて。

昭和16年

名　称　**愛知県技工会**
太平洋戦争に入り、疎開し始める会員が出てきて、会員が少なくなり、会務や事業に支障をきたした。
会　員　30～40人
◇合同会議に参加
「陳情書」の件で東京から連絡があり、参加した。
◇定時及び臨時総会

昭和17年

愛知県歯科技工組合と改称、今後「技工師」と称することを、役員会で決定。それまで必要に応じて拠出していた“会費”は定期的に月額50銭を納入することを決めた。

愛知県歯科技工組合規約
総　則
第１章
第１条　本組合ヲ愛知県歯科技工組合ト称ス
第２条　本組合ハ歯科技工師ニシテ歯科技工所開設者ヲ以ッテ組織ス
第３条　本組合ノ地区ヲ愛知県一円ト定ム
第４条　本組合ノ組合ヲ名古屋市ニ置ク
第５条　本組合ハ歯科技工技術ノ改良、発達及組合員ノ団結相互ノ親睦ヲ図リ、以ッテ業界ノ発展向上ヲ期スルヲ目的トス
第２章　組合員関係
第３章　役員及ビ選挙方法並ニソノ権限
第４章　会議
第５章　加入脱退
第６章　組合員ノ権利義務
第７章　会計
第８章　違約処分
第９章　解散及ビ清算
第10章　雑則
第11章　慶弔関係

昭和18年

戦争激化のため、多くの人たちが疎開して会員が少なくなった。会員の配

給制の事務手続き等。

資格獲得の十分な活動はできず。

◇日本歯科技工所連盟（日本歯科技工士会の前身）発会式並びに第１回総会に参加（１月23日、東京府医師会館）

本協会から曽我重郎、増田四郎、長野美種、宇野義一。

昭和19年

疎開者が相次ぎ会員は、10人くらいに激減。日技との関係は、連絡も絶たれた。

◇定時総会　２回

◇歯科医師会より５月17日付で、刑務作業指導技術官採用方に関する文書が長野美種宛に届く。

◇技工報酬標準協定表作成

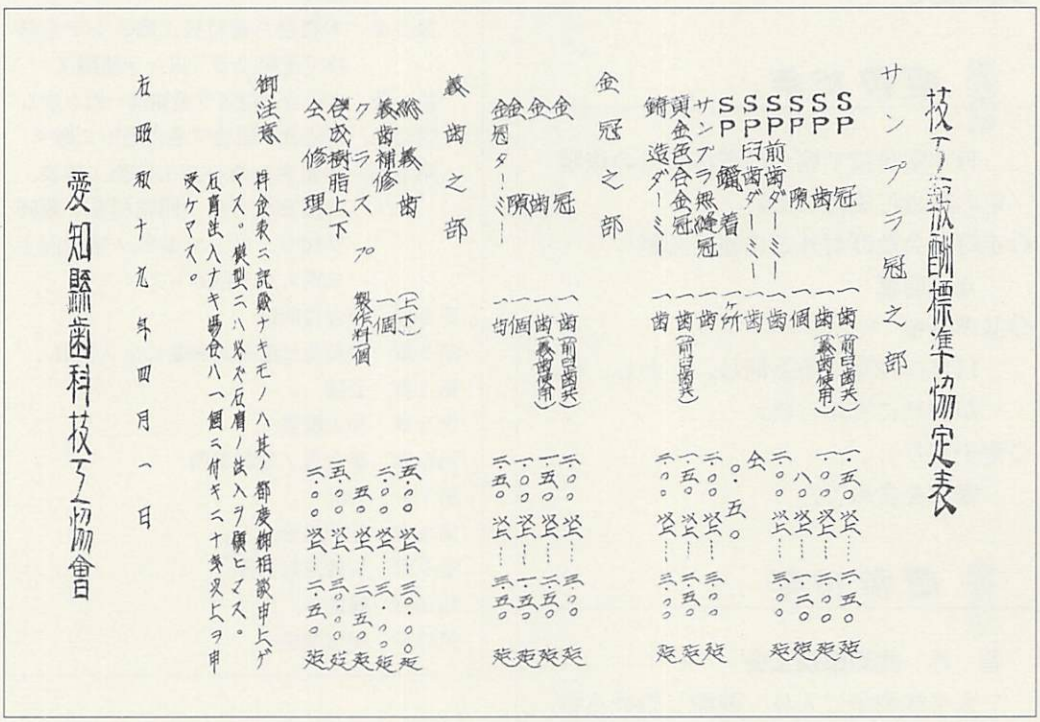
昭和20年

◇新年宴会を兼ねて合同会議

曽我組合長疎開のため、長野美種が世話をした。

◇会の活動は停止状態

戦争はますます悪化し、歯科技工もほとんどできないありさま。諸物資が配給制であったため、その申請手続きの事務がとられていた程度であった。



技工報酬標準協定表

サンプラ冠之部

SSP冠　一歯（前臼歯天）　一・五〇
SSP歯　一歯（義歯使用）　一・〇〇
SSP歯　一個　一・八〇
SSP前歯ダーミー　一歯　一・二〇
SSP臼歯ダーミー　一ケ所　三・〇〇
SSP鑞着　一歯　三・〇〇
サンプラ被覆冠　一歯（前臼歯天）　三・〇〇
貴金属合金冠　一歯　三・〇〇
鋳造ダーミー　一歯　三・〇〇

金冠之部

金冠　一歯（前臼歯天）　三・〇〇
金歯　一歯（義歯使用）　三・〇〇
金冠ダーミー　一個　三・〇〇

義歯之部

総義歯　一個　三・〇〇
義歯補修　一個　一・五〇
クラスプ　一本　一・五〇
製作料個　一・五〇
使成樹脂上下　一・五〇
全修理　三・〇〇

御注意

料金表ニ記載ナキモノハ其ノ都度御相談申上ゲマス。模型ニハ咬合ノ法入ヲ願ヒマス。

石膏法入ナキ場合ハ一個ニ付キ二十銭ヅヽ申受ケマス。

右昭和十九年四月一日

愛知縣歯科技工協會

昭和19年作成の料金表

昭和20年代

太平洋戦争が終わり、戦地から復員したり疎開先から戻ったかつて歯科技工を業にしていた人たちも加わって、中断していた組織も徐々に回復していった。

再建された全国組織の日本歯科技工所連盟に加入し、法による資格獲得の大目標に向かって尽力した。幾多の困難があり、歯科技工法制定への苦しみの時代だった。

昭和21年

◇組合再建総会（12月、名古屋市若宮神社）

終戦時、7、8人であった組合員も、次第に戻ってきて28人が集まり、組合の再建を図る。

組合員の増加を図るとともに、技術練磨のため講習会を計画。

昭和22年

◇組合員の数は34人に

◇全国初の講習会始まる（6月～）

将来の資質と専門技術の向上は不可欠と計画された学術講習会は、6月に始まり、月に1・2回、25年まで。

この講習会は全国で初めてとあって、その熱意に県歯科医師会でも講師を務めるなど協力。

8月まで3ヵ月間の第1期講習会受講者に修了証書（下）。

証

第　号

氏名

右ノ者昭和二十二年第一期
三ヶ月間ノ歯科技工ニ関スル
学術講習会ヲ終了シタコトヲ
証認ス

昭和二十二年八月三十日

愛知県歯科技工組合
愛知県歯科医師会長
ドクトル　粥川綱三　㊞

◇料金表作成（10月）

拝啓　時下秋冷の候御高堂益々御清祥奉賀候
扨て當技工組合も皆様の格別の御支援により
御蔭様で業務も順調に進捗し微力ながら低廉
優秀を信念と致し来り候處日に物價高の折柄
止得ず製作價格を左記の通り改正協定致し候
間何卒御諒承の上今後共倍舊の御引立御願申
上候

製作價格（材料別）

一、SP冠　一歯　金四〇、〇〇
一、SP鑞着　一歯　〃一〇、〇〇
一、合金鋳造　一歯　〃五〇、〇〇
一、金冠　一歯　〃五〇、〇〇
一、金鑞着　一歯　〃二〇、〇〇
一、義歯ゴムレヂン　一顎　〃二〇〇、〇〇
一、義歯保修　一ケ　〃五〇、〇〇

特殊技工は其の都度御相談に應ず

昭和二十二年十月　日

愛知縣歯科技工所組合
仮事務所　名古屋市中村區日置通四ノ二三
中根源一郎方

昭和23年

◇会員名簿を作成　会員41人
◇講習会（第２期）
◇料金表（下）作成（６月）
◇資格獲得運動に呼応
　愛知でも関係方面への働きかけを強める。

昭和24年

◇愛知県歯科技工士協会に改称
　技工所だけの組合ではなく、歯科技工士全体の組織でなくてはならないと規約を定める。
◇日本歯科技工所連盟再建決定に参加（２月13日、名古屋市）
　「連盟の再建について」役員選出、本協会からは副会長に中根源一郎、理事に長野美種、村井瀞一ら。
　４月17日、会計部副に本協会の二村貴祐一が就任。
◇22年から始まった学術講習会は第２期に入り内容も充実。

標準技術報酬額

料金の規約を一定せず多くの弊害を正ずるを誠に遺憾として此処に組合員一同結束して料金を左記の如く規定致すこと致しました。従って、技術の点におきましても過日来より粥川先生の熱誠なる御支援のもとに技術の向上を目的として講習を受け益々技術の練磨を図り、諸先生方の御期待の幾分にも応じ業界の理想目標に全力を尽くし邁進することを此処に重ねて約束するものであります。
何卒諸先生方の御了承の上御協力と御支援を御願い致しまして右挨拶と致します。

製作価格（材料別）

SP冠	一歯	金五〇円〇〇銭
〃	〃	金七〇円〇〇銭
SPダミー	〃	金二〇円〇〇銭
SP鑞着	一カ所	金二〇円〇〇銭
鋳造	〃	金一〇〇円〇〇銭
金冠	一歯	金一〇〇円〇〇銭
金鑞着	一カ所	金一〇〇円〇〇銭
義歯ゴム レジン	一顎	金三五〇円〇〇銭
義歯補修	〃	金一〇〇円〇〇銭

特殊技工は、その都度御相談に応ず。

昭和二十三年六月

愛知県歯科技工所組合
事務所　中根源一郎方
名古屋市中村区日置通四の二三

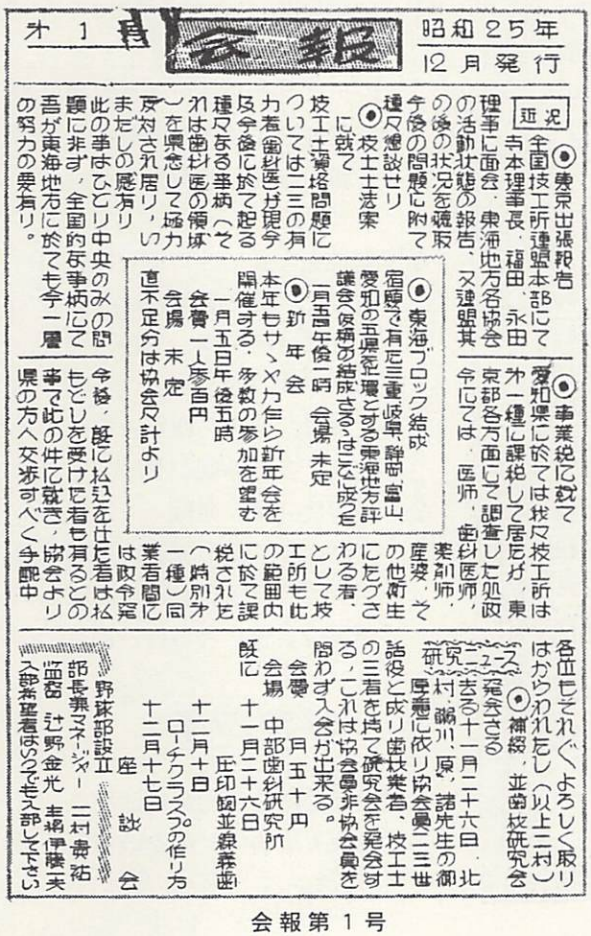
昭和25年

◇東海地区ブロック結成に参加（1月5日、名古屋市）

資格獲得促進同盟準備のための東海・近畿地区大会が開催され、同時に東海地区（愛知・岐阜・三重・静岡）ブロック結成式を行う。この結成に中心的役割を果たした愛知は、ブロック理事長中根源一郎、同副二村貴祐一、理事増田四郎、鈴木吉夫、監事村井瀞一、会計成瀬正信など、役員の大半を占めた。

◇会報第1号を発行（12月）

官製はがきにガリ版刷り。



第1号　会報　昭和25年12月発行

近況

◉東京出張報告
全国技工所連盟本部にて吉本理事長、福田、永田理事に面会、東海地方各協会の活動状態の報告、又連盟其の後の状況を聴取、今後の問題に附て種々懇談せり

◉技工士法案に就て
技工士資格問題については二三の有力者歯科医が現今及今後に於て起る種々なる事柄（それは歯科医の領域～）を県意として強力反対され居り、いまだしの感有り此の事はひとり中央のみの問題に非ず、全国的な事柄にて吾が東海地方に於ても今一層の努力の要有り。

◉東海ブロック結成
宿題で有た三重、岐阜、静岡、富山、愛知の五県を以て東海地方評議会（仮称）の結成さる、はこれに成る
一月五日午後一時　会場　未定

◉新年会
本年もサンカ作り新年会を開催する、多数の参加を望む
一月五日午後五時
会費一人参百円
会場　未定
直不足分は協会より

◉事業税に就て
愛知県に於ては我々技工所は外一種に課税して居たが、東京都各方面にて調査した処政令には、医師、歯科医師、薬剤師、産婆、その他衛生の試験と成り歯技業者、技工士の三者を持て研究会を発会する、これは協会員非協会員を問わず入会が出来る。
会費　月五十円
会場　中部歯科研究所
既に　十一月二十六日　歯科医師
十二月十日　歯科技工士
ローケクラスの作り方
十二月十七日　座談会

◉補綴、並歯技研究会発会さる
去る十一月二十六日、北村、瀬川、原、諸先生の御厚意に依り協会員二三世話役と成り歯技業者、技工士の三者を持て研究会を発会する、これは協会員非協会員を問わず入会が出来る。
会費　月五十円
会場　中部歯科研究所
既に　十一月二十六日　歯科医師
十二月十日　歯科技工士
ローケクラスの作り方
十二月十七日　座談会

各位もそれぐよろしく取りはからわれたし（以上二村）

◉野球部活躍
部長兼マネージャー　二村貴祐
監督　辻野金光　主将伊藤一夫
入部希望者は5Cまで申し出て下さい

会報第1号

昭和26年

◇東海ブロック連絡協議会理事会に出席（2月17日）、名古屋市・若宮神社）

中央における資格獲得運動に、東海地区としての取り組み方などを協議。

◇愛知県歯科技工士協会に改称（4月8日）

理事長に二村前理事が就任。事務所も西区内江町1－46（二村方）に。

◇支部制度

会員数も前年に50人となり、8支部を編成。

◇会報第2号、第3号発行

◇東海ブロック理事会に出席（岐阜市柳ヶ瀬通り丸物歯科）

本会からは、二村・村井・高田・社本・安田役員らが出席。

資格獲得推進同盟結成大会参加について、その他を協議。

◇歯科技工士資格獲得促進同盟結成大会に参加（8月26日、東京・下谷公会堂）

愛知代表として出席し、あいさつに立った二村貴祐一・本協会理事長は、愛知県における現況を報告するとともに、「われわれは人格の高揚に努め、ますます技術を練磨して、歯科技工士たるプライドを以て、世の理解と同情を深め、また、この促進同盟に一人でも多く加入して目的達成のため協力しよう」と訴えた。

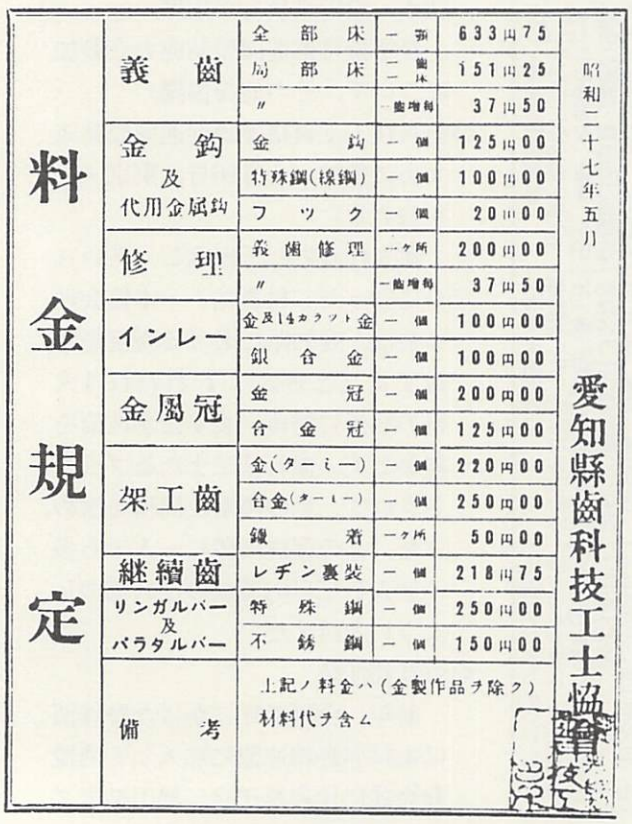
◇野球部活躍

前年、会報で呼びかけた野球部は歯科界野球連盟に加入して同盟発会式に代表を送り、熱田神宮グ

ラウンドで行われた大会に出場した。
◇会員親睦旅行（秋）
岐阜県方面

昭和27年

◇会員132人に増加
◇講習会（２月～）
第３期講習会を２月から１ヵ月間実施。内容も、教養、解剖学、生化学、歯科学大意、歯科解剖学、生理学、細菌学、顎補綴、歯科理工学、歯科矯正学、衛生学、薬物学、衛生法規、歯科補綴学、歯科陶材学、歯科継続架工学、有床義歯学（全部床・局部床）技工実習、と多岐にわたり、講師は北村一郎・歯科部長はじめ名大医学部の教授、助教授、医師ほか、県歯科医師会会長、学術部長、県衛生部医務課主事などで、県歯科医師会及び県医務課が後援。
◇歯科技工料金表作成（＝左下図）
会員および各方面に配布。



料金規定

昭和二十七年五月

愛知縣歯科技工士協會

義歯	全部床	一顎	633円75
	局部床	一顎床	151円25
	〃	一歯増毎	37円50
金鈎及代用金属鈎	金鈎	一個	125円00
	特殊鋼(線鋼)	一個	100円00
	フック	一個	20円00
修理	義歯修理	一ヶ所	200円00
	〃	一歯増毎	37円50
インレー	金及はカラット金	一個	100円00
	銀合金	一個	100円00
金属冠	金冠	一個	200円00
	合金冠	一個	125円00
架工歯	金(ターミー)	一個	220円00
	合金(ターミー)	一個	250円00
	鑞着	一ヶ所	50円00
継続歯	レヂン裏装	一個	218円75
リンガルバー及バラタルバー	特殊鋼	一個	250円00
	不銹鋼	一個	150円00
備考	上記ノ料金ハ(金製作品ヲ除ク)材料代ヲ含ム		

昭和28年

◇第３期(27年度)講習会終了(３月１日)

修了証書

昭和二十七年度歯科補綴学講習会過程を終了せしことを証す。

昭和二十八年三月一日

愛知県衛生部
愛知県歯科医師会
愛知県歯科技工士協会

27年２月から続けてきた第３期学術講習会を終え、閉講式。受講者に修了証書（上）を授与。

◇理事長を会長に改める(９月12日)
総会で、理事長を改め会長とする。支部は熱田南、瑞穂、中東、昭和、千北、西、瀬戸、一宮、知多、挙母、岡崎、幡豆、東三の13になり、会の体制が整ってきた。
◇「愛歯技会報」発行
はがき等で出してきた会報を９月発行からタブロイド版にし、「愛歯技会報」と名付けた。

昭和29年

◇愛知県歯科技工士会に改称
総会で規約の一部を改正して会名を改称。

昭和30年代

永年の悲願だった歯科技工法制定に伴い施行されることになった歯科技工士試験対策として、翌31年から学術講習会を開始した。その講習会目当ての入会者も多かった。

近隣県技との交流が始まり、本会はリーダー的立場になった。

技術向上指向が高まってきて、学術研鑽や研究発表の場として学術大会・学会が多く開催されるようになった。

県内はじめ各地に歯科技工士養成所設立の動きが起こって、その対策を講じた。

事務所を借用して開設、常勤職員を採用（39年）。

昭和30年度

◇全国の歯科技工士組織（日本歯科技工連盟）に加入して、歯科技工士資格獲得運動を繰り広げた。

◇定時総会

◇初の雑誌型会報を発行（９月１日・10月30日）

◇歯科技工法が成立（８月16日）

第22特別国会に政府提出の歯科技工法案は７月15日の参議院で修正可決され、７月29日の衆議院本会議で修正案通り可決成立した。

法律第168号として交付され、10月15日から実施された。

◇法制定祝賀大会（10月30日、名古屋市商工会議所）

多数の来賓を迎えて、法制定を祝った。会員94人出席。

昭和31年度

◇定時総会（４月22日、名古屋日赤病院）

互助会の設立、講習会の日程などを決めた。

◇免許試験のための講習会を開く

法制定に伴い、実施される試験対策として５月から半年間、毎月３回、名古屋大学医学部講堂において開いた。

科目及び講師（敬称略）

全部床義歯学	粥川鋼三、杉山　茂
充　填	金森雄三
部分床義歯学	河合　男
矯正学	三輪忠雄
歯牙解剖学	奥田継一、杉山　茂
関係法規	西野鎌一
継続架工学	高田徳也、粥川鋼三
歯科理工学	柘植精一、山口鎮彦

◇会員多数、第１回歯科技工士試験受験

学説試験　昭和31年10月28日

県立熱田高校（名古屋市）

実地試験　昭和31年11月６・７・８日
県商工館（名古屋市）
受験者数287人
合格者　266人（合格率92％）

◇定時総会（３月３日、名古屋日赤病院）

◇代議員会（３月24日、名古屋大学共済会館）
役員選挙を行い、副会長・理事・監査を決めた。

◇東海北陸地区歯科技工士会親睦会に出席（３月31日、岐阜市）
近県の歯科技工士会が新しく機構を結成、名称（東海北陸地区歯科技工士会連絡協議会）など骨子を決定。

昭和32年度

◇第２回代議員会（４月11日、豊橋保健所大講堂）

◇第１回東海北陸信越地区歯科技工士会連絡協議会に出席（８月４日、岐阜市金華山＝**写真**）
９県歯科技工士会で連絡協議会を発足。

◇受験のための講習会
〈講習科目〉
歯牙解剖・理工・全部床義歯・部分床義歯・継続架工・充填・矯正・関係法規
〈講師〉11人

◇会員多数、第２回歯科技工士試験受験
学説試験　10月13日　明和高校
実地試験　10月20日　県商工館
受験者数　93人（うち会員72人）
合格者　82人（うち会員63人）

◇**歯科技工法制定記念祭**（11月３日、名古屋市・丸栄ホテル）
会員百余人出席。各方面から来賓を迎え、記念祭を行った。

◇定時総会（２月16日、名古屋大学医学部）定時総会終了後、第３回代議員会

◇第４回代議員会（３月23日、一宮市剣正会館）

昭和33年度

◇東海北信越地区歯科技工士会連絡協議会に出席（６月22日、名古屋大学）



初めて開かれた東海北信越地区歯科技工士連絡協議会（昭和32年）

続いて学術講演会　河辺清治・東京歯科大学教授を講師に局部床義歯について

◇歯科技工学会（8月17日、名古屋大学講堂）

本会初の学会を開催。

〈講師〉近藤三郎先生（三金K・K）
高木芳雄先生
（名古屋大学病院）
伊藤　県技官（厚生省）

◇第2回歯科技工法制定記念祭（10月19日、名古屋市労働会館）

会員・家族約150人が出席。

〈顕彰者〉（敬称略）

県知事感謝状

二村貴祐一　中野秀茂　横山　実
桂木正之

会長表彰

安田鎌一　岩見重朗　鷲見時男
辻野金光　高木半兵衛　鈴木徳男
原田　至　中部歯科社　一宮支部

◇歯科技工士試験審議委員会委員に村井瀞一会長も

◇第5回代議員会（2月24日、岡崎市「巽閣」）

◇定時総会（3月29日、名古屋市・社会文化会館）

昭和34年度

◇臨時総会（5月24日、名古屋大学）

◇第6回代議員会（5月31日、犬山市三光荘）

◇第2回歯科技工学会（9月20日、名古屋市・社会文化会館）

「上顎狭小歯弯において歯槽頂外陶歯排列により好結果を得た一例」森博史

「私の考案した円錐台」

「鉤用金属14Kの鋳造後における急・徐・放冷が弾性に及ぼす影響」
仲野秀茂

「床用レジンの加熱重合温度について」　渡会和博

「精密鋳造床の作業工程と金属の性質について」　二村貴祐一

〈特別講演〉

「加水埋没材と金属の収縮」
手塚而至研究所長

「技工士の社会的経済評価」
鈴木吉夫技工所部委員長

「法医学と歯学」
古田・名大法医学博士

◇伊勢湾台風で会員多数被災（9月26日）

台風災害緊急対策本部を設置、被災会員の被害状況を把握し救済した。記念祭・野球大会の事業予算を見舞金として使用することに決定。

会員の被害状況

家屋全壊・流失・床上浸水＝24人
家屋半壊・床下浸水＝26人

全国の会員から友愛の義援金・見舞金が寄せられ、被災会員の大きな励みとなった。

◇第7回代議員会・定時総会（2月28日、名古屋大学）

◇歯科技工士養成所設立問題

本県においても歯科技工士養成所設立の動きがあり、県知事および歯科医師会に公式声明文（＝次頁）を出した。

昭和35年度

◇第8回代議員会（6月5日、蒲郡文化センター）

◇県医務課と協議会（7月11日、県文化会館）

福田医務課長・村瀬次長・井上係長と見習い技工士・免許試験・養成所設置などを協議。

◇第1回東海4県対抗野球大会に参加（7月31日、水道公園稲葉地グラウンド）

◇第1回機構改革審議委員会

規約・選挙規定・互助会規定の改正、表彰規定の策定、会費前納制、会計経理の検討など。

◇第5回歯科技工法制定記念祭および学術研究発表会（10月16日、名古屋市・社会文化会館）

法制定記念祭を学術研究発表会を兼ねて開催。同会場において記念パーティー。

〈研究発表〉

▷「小設備で出来る圧印床製作法」　谷前正道

▷「技工室の衛生について」高松宏允

▷「ポンティックのデザインと歯槽頂との関係について」　仲野秀茂

▷「鋳造ダミーの材料節約の一考察」　安田鎌一

▷「正しいレジン歯の作り方」　二村貴祐一

▷「顎外矯正固定装置に就いて」　浅井貞雄

要望書

歯科技工士養成所設置に関する件

右の件に就き仄聞する処に依りますと、名古屋市国民健康保険実施に当り、貴会に於て、その条件として歯科技工士養成所設立の件が立案されて居るやに承り居りますが、弊会としての見解は将来は中部地方の大県としての愛知県には一養成所の設立は必要では有るが、歯科大学が設置されようとしている現在に於ては、左記の理由により之が設置方延期願い度く御再考方お願い申し上げます。

記

昨年度、新潟県及び沼津市に於ける養成所問題があり、その節の全国の統一した見解として

①歯科医師数と技工士数のバランスを考慮する事

②教育内容が統一している事

③養成所の設備が完璧である事

④企業を伴はない事

⑤以上の観点より養成所は歯科大学の附属とする事が望ましい。

以上の様になっているのでございますが、過去に於ける野放しな技工士の養成に依り過剰な技工士数となり、之が社会的道義的な問題となり、第二十二国会に於て技工法が施行された事はご承知の通りであります。私共の職業は他の一般の職業の如く、大衆を直接の対象とする職業ではなく特定な先生方を対象として居るのでございます。

かゝる見地より、歯科技工士の養成は名古屋市内歯科医師数との比例の上にたって見るべきもので、徒らに多数の歯科技工士を育成する事は数の過剰から生活のためとは言え、その職業柄、陥い易い歯科医師法違反行為の道へと追い込むに等しい条件を作り、又過度の競争から粗悪補綴物が氾濫し医療衛生行政は甚しく阻害される事は必然であります。

試みに名古屋市内の場合を考へて見ますと、技工士数は非会員を入れて約二百名で平均年齢二十九才となって居ります。厚生省案の如く歯科医師数三に対し、技工士一名としても過剰な歯科技工士数となって居るのであります。その上に、夜間四年制の養成所の設立という事になりますと、昼間は必ずや医院に勤務し、入学当初より現在の歯科技工士を圧迫し、尚且、歯科技工法をも犯す事となり、又夜間なれば、当然遠隔地よりの通学不可能となり、設置される名古屋市内に技工士が集中する事は必然であります。又平均年令の若さは今后の技工士能力の増加と自然減の少なさを表わして居るものと思考されます。

以上の理由を名古屋市人口並び歯科医師数の増加率と歯科技工士数の比例を勘案し、歯科医療の向上の為に養成所の正しい有り方を御理解頂き衷心より善処方をお願いします。



日本歯科技工学会が初めて本県（愛知学院大学）で開催された（昭和36年）

〈特別講演〉
▷「ポーセレン・ジャケットクラウンの製作実技」
亀田義人　松風陶歯研究室
▷「総義歯の印象採取から装着まで」（８ミリ映画）
粥川鋼三　歯科医師

◇歯科技工士養成所設立問題で、関係者および団体に要望書（前頁）を提出。

◇医療保険改革総決起大会（県歯科医師会主催）（２月15日、名古屋市）
県歯科医師会が主催で決起大会に本会も支持団体として協力、支援文を送った。

◇第９回代議員会（２月26日、中区児童会館）

昭和36年度

◇昭和36年度定時総会・第10回代議員会（５月28日、瀬戸市民会館）

◇第４回日本歯科技工学会（日技主催）が本県で開催（９月24日、愛知学院大学歯学部講堂）
〈研究発表〉全国会員代表７人
〈特別講演〉
「義歯の自浄制作用について」
粥川鋼三先生
「特殊硝子歯ビドロについて」
竹花庄治先生

◇定時総会・第11回代議員会（２月25日、名古屋市・社会文化会館）

昭和37年度

◇第12回代議員会（５月27日、西尾市役所）

◇定時総会・代議員会（６月３日）

◇東海４県歯科技工士会総決起大会に出席（６月10日、県歯科医師会館）
歯科技工法の一部改正を求める決起大会が開かれた。

〈スローガン〉
○歯科技工士の教育年限の延長を実現させよう
○歯科技工法の業務法から身分法に改革しよう

◇学術研究会（9月30日・10月28日・11月18日）
竹花庄治愛院大歯学部助教授により。

◇臨時総会・代議員会（11月25日、西尾市保健所）

◇東海北信越ブロック歯科技工士学校教育制度改正期成大会に参加（12月2日、国立金沢病院）
現在の教育制度(中学卒業後3ヵ年)を改め、歯科技工士の技術向上を求める期成大会。決議文を採択し厚生省など関係当局へ働きかけることにした。

◇定時総会・代議員会（2月16日、名古屋市・中村区児童会館）

◇東海3県歯科技工士会主催　歯科技工士教育制度改正期成大会に参加（3月17日、会場不詳　愛知県内）

次のスローガンを決議

> われわれ技工士の勤務制度に将来の保障給与体系を確立せよ！
> 技工士の社会的地位向上のため学制改革に努力せよ！
> 医療制度の不備を叫び保険医療点数改正を要求せよ！

昭和38年度

◇定時総会・代議員会（5月26日、半田市・知多神戸公民館）

◇第1回東海北信越学術研究発表会を主管（7月7日、愛知学院大学歯学部）
初めてのブロック学会の当番県として開催運営。

〈研究発表〉（関係分）
▷「ポーセレンクラウンについて」
小林忠男
▷「義歯床歯肉形成の一方法」
渡辺忠夫
▷「義歯調整における音声的諸問題」
高松宏允
▷「型ごと埋没鋳造法における表面粗さについて」　森　博史

〈特別講演〉
▷「私の義歯観」
松田　進名古屋大学教授
▷「クラウンブリッヂについて」
竹花庄治愛知学院大学歯学部教授
同時に総義歯作品コンクール（本会主催）の展示も行われた。出品総数73ケース。

◇定時総会・代議員会（2月16日、名古屋市・中村区児童会館）

昭和39年度

◇定時総会、39年度前期代議員会（5月24日、豊田市・農林会館）

◇事務所を設ける
それまで歴代会長宅を事務所として使用してきたが、独立した事務所を設置、常勤職員を雇用。

＜事務所＞
名古屋市西区江川端町5－7
伊藤金次郎方

◇東海北信越ブロック連絡協議会に出席（6月27日、名古屋市・共済会館）

◇臨時総会（9月27日、会場不詳）
社団法人設立と団体保険加入について審議。

昭和40年代

歯科医療技術の高度化につれ、より高レベルの学術・技術が希求される時代になり、43年から３年間にわたって補習教育を実施した。

５年越しの懸案であった社団法人化がやっと認可された。(45年)

その年、事務所を名古屋市西区弁天通り比良政ビルに移転。

県歯科医師会が発表した歯科技工助手養成講習会が、全国の会員をもいたく刺激し、日技と県歯科医師会が本県を舞台に対立した。(47年) ２年後円満に和解。

この問題が係争中のところへ、県内に私立歯科技工士学校設立の波が押し寄せ、その対応に追われた。(48年)

昭和40年度

◇歯科技工士法制定10周年全国大会に参加（５月10日、東京都・椿山荘）

本会からも多数の会員が参加した。

◇学術講習会（講師、敬称略）

第１回（５月16日）

関係法規・環境衛生　松田瑞穂　県医務課係長

関係用語について　仲野秀茂学務部長

第２回（６月20日）

理工学　川上道夫

歯冠補綴　関谷昭雄

都築　億

第３回（７月18日）

局部床義歯　杉山　茂

第４回（８月22日）

歯冠補綴　高木一郎

竹内弘毅

第５回（９月19日）

理工学　川上道夫

歯冠補綴　中野悦次

第６回（10月17日）

教養講座　佐橋治雄

関係用語について　仲野秀茂学務部長

◇「会史」発刊（10月５日）

歯科技工法制定10周年を記念して、本会初の会史を発刊。

◇**歯科技工法制定10周年記念祭**（10月10日、名古屋市・都ホテル＝**写真**）

記念式典と交歓パーティーが行われた。



◇定時総会（２月27日、名古屋市・東海銀行柳橋支店）
◇代議員会（３月27日、名古屋市・東海銀行柳橋支店）

昭和41年度

◇前期代議員会（５月29日、豊川保健所）
二村会長「学歴延長問題も、５月20日付官報で告示され、ひと区切りが着いた。」
◇東海北信越ブロック協議会に出席（７月24日、岐阜県養蚕会館）
◇臨時総会（11月３日、東海銀行柳橋支店）
二村会長は、体調不良のため辞意を表明。臨時総会で執行部は総辞職。
新会長に永野志農夫氏が満場一致で決定。
◇勤務者部総会（11月20日、東海銀行浄心支店）
◇学術講演会（１月29日、愛知学院大学歯学部）
「金属焼付ポーセレン及び硬質レジンの審美的補綴について」　桑田正博
400人が出席。
◇後期代議員会（３月５日、東海銀行柳橋支店）

昭和42年度

◇補習教育開始（５月21日）
このほどの歯科技工士教育制度改正に伴い、趣旨に対応して、レベルアップを図るため向こう３ヵ年にわたり、補習教育を実施した。愛知学院大学歯学部の教室・施設を借り、同大学の教授陣を講師に行うもの。
〈当年度日程、科目は不明〉
５月21日開講式、６月18日、７月16日、８月20日
◇前期代議員会（６月４日、春日井市公民館）
◇名古屋市長より感謝状（11月25日）
本会は昭和39年以来、県歯科医師会が事業として行っている老人福祉施設慰問診療に協力、義歯の修理・補修などを行って、施設の人たちに喜ばれてきた。これに対し感謝状が贈られた。

感謝状

愛知県歯科技工士会　殿

貴会は昭和三十九年以来毎年市内老人福祉施設を診療奉仕等で慰問し老人の福祉向上に寄与されました。ここに記念品を贈り感謝の意を表します。

昭和四十二年十一月二十五日

名古屋市長　杉戸清

◇第８回日技学会に参加（10月８日、長崎市国際文化会館）
〈研究発表〉（関係分）
「全部床義歯重合時の咬合高径の変化」
町田正博

昭和43年度

◇後期代議員会・総会（４月７日、東海銀行柳橋支店）
◇前期代議員会（６月９日、岡崎市歯科医師会館）
◇東海北信越ブロック会に出席（６月23・24日、伊豆下田市）
◇第４回東海北信越ブロック親善野球大

会に参加（９月23日、名古屋市港区・住友金属工業グラウンド）

前日に名古屋駅前・長谷川旅館にて前夜祭

◇補習教育（第２年度・愛知学院大学歯学部）

５月26日　キャストクラウン　竹花庄治教授
６月23日　〃　（実習）　同
９月15日　局部床義歯　橋本京一助教授
10月13日　理工学　相　三衛教授

◇名古屋市歯科医師会との役員懇談会（２月１日、同歯科医師会館）

◇岩見専務、沖縄歯科技工士会を訪問（２月９日）

岩見専務は、沖縄を訪れ沖縄歯科技工士会にあてた永野会長の「メッセージ」（＝下）を謹呈、本土復帰が実現した時の歯科技工法の適用、対策等についても役員と懇談した。

◇沖縄歯科技工士会会長からメッセージ（３月１日付＝次頁）

先に永野会長が沖縄歯科技工士会会長に送ったーメッセージーに対し、城間会長より、返礼のーメッセージーが

「メッセージ」

謹　呈

貴地においては既に陽春の候と遠察致して居ります。

私は、愛知県歯科技工士会々長永野であります。初めて書簡を差上げる機会を得ました事を喜びと致して居ります。

当県に於ても既に民間人に依る沖縄と愛知を結ぶ会等が出来て居り沖縄に対する認識も相当に高まって居るものと思って居ります。

戦後二十余年、同じ日本人でありながら、沖縄のかたがたの御苦労と同じ会長職にある貴殿の御苦労の程御察し致します。然し乍ら漸くにして沖縄の本土復帰の機運も高まり、近き将来には確実に本土復帰も成就するものと確信致して居ります。同業の一員としてこの時期の早からん事を念願致して居ります。御承知の通り本土に於ては昭和三十年歯科技工士法が制定され、其の後に全国技工士の願いであった学制も高卒後二年と吾々の主張を完遂しました。

現在では技工士の社会的評価も高まり、且つ、経済的にも隔世の感があります。

沖縄の本土復帰が実現しますと好むと好まざるとにかかわらず歯科技工士は歯科技工法の制約と権限を持つ様になると思われます。

当然貴会におかれても其の予備的な知識と準備はやってみえると存じますが、丁度弊会岩見専務が貴地に御伺いしますので其の対策等についての経験を御伺い下されば、今後の会の動き方の一助にもなると存じます。特に左の点について御留意下さい。

一、現在の歯科技工士は本土並みの特例歯科技工士となる公算が多い。
二、現在の未入会会員の数の確認と入会の促進
三、受験準備のための自主的な講習会
四、県医務課との緊密な連絡と折衝其の他

今後はこの事態になれば出来る限りの資料又は助言は致します。民間人に依る沖縄と愛知を結ぶ友好団体に発展せん事を期待し、各役員の御自愛と健斗を御祈りします。

昭和四十四年二月八日

愛知県歯科技工士会
会長　永野　志農夫

沖縄県歯科技工士会
会長　城間　富睦　殿

「メッセージ」

拝復

御初に御挨拶申し上げることを最も喜びと致します。　私事沖縄歯技の会長を勤めて居る城間であります。

今度貴会専務理事岩見重朗氏御来沖に際し会長の御寧重且つ温情溢れる激励、助言の御書状を頂き感謝致して居ります。

実は昨年より三金の加藤嘉信氏を介し貴会の専務理事岩見重朗氏とお近か付を得て其の後色々と御助言、お援助を頂いております。

早速正式に御挨拶申し上げる積りで居りますところ、先に会長様より御寧重な書簡を頂き恐縮致して居ります。ここに御挨拶並に御礼の遅れを深く御詫び申し上げると共に厚く御礼申し上げます。

貴会の岩見専務より本土業界其の後の推移進展振りや、特に貴会の全国でも優秀な組織体としての活動、その成果の程を承り羨望と共に心から敬意を表する次第であります。

本当に本土の皆様方が明日の歯科技工士の栄光の為に日夜献身的な御努力の結果歯科技工士法の制定、学制改革、尚其の後の臨時行政調査会の問題等々を見事解決され今日の業界の隆盛を見た事は日技と共に皆様方の血と汗の運動と努力の結晶であり、すなはち団結力のたまもので、私共も同職にある者として特殊地域あるとは申せ、本土の皆様方と目的達成運動に参加出来なかった事を残念に思うと共に幾多障害を乗り越え目的を完遂された功績に衷心より敬意を表す次第であります。

私共も本土復帰を前提の元に努力を続けて参りましたが、なにしろ長い年月異民族の施政権下にあるが故に本土医療界の推移進展又その格差の是正に苦慮致して居ります。

幸いにも貴会の暖かい御支援に預り沈滞気味の当会も生気をとりもどし、この感激を尚一層新に本土復帰を前提の元に今後の推移に対応する基盤の充実と共に本格的活動に取組み本土の皆様の暖い御支援に御答え致す所存で居ります。御願い出来ますれば、今後共親善を深め末長く御交誼を頂きますれば幸甚と存じます。末筆にて恐れ入りますが、増々御活躍並に貴会の御発展をお祈りし右略儀恐れながら御礼と御挨拶まで

敬具

昭和四十四年三月一日

沖縄歯科技工士会
那覇市首里儀保町二の三九
電話　②二二一八
会長　城間富睦

愛知県歯科技工士会
会長　永野志農夫殿

届いた。

◇高圧ガス取り扱い講習会（期日不詳、名古屋市工業研究所）

近年、金属焼付ポーセレンの著しい普及に伴い、使用頻度が高まってきた酸素など高圧ガスの正しい取り扱い方を学ぶ講習を受けた。

学科および酸素・アセチレンガスの取り付けから点火までを実地指導。

〈講師〉

吉田　享・名古屋市工業研究所
金属課長

昭和44年度

◇前期代議員会（6月1日、一宮市勤労会館）

◇養老院を慰問（9月15日）

次の各支部では、各歯科医師会事業に参加、それぞれの地域の老人ホームを訪れ、義歯の修理などを行った。

千種　寿楽院　　中村　青大悲院
中川　誠和院　　南　尾張荘
瑞穂　厚生院　　一宮　和楽荘
春日井　春日井市養護老人ホーム

◇補習教育（第３年最終年度、愛知学院大学歯学部）
５月26日　継続架工学
竹花庄治教授
６月15日　同上実習
竹花庄治教授
９月18日　理工学
長谷川二郎助教授
10月26日　教養講座
加藤孝一教授
終了式
丸本博義県衛生部医務課係長
３年間にわたって実施された補習教育は終了した。

◇第９回日技学会に参加（10月５日、伊豆長岡観光会館）
本会から百数十人。
〈本会会員研究発表〉
「基本的歯冠彫刻の問題点」
西脇雅彦・鈴木克彦

◇鹿児島県技へカンパ金22,722円送る（１月）
鹿児島歯科技工士学院設立反対運動資金カンパ金。

◇アタッチメント講習会（２月15日、県労働文化会館）

◇総会及び代議員会（３月１日、東海銀行柳橋支店）

◇県歯科医師会館竣工式に永野会長出席（３月29日）

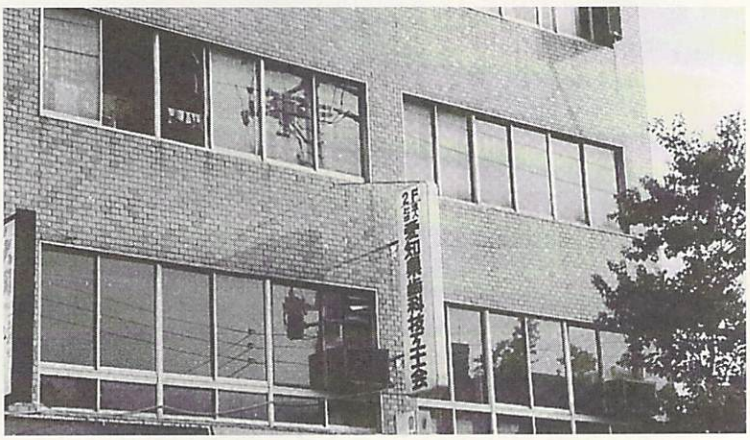
昭和45年度

◇**新事務所に移る**（４月８日）
旧事務所は所有者から、早急に立退きを通告されたため、名古屋市西区深井町比良政ビル２階の一室を借用契約。

◇45年度前期代議員会（６月14日、蒲郡市蒲郡文化センター）
▷会費値上げ可決（新事務所維持運営のため200円値上げ７月から実施）
▷顧問及び相談役委嘱の件承認
顧問：橋本・高橋両県会議員
相談役：二村前会長・鈴木日技会長
▷機関紙部を広報部に改める

◇東海北信越ブロック協議会に出席（７月12日、福井県敦賀市「敦賀観光ホテル」）
永野会長、相馬・藤田・大澤・鈴木各理事出席。

◇歯科技工法制定・日技創立15周年記念大会に参加（８月９日、東大阪市民会館）
本会はバス２台をチャーターして100余人が参加。



昭和45年から25年間借用した比良政ビルの事務所

表彰者（関係分・敬称略）
▷役員功労者
二村貴祐一、亀田昭治、社本昇貴、鷲見時男、岩見重朗、永野志農夫
▷功労会員
鴻巣博司、尾崎藤利、八木謙一、辻野金光、安藤　進、加藤芳松、横山　実、桂木正之
▷学術功労者
仲野秀茂、高松宏允、森　博史、横井欣弘、町田正博、鈴木克彦、西脇雅彦
▷長期功労者
大橋虎一、有賀半三郎、山田晴康
▷永年勤続者・45人（氏名略）

◇沖縄歯技役員と懇談（8月12日）
沖縄歯技中地会長はじめ役員5人は、大阪における日技15周年記念大会に参加のあと、関係行政機関への陳情のため上京途上、本会の役員と懇談、本会から　永野会長、岩見・小林両副会長、大沢、藤田、河合、木戸、鈴木（弘）各理事が出席。

◇東海北信越親善野球大会で初優勝（9月14日、長野市民球場）

◇学術講演会（10月25日、協栄生命大ホール）
テーマ「現代補綴と咬合概論」
村井俊郎兵庫県歯科技工士学院講師

◇社団法人設立認可（11月5日）
5年の歳月を要して、ようやく社団法人設立の認可が下りた（次頁）。永野会長は、「法人認可の感激もさることながら、認可までのあまりにも長かった夜明けゆえに闇のつらさが、ひとしおであった」と述懐されて法人化への道のりは、決して容易ではなかった。

最も問題となった点は、やはり歯科医師の陰にあって、「独自の立場で積極的な公益活動ができるや否や」という点であった。執行部は歯科医業界にあって補綴部門の大半は歯科技工士が受け持っていること、その技工士の学術のレベルアップを図ることによって、最終的には理論的、機能的な技工が520万県民の健康に影響することなどを強調した。監督官庁である県医務課では理解を得られたが、文書課において大変な時間を要した。

しかし、歯科技工法制定15周年を迎えるこの機会に、なんとしてもと顧問の橋本・高橋両県会議員を通じ誠意努力してきた結果、社団法人愛知県歯科技工士会として新発足することになった。

◇社団法人設立、歯科技工法制定15周年記念式典（11月22日、ホテルナゴヤ



ホテルナゴヤキャッスルで催された社団法人設立等の記念式典（11月22日）

キャッスル）

◇総会・代議員会（3月7日、名古屋栄「協栄生命ビル」）

法人設立第1回総会。

社団法人愛知県歯科技工士会定款の承認を求める件は、満場一致で承認。

公益法人としての記念事業に、アイバンクへの預託、募金箱、学術資料の整備などを盛り込んで承認された。

〈高齢者顕彰〉　山田晴康氏（西）

（第7号用紙）

45指令医第98号

名古屋市西区深井町1番地

社団法人　愛知県歯科技工士会

設立代表者　永野志農夫

昭和45年10月21日付で申請の社団法人愛知県歯科技工士会の設立は、民法（明治29年法律第89号）第34条の規定により許可します。

昭和45年11月5日

愛知県知事　桑原幹根

愛　知　県

登記簿謄本の写し

名　称　社団法人愛知県歯科技工士会
事務所　名古屋市西区深井町一番地
役員に関する事項
　氏名省略
目的
　この法人は歯科技工士の資質の向上をはかり、学術的研究をなし、歯科医療の普及および向上に寄与し、社会福祉を増進することを目的とし、この目的を達成するため次の事業を行う。
(1) 歯科技工の技術向上のための教育に関する事業。
(2) 歯科技工に関する技術の研究および開発に関する事業。
(3) 歯科技工に関する研究発表。
(4) 歯科技工資材の改良および研究に関する事業。
(5) 歯科衛生知識の普及に関する事業。
(6) その他、本会の目的を達成するに必要な事業。
その他の事項
　資産の総額
　金　六、〇五九、九一三円
法人成立の年月日
　設立許可の年月日
　昭和四十五年十一月十八日
登記用紙を起こした事由及び年月日
　設立
　昭和四十五年十二月一日登記

昭和46年度

◇学術研究発表会（4月14日、愛知学院大学歯学部大ホール）

〈研究発表〉

▷「リバースピン穿孔器の紹介とそのテクニックについて」
古畑正士（海部）

▷「型ごと埋没法におけるスプルー線植立時の一考案」
大野武夫（一宮）

▷「歯科用Co-Cr合金線の熱加工による弾性の変化について」
安田善郎（東北）

▷「鑞着法による位置的変化について」　山田剛人（千種）

▷「歯肉形成に関する一考案」
福井理介（千種）

▷「間接法矯正用バンドの調整法」
横井欣弘（千種）

▷「新しいキャストパーシャルデンチャーの考え方」　二村貴祐一（西）

▷「天然歯冠形態を応用する蝋形成法について」　杉浦伸吉（中川）

▷「臼歯におけるアルミナス・ロッドを利用した一製作法」
浅井貞雄（知多）

▷「粉・液（水）計量器の試作について」　山田剛人（千種）

▷「ニッケルクローム合金のフルクラウンについて」　岩見重朗（中昭）

◇東海北信越ブロック協議会に出席（4月25日、富山県宇奈月）

◇日技代議員会に出席（5月3・4日、東京）

◇東海北信越ブロック技工業対策小委員会に出席

◇第1回ボウリング大会（5月30日、岡崎スポーツガーデン）

◇総会・前期代議員会（6月6日、半田市「半田信用金庫ホール」）

◇歯科三歯会設立総会（6月12日、県歯科医師会館）に参加

国民医療の充実を目指す三歯会（県歯科医師会、本会、県歯科衛生士会）の設立総会が開かれ、規約などが満場一致で可決された。

◇老人ホーム診療慰問に協力（7月11日）

中村・春日井両支部は、それぞれの歯科医師会に協力して「青大悲院」「春日井市養護老人ホーム」を訪れ、義歯修理などにあたった。

◇東海北信越ブロック親善野球大会で優勝（7月18日、三重県長島温泉グラウンド）

◇県医務課との懇談会（8月19日）

永野会長・相馬専務・藤田・大澤両理事出席

◇第1回学術研究会（8月22日、本会事務所）

出席30人

▷「正しいサベヤーの使用法」
浮田恵司・愛知学院大学歯科技工士学校講師

◇第10回日技学会に参加（8月28日・29日、札幌市民会館）

本会からは、家族を含め35人が参加。

〈研究発表〉（関係分）

▷「間接法による全帯環矯正装置の一調整法」　横井欣弘（千種）

▷「粉・液（水）計量器の試作について」　山田剛人（千種）

▷「全部鋳造冠、ニッケルクローム合金使用時における高温埋没材」

岩見重朗（千種）

〈テーブル・クリニック〉（同）

▷「間接法による矯正バンドの一応用法」　横井欣弘（千種）

◇県歯と技工料金改定問題で話し合い（９月25日、歯科医師会館）

県歯から中田専務、吉兼常務ら10人、本会から技工所部の下村理事ら４人が出席。

◇学術特別講演会（10月24日、名古屋栄「協栄生命ビル」）

〈演題及び講師〉

▷「ツルバイトE・P・Fデンチャーテクニック」

古賀和憲（デンティストサプライ社技術指導員）

▷「人生と禅」

中村宗一（曹洞宗善篤寺住職）

▷デンティストサプライ社新製品の紹介とデモンストレーション

◇第２回ボウリング大会（10月31日、富士西ボウリング場）

53人が参加。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（３月５日、金沢市中小企業会館）

永野本会会長がブロック長に再任される。

◇総会（３月12日、県中小企業センター）

会長に村井瀞一氏が当選した。

◇県歯科医師会と懇談（３月16日）

藤田・鈴木両理事と４月より就任する村井会長、山本・小切間両理事が出席。

昭和47年度

◇歯科技工資料館を設置（４月１日）

技工法制定15周年と社団法人の認可を記念して、事務所内に歯科技工資料館を設置。

歯科技工に関する器材・文献・史資料などを、会員からの寄贈、協力を得ながら収集、参考資料として永く保存管理していくことになった。

◇代議員会・総会（５月21日、豊橋市立体育館）

◇日技代議員会に出席（６月４・５日、東京）

本会から村井、高松、大澤、後藤、永野の５氏が出席。

◇第２回愛知県歯科技工学会（６月25日、愛知学院大学歯学部大講堂）

県外からの参加者も含め100余人が参加。

〈研究発表〉（関係分）

▷「乳歯義歯の目的と製作時の注意点について」

服部貞夫（東北）、馬嶋正幸（南）

▷「副模型による有床義歯製作について」　可児英司（東北）

▷「技工用器具、機械のアイデア集」

小柳津純男（千種）

▷「遠心鋳造機による金属の鋳造性について」　村松恒夫（千種）

▷「Bimleradaptor（Gebissformer）の製作法について」　横井欣弘（千種）

▷「Swimg lock Attachmentの製作法及びその一症例について」

山本武司（瑞穂）

▷「歯科技工士から見た最近のインプラント」　中尾昌光（千種）

▷「蝋型の埋没位置による鋳造体の膨縮数値について」　大岩正雄(南)

〈学術映画〉(而至社提供)

「歯科鋳造の湯流れ」

「鋳造欠陥と金属の溶かし方」

〈スライド〉

「目で見る技工室訪問」設備の整ったラボラトリーを取材(学術部)

◇県歯科衛生士会と初めての懇談会(6月13日、東海銀行主税町クラブ)

本会からは大沢、水野両副会長と鷲見理事が出席。

◇代議員会(7月2日、名古屋市公会堂)

歯科技工助手養成の件

経過説明、鋭意討議の結果、改めて県歯側に対し「決議文」をもって強く抗議することを決議した。

決　議

今回、愛知県歯科医師会が行おうとしている、歯科技工士助手養成所問題に付き、技工士会が強く反対しているにもかかわらず、計画を推し進めている事は明らかに法を無視し、自分達の目先の利益に走る、非人道的行為のみとしか取る事が出来ないので有ります。

現在、社会的問題に成っている非医師行為たるも、元は歯科医師が教えたのです。そしてやらした医師は罰せられず、社会の矛盾をここでも新しく作ろうとしているのです。即ち技工士、衛生士の公的モグリを作る助手養成に断固として反対致す事を、7月2日愛知県歯科技工士会代議員会総会において決起反対を致す事を決議致しました。

愛知県歯科技工士会会長
村井瀞一
愛知県歯科技工士会
代議員会議長
後藤正夫

◇県歯科医師会歯科技工助手養成計画に反対

▷日時・9・10月インレーコース(1日4時間8回)、11・12月クラウンコース(1日4回9回)、1・2月デンチャーコース(1日4時間12回)

▷人員・各コース共24名。

▷資格・歯科助手の経験が1年以上あること。ただし、1年未満の者でも認めることもある。

▷県歯科医師会、技工助手養成の内容

歯科助手は短期養成で技工助手は長期養成となる。保険点数が安いので技工面の効率化をねらいとする。なるべく技工士会を刺激しないように進める。法律的にあくまで先生の歯科助手であって技工所を開設するものではないので技工士会に了承を願っている。(愛歯月報4月号より)

◇決議文をもって抗議(5月30日)

県歯科医師会に対し、反対の申し入れ書を提出

〈6月〉

8日　県歯科医師会中田専務と会談
村井会長・大沢副会長両氏

11日　技工料金問題と技工助手問題について、別個に会談したい旨県歯科医師会に申し入れ。

20日　県歯科衛生士会と懇談。

〈7月〉

2日　本会代議員で決議文をもって強く抗議することを議決。

15日　抗議文書を県歯科医師会に提出。県・市医務課、県歯科衛生士会、愛知学院大学歯学部、その他関係諸団体にも。

28日　県医務課長と会談、県議会の環

境衛生委員会で検討してもらう。
31日　日技役員と会談、歯科技工法を守るため、裁判闘争へ移行。

〈8月〉
6日　理事会1人500円の資金カンパを決める。
7日　県下の歯科医師全員に技工助手養成反対の決議文を郵送。
8日　田中平八日技顧問弁護士が来名、名古屋地裁に講習会など開催禁止仮処分を申請する。(大沢・山本・小切間)。
16日　服部茂雄県議会衛生環境委員長と会談。
17日　名古屋地裁で、仮処分申請の審問が行われた。県歯科医師会側、講習会を2ヵ月間延期を決める。朝日新聞の記者に仮処分の件を発表。
21日　県衛生部長、課長と会談(村井・千賀)。
27日　尾張・三河ブロックが決起集会。
28日　名古屋ブロックが決起集会開催。

◇第1回口頭弁論(9月8日)

技工助手養成講習中止の仮処分申請に対する第1回口頭弁論が、名古屋地裁で開かれた。

(日技から)田中弁護士、尾上副会長、酒井専務、中村・亀田両理事(本会から)村井会長、水野副会長、高松専務はじめ理事・支部長ら多数傍聴。

◇技工助手養成反対総決起大会(9月26日、名古屋市中区役所ホール)

会員はもとより、全国から駆けつけた支援者ら900余人、村井会長は「これは明らかに技工法の空文化であり、断じて許せない」と述べ、高松専務がこれまでの経緯を報告した。ついで中筋日技会長が「われわれは、国民医療の向上を願って最大の努力を払っている。歯科技工法は歯科医療の前進に絶対必要なものだ。歯科技工法を守り、生かさなければならない。われわれは、良識に従って行動しよう」

また、横山衆議院議員、公明党の井上・松田両市会議員らが、次々と登壇、力強い激励の言葉が寄せられた。

決議文と次のスローガンが満場一致で採択された。

▷歯科技工士の生活権の侵害を許すな
▷5項目、歯科技工法を空文化させるな
▷歯科技工士に対する歯科医師の奴隷的な考えを改めよ
▷歯科医療を低下させるニセ技工士をつくるな
▷法律違反の歯科技工助手養成計画をすぐやめよ

大会終了後、参加者は会場から県歯科医師会館前、県庁へのコースを、パトカーの先導でデモ行進、通行人にも実情を訴えた。知事宛の決議文を提出。

この模様は、テレビ・新聞等でも大きく報道された。

◇第2回口頭弁論(10月18日)

日技より中筋会長、本会から参考人として村井会長、田中弁護士が出廷。

◇仮処分申請却下される(11月22日)

名古屋地裁高橋爽一郎裁判官は、この申請を却下した。

「技工士が営業上の利益を受けることは歯科技工法で否定できないが、同法は営業上の利益を保護する趣旨のものではない。単なる反射的利益に過ぎず、技工士には仮処分によって保護さ

れる被保全権利はない」と述べている。しかしながら本会としてはこの判決には納得できず、直ちに名高裁へ上告の手続きをとった。

◇第４回東海北信越歯科技工学会に参加（９月23日、岐阜産業会館）

◇緊急臨時代議員会・総会（11月12日、中産連ビル）

県歯･歯科技工助手養成問題　県立･私立歯科技工士学校について。私立学校設立問題に連座した、永野・大澤・河合の３氏を、本会の基本理念に反するものとして、除名処分に決定。

◇代議員総会（３月４日、東別院青少年会館）

昭和48年度

◇臨時総会（４月８日、県薬剤師会館）

前年度３月の代議員総会において、村井会長以下理事全員の辞表が提出されていたが、今総会で支持された。

村井会長は「裁判等の問題に関しては、その責任を痛感しているが、名を捨てて実を取り、それなりにやっただけの効果はあったと信じている。今後の任期を会員諸氏の協力を得てことに対処したい」

◇第５回ボウリング大会（５月27日、ロイヤルボウル知多）

31人参加

◇代議員総会（６月３日、犬山市福祉会館）

来賓の森下昭司社会党県本部委員長は、「県立の歯科技工士学校設立請願の取り扱いについては、皆さんからのご要望があり次第窓口となって、県や市などへ働きかけたい。そして皆さん方の専門職としての身分を確立する６つの基本構想に協力したい」

◇東海北信越ブロック協議会に出席（６月17日、長野県「下諏訪プリンスホテル」）

村井会長、千賀専務、小切間理事、奥藤理事、岩見監事、鈴木（吉）相談役が出席。

◇第３回愛知県歯科技工学会（６月24日、愛知学院大学歯学部講堂）

〈研究発表〉

▷「簡単に出来るファーネスについて」
高松宏允（江南）

▷「固定式保隙装置の目的と製作時の注意点について」
馬嶋正幸（南）服部貞夫（東北）

▷「一塊鋳造Bridgeの鋳巣発生防止におけるスプルー線植立方法」
丹羽治一（瀬戸）

▷「歯科技工作業における自覚疲労調査について」
古畑正士　渡辺守和　塚田信朗
（津島歯科総合研究所）

▷「ケースレポート」宮地　清（西三）

▷「ラボラトリーめぐり」
学術部（解説　鈴木克彦）

〈シンポジウム〉

「鋳造冠をめぐって」

司 会
森　博史（日技学術諮問委員）

パネリスト
竹花庄治（愛知学院大学歯学部教授）
藤井　忠（歯学博士　開業医・欠席）
長谷川二郎
（愛知学院大学歯学部助教授）
岩見重朗（ラボラトリー勤務）
山田剛人（愛知学院大学歯学部勤務）

◇実技研修会（7月22日、愛知学院大学歯学部）

「鋳造冠のワックスアップから鋳造まで」講義と実習。会員31人が受講。

◇囲碁クラブ7周年記念囲碁大会（7月29日、本会事務所）

囲碁クラブ発足7周年を記念。福祉部が初めて主催。参加者9人。

◇母と子の良い歯のコンクールに協賛（8月22日、県歯科医師会館）

◇中筋勇吉日技会長の日本歯科技工士会葬に参列（8月26日、東京・青山葬儀場）

7月26日死去された、中筋日技会長の日本歯科技工士会葬に、本会からは役員全員が参列、弔意を表した。

◇私立歯科技工士学校設立の申請相次ぐ

各校からは、本会に対して協力を要請してきた。そのため、技工士学校対策委員会（高松・丸山・小切間・横井各委員）を設けて双方との協議を図ることにした。

▷医療法人公仁会名古屋デンタル学院（奥村健二理事長、飯野輔司校長）

名古屋デンタル学院との間で、話し合いを進めてきた結果、文書を取り交わすことで一致。会長並びに理事会も了承。

本会は、名古屋デンタル学院に第一次の講師として14人を推薦した。

▷城西福祉会名古屋歯科技工専門学校（清水勲理事長、永野志農夫校長）

城西福祉会は、「歯科技工士学校設立についてのお願い」の文書が送られてきた。これに対し本会は、日技の基本方針通りすでに県立の歯科技工士学校設立の請願書を出してきている旨の文書を返送した。

◇第11回日技学会に参加（11月3日、京都国際会議場）

本会からは150余人。研究発表者はなかった。

◇総会（2月24日、県スポーツ会館）

村井会長は「県歯の技工助手養成講習会は昨年7月までに50余名の受講者があったが、その修了証が通用するようになっては困る。県歯側は歯科医師のデモを見せるだけと裁判長の前で述べていたが、事実は大違いで歯科医の言うなりになり、手足となってくれる者を求めていたのだ。裁判によって徐々に名目は後退し“技工”の文字は消えた。われわれは好んで争っているのではなく、すべての向上を願って作られた歯科技工法のもとに、それらを明確にするため控訴したのだ。その後も県歯側と度々交渉を重ねてきた結果、紆余曲折はあったがようやく和解の見通しが明るくなってきた」と述べた。

▷相馬栄氏（西）を顕彰、会費値上げ案一律500円アップを可決

▷裁判上告取り下げを可決

▷名古屋デンタル学院設立を承認

▷次期会長に岩見重朗氏を選出

◇愛歯技会報の題字が変わる

佐々木正昭氏（豊田）にお願いして昭和49年1月発行、第116号から「愛歯技会報」の題字が誕生した。

昭和49年度

◇岩見重朗新会長就任

岩見新会長は「われわれは、もっと未来に目を向け、話し合い、譲るべき時は譲り、主張すべき時は主張して、

会と会員のために最善を尽くしたい」

◇代議員総会（6月2日、豊田市勤労福祉会館）

名古屋歯科技工士専門学校設立に関与して47年11月に除名処分された永野志農夫、大澤昭二、河合康男の3氏が復帰。会員同士で争うべきではないと、県衛生部長立ち会いのもとに和解した。

3氏が陳述書を提出し、永野氏が釈明した。

「私自身の徳を欠いた点や誤解もありましたが、技工士会に対して弓を引こうとは全く思っていません。今後も技工士会と協力して、共に仲良くやっていきたい。よろしくお願いします。」

村井会長は「昔なじみの元役員を除名した問題は、当時の状況からやむを得なかったとはいえ、これは執行部の誤りであった。今、われら同志が争い合う時ではない。お互いに力を合わせて歯科医師会と闘わねばならない。日技の酒井専務が仲裁の労をとって下さるので、3氏を速やかに会へ復帰させたい」と、執行部の非を認め、和解への道をとった。

これによって永野氏ら3氏は昭和47年11月12日の除名以来、およそ1年7ヵ月ぶりに復帰した。

◇県歯との裁判問題、和解が成立（6月4日）

昭和47年8月8日、技工助手養成講習会の開催中止の仮処分を名古屋地裁に申請してより、およそ2年間にわたり、全国会員から力強い支援を受けて、日技とともに県歯に対し、裁判闘争を行ってきたが、両者間に和解の機運が熟してきた。県歯と日技・本会との最終会談を持つに至り、県歯は「技工助手養成は行わない」日技は「控訴を取り下げる」ことで和解が成立した。この会談には、県歯から中田会長以下7人、日技から森谷会長、酒井・尾上両副会長、佐野・亀田両常務、本会から岩見会長、高松副会長が出席した。

◇第4回愛知県歯科技工学会（6月30日、愛知学院大学歯学部講堂）

〈研究発表〉

▷「技工室の環境調査に関する研究第一報　照度について」

塚田信朗　古畑正士　渡辺守和

▷「鋳造精度に関する研究」大崎千秋

▷「分岐点における条件」　中尾昌光

〈映画〉

「総義歯の削合」

（而至社提供アメリカ映画）

〈シンポジウム〉

「メタルボンド・クラウンの問題点」

座　長　竹花庄治

愛知学院大学歯学部教授

パネリスト　長谷川二郎　同助教授

藤井　忠　歯科医師

宮地　清　ラボラトリー経営会員

山田剛人、手島了也

各愛院大歯科技工士学校講師

◇第5回東海北信越ブロック歯科技工学会に参加（11月3日、片山津温泉）

〈本会会員研究発表〉

▷「一塊鋳造Bridgeの鋳巣発生防止におけるスプルー線植立方法」

丹羽治一（瀬戸）

◇臨時総会（2月2日、県スポーツ会館）

大野武雄（瑞穂）加藤久四（千種）両氏に高齢者顕彰が行われた。昨秋叙勲された仲野秀茂氏（昭和）に表彰状。

昭和50年代

定款、規約および施行細則等が大幅に改訂された。(50年)

近年、県内に新設された歯科技工士専門学校からも、多くの卒業生が輩出されるようになってきて、将来、料金問題や労働条件がさらに厳しくなっていく－との危惧が現実味を帯びてきた。そのような中、長年、日技の常務理事を務めた亀田昭治氏が会長に就任。同会長は本会内の融和と団結を基調に本会の発展に努めた。とくに会員の経済基盤の安定に腐心。大変な努力により県歯科医師会と保険歯科技工料金の協定を実現した。友好と協調の精神で合意に達したもので全国から大いに注目され、日技も"愛知方式"と名付けて大きく評価した。(53年)

準備段階でいろいろな経緯をたどった「大学講座」が"難産"の末、学術講座に名称を変更して、54年から3年間にわたって実施された。

社団法人の会としていくらかでも社会に奉仕したい－として献血会を発足させた。(54年)

1年間に262人もの大勢の入会者を迎えて、会員は一挙に50%も増えた（55年)。役員・会員が一丸となった組織拡充運動によるものだった。

東海北信越ブロック学術大会を主管し、県歯科医学大会等と合同開催の形になった新機軸の学術大会の成功は、関係方面から高い評価を受けた。(56年)

昭和50年度

◇定款認可、県知事より通達（4月1日）

◇東海北信越ブロック協議会に出席（4月13日、犬山市迎帆楼）
出席者45人
〈来賓〉飯野県歯副会長
佐野日技専務理事

◇県医務課と懇談（5月23日）
県側4人、本会より岩見会長、高松副会長、田口・丸山・丹羽各理事。

◇第2回学術講習会（5月25日、中産連ビル）
〈講師〉長谷川二郎愛知学院大学歯学部助教授

◇50年度定例総会（6月8日、瀬戸市・愛知県労働者研修センター）
出席者数144人（委任状137人）
▷20周年記念祭の実施を可決

◇岩見会長、飯野県歯科医師会副会長と会談（6月16日）
名古屋デンタル学院卒業生全員入会促進運動。

◇第5回愛知県歯科技工学会（6月22日、

愛知学院大学）
参加者180人
〈来賓〉飯野県歯副会長
杉浦県衛生部副長
岡田名古屋デンタル学院長
永野名古屋歯科技工
専門学校長
〈研究発表〉
▷「上顎骨体欠損部のmaxillary prost hetisの症例について」
川北忠雄
▷「歯科技工作業における自覚疲労調査について」
渡辺守和、谷岡和生、古畑正士
▷「鋳造体外面の鋳造精度に関する研究」
鈴木秀厚
▷「セファログラムを応用した顎態横形の製作法」
横井欣弘
〈特別講演〉
▷「咬合器とその背景」
川口豊造　愛院大歯学部教授
◇岩見会長、厚生省へ　続いて日技組織委員会に出席（7月19日）
◇入会説明会（7月19日、名古屋デンタル学院）
丸山、田口両理事が出向。
◇学校設立の件で会談（7月21日、東海歯科技工士学校）
岩見会長、野村・戸谷準備委員と。
◇岩見会長、県歯科衛生士会評議員会に出席（7月24日）
◇県歯科医師会と懇談会（7月24日）
岩見会長、丸山、田口、津田の各役員が出席、技工料金について懇談。
◇愛知学院大学歯学部長に就任の永井巌教授に、岩見会長、後藤・高松両副会長、奥藤専務理事があいさつに（8月11日）
◇岩見会長、「母と子のよい歯のコンクール」表彰式に出席（8月21日）
本会から10人に賞品を授与。
◇**歯科技工法制定20周年記念式典**（10月12日、名古屋観光ホテル＝**写真**）
500人出席



〈特別記念講演〉
▷「将来の展望」
能美厚生省歯科衛生課長
◇中部日本新聞社会事業団に17,700円を預託（12月25日）
◇桑田正博講演会（2月1日、県歯科医師会館）
「金属焼付ポーセレンについて」
出席者　230人
◇技工所部総会（2月28日、長島温泉）
出席者　180人
◇昭和50年度後期総会（3月7日、県産業貿易館西館）
出席者　101人（委任状　140人）
会長に亀田昭治氏（東三）が全会一致で選出された。
◇法制定20周年記念「会史」刊行

昭和51年度

◇県歯科医師会と懇談会（4月17日、県歯科医師会館）
亀田会長、社本・宮脇両副会長、小切間専務、辻技工所部長、県歯科医師会からは、山本副会長以下数人の役員が出席。当面する諸問題について意見交換。
◇新設歯科技工士学校問題で県と話し合い（4月28日）
亀田会長、小切間専務、県医務課を訪問して東海歯科技工士学校の認可問題で県の考え方、認可までの経過、その他の対策を中心として、話し合いを行った。本会は、業界の将来に対する混乱、歯科技工技術の低下などを訴え、今後噂される新設校問題を含め善処方を訴えた。
◇東海北信越ブロック会に出席（5月15日、東京・中央開拓会館）
ブロック長に亀田、会計に社本の各氏が選出された。
◇51年度前期定例総会（6月6日、蒲郡市民会館）
出席者　110人（委任状　145人）
＜亀田会長のあいさつ＞
歯科技工士を取り巻く諸情勢は、最近とくに厳しく、その対処の姿勢を厳しくしなければならなくなりました。20年の本会と日技の役員の経験を生かし、会員のお力を借りながら、持てる力の全てを挙げて努力し、歯科技工士会の発展に微力を尽くす所存であります。
私たちは技工士会の発展と歯科技工士個々の向上に向けて、強い団結で和を図り、歯科技工士の繁栄を確実に把握したい。
▷組織部、調査統計部の新設が決定。
◇第1回学術講演会（6月20日、中産連ビル）
出席者　70余人
▷「歯科鋳造における失敗の原因とその対策」
井田一夫京都大学医学部教授
◇県歯科医師会との第2回懇談会（8月19日、県歯科医師会館）
当面する問題について双方の考え方を述べ、協調の中で発展を確認。
◇第6回県歯科技工学会（9月15日、県産業貿易会館）
〈研究発表〉
▷「各種咬合器の操作について」
岡崎　誠（名古屋デンタル学院）
▷「全部床義歯製作時における人工歯

の変位ならびに義歯床の変形について」
大崎千秋・可児光弘
（愛知学院大学歯学部附属病院）
▷「一本義歯における鉤歯の保護について」
水野正英（知多）前田大也（瀬戸）
永津義昭・蒔田佳代子
（名古屋デンタル学院）
▷「歯型顎部の歯肉色の再現法」
牧内守雄・鈴木充朗
（愛知学院大学歯学部附属病院）
▷「王水分析」　安間義紀（中）
▷「矯正装置に用いられる維持装置について」
横井欣弘
（愛知学院大学歯学部附属病院）
▷「少しで機能的なCLOWN. SROMをあたえるために」　久野富雄（千種）
▷「前歯の舌面形態について」
鬼塚知仁
（名古屋歯科医療専門学校）
〈特別講演〉
ポーセレンワーク
「さらに美しさと調和をもとめて」
古賀和憲日本デンタル
セラミスト協会会長
◇勤務者部総会（10月17日、中産連ビル）
◇東海北信越ブロック会議に出席（11月21日、岐阜南市民会館）
◇東海歯科技工士学校との懇談会（12月11日）
〈内容〉
1．ラボ行為は行わない
2．講師の入会促進
3．今年は定員増はさせない
4．技工士会の意見は、無視しない
◇51年度臨時総会（3月6日、名古屋市中区・東別院青少年会館）
出席者　83人（委任状　162人）

昭和52年度

◇亀田会長、歯々塚建立計画懇談会に出席（4月5日、名古屋市中区・明治生命ビル）
◇52年度総会（6月5日、春日井市勤労福祉会館）
出席者　105人（委任状　187人）
◇学術講演会（7月17日、愛知学院大学）
▷「アタッチメント」
シーカー社日本担当　風間俊昭氏
出席者　100人
◇技工所部総会（9月24日、名鉄犬山グランドホテル）
出席者　約200人
〈来賓〉岩本定光日技副会長
〈特別講演〉
日本マネージメント協会　山本芳史氏
デンタルビジネスセンター辻中保夫氏
◇東海北信越ブロック歯科技工学術大会に参加（10月9日、長野県松本市浅間温泉）
本会は会員の約60％が参加。
◇第1回チャリティーボウリング大会（11月20日、星ヶ丘ボウル）
〈参加者〉
本会、県歯科医師会、県歯科衛生士会、東海歯科用品商協同組合愛知県支部、歯科技工士学校関係者
収益金 447,830円を善意銀行に預託。
◇臨時総会（3月5日、県スポーツ会館）
出席者　83人（委任状　147人）

昭和53年度

新執行部は、４月スタートに際し亀田会長は「責任の重大さに身の引き締まる思いです。この２年間に歯科を取り巻く状況が大きく変化しました。歯科技工士も影響を受けない訳にはいかない状況です。今こそ組織力を強化し、保険体制の中に歯科技工士の位置付けを確かなものにしたい」とあいさつし、懸案であった歯科技工料金協定へ向かっての決意を示し、会員の協力を求めた。

◇県歯科医師会と懇談会（４月29日、名古屋観光ホテル）

県歯の呼びかけで開かれたもので、県歯側吉兼会長はじめ、尾関副会長、中川専務、宮下・川崎両常務、鈴木（学術）・伊与木（社保）・野村（調査）の各理事、本会は亀田会長、社本副会長、山本専務、田口・柴田両技工所部担当理事が出席。次回より小委員会で具体的な話し合いに入ることで一致。

◇技工業対策委員会（５月14日、事務所）

執行部全員に加えて、辻（前）・丸山（元）技工所部長で構成された委員会。

◇第２回県歯との懇談会（５月18日、県歯会館）

次のことを確認した。

▷協定が成立したら、県歯は会員に協定の趣旨を周知徹底し、本会会員技工所の利用を指導する。

▷保険点数の製作料は基本的には技工士の取り分である。

▷本会が作った、49年、51年の料金表は基にしない。あくまで現保険点数を基に考え、現行料金の中にあるいわゆる逆ざやとなるものをなくす。

◇第３回県歯との懇談会（６月８日）

◇第４回県歯との懇談会（６月15日）

◇技工所部委員会（７月２日）

料金交渉の経過報告と今後の進め方を協議し、納品明細書、請求書などの様式について検討。

◇第５回県歯との懇談会（７月８日）

◇技工所部総会で協定推進を支持（７月９日、中産連ビル）

亀田会長が、保険技工料金設定を目指すに至った背景や、執行部の理念について説明。

◇第６回県歯との懇談会（８月10日）

◇技対交渉委員打ち合わせ会（８月24日、本会事務所）

県歯側からの“標準料金”に対し協議したが、社会保険医療体制の中における歯科技工料金の設定を目指した趣旨に反するため“標準”案は受け入れられないことを確認。

◇第７回県歯との懇談会（８月31日）

県歯側“標準”案を撤回

◇県歯・県技トップ会談（９月９日）

４月から７回にわたった懇談会も吉兼県歯会長と亀田会長の会談ですべて決着。本会で作成した納品明細書・請求書様式を承認。

◇歯科技工料金協定調印式（10月15日、県歯会館＝**次頁写真**）

友好と協調の精神に基づく“協定料金”は完全に合意、吉兼県歯会長と亀田会長が「覚書」に調印した。

調印式には、県歯側６人、本会から７人の役員が同席、協定の円滑な運用と双方の協調発展を誓い合った。

◇協定料金　臨時総会で承認（11月５日、



「覚書」（下）に調印し、握手を交わす吉兼・亀田（左）両会長

覚　　書

愛知県歯科医師会と愛知県歯科技工士会は、現在の医療制度に鑑み、歯科技工料金については保険重点主義に則り、協議の結果別紙の通り歯科技工協定料金（社会保険の部）を設定し、次の通り、合意に達したことを確認し、その証として本書２通を作成し、それぞれ記名捺印のうえ各々１通を保有する。

記

1　当該歯科技工協定料金については、双方遵守される様努める。
2　料金変更の必要が生じた時は、両者何れかの申出によりすみやかに協議するものとする。
3　技工料請求書は所定のものを使用するものとする。
4　当該料金は、昭和５３年12月１日より適用する。

昭和53年10月15日

名古屋市中区丸の内三丁目５番１８号
社団法人　愛知県歯科医師会
会長　吉兼　寺

名古屋市西区栄井町１番地
社団法人　愛知県歯科技工士会
会長　亀田昭治

春日井市勤労福祉会館）

県歯科医師会との保険歯科技工料金協定の承認を求める臨時総会。会員207人が出席。

亀田会長は、「２年前に、私が発案したことが、種を蒔き、肥やしをやってきた今、ここに花開き、実を結んだ。われわれの業界が発展してゆくためには、保険体制の中に入ってゆくことが不可欠だと思います。そして将来われわれが求めていくことは、保険の中に技工点数を設定することであります。県歯科医師会は、“製作料点数”は基本的に技工士のものだということを認めました。これは大へん意味のあることと思います。不満もあると思いますが、将来を展望して、今“しなくてはならない事は何か”をお考えいただきたい」と技工士急増時

代、料金競争に歯止めをかけるには、対外協定を結ぶ以外にはないことを強調。

主に現行料金よりも安くなる項目についての不満や、今後この協定を守ってゆくための方策、未入会技工所への対策などに関するものが多かった。

採決の結果、賛成大多数で承認された。

◇協定料金説明会（11月26日、県スポーツ会館）

同料金の実施に向けて、先の臨時総会に欠席した歯科技工所開設者を対象に、周知徹底を図るために開いたもので40人が出席。

12月1日から適用となった協定料金は、1カ月間の猶予期間をおき、昭和54年1月1日から完全実施された。

◇“愛知方式”日技が評価

全国的に例もない、画期的な歯科技工料金対外協定は、研究段階のうちから各方面から関心が寄せられ、成り行きが注目されていた。

日技はこの“愛知方式”を高く評価、今後強力に推進することを理事会で決定した。

◇料金協定に基づく納品明細書様式の実用新案登録を出願

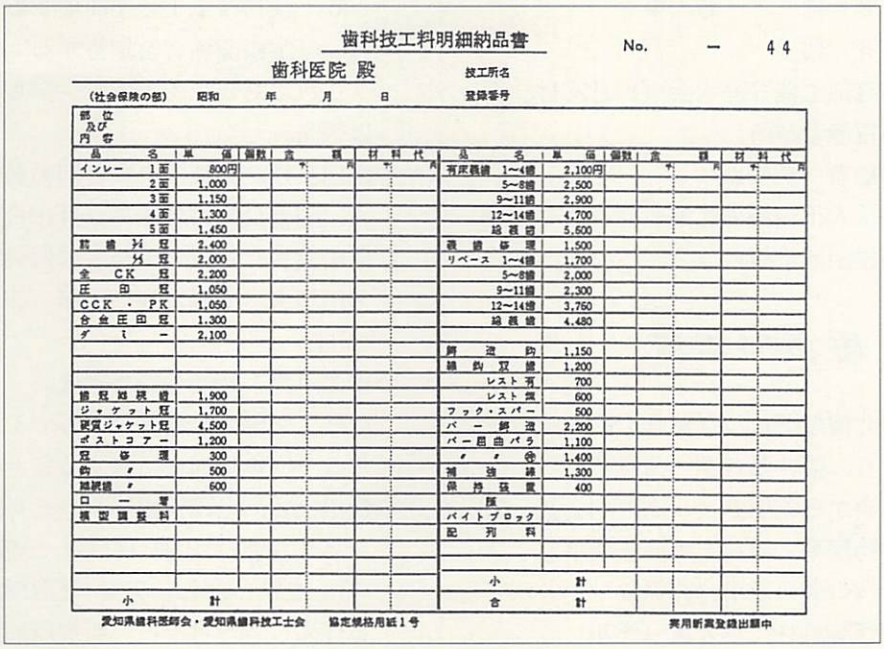
◇亀田会長、東海北信越ブロック長に3選（5月6日、鳥羽市）

本会から亀田会長、社本副会長、山本専務理事、村井相談役が出席。

亀田会長が3たびブロック長に選ばれた。社本会計担当も留任。

◇歯科技工料の領収証に収入印紙は不要（5月14日）

亀田会長、名古屋国税局消費税課の見解が出されたことを報告。「歯科技工は営業行為ではなく、歯科技工料に関する領収証に収入印紙を貼る必要は



歯科技工料明細納品書　No. — 44

歯科医院 殿　技工所名

（社会保険の部）　昭和　年　月　日　登録番号

部位及び内容

品名	単価	個数	金額	材料代	品名	単価	個数	金額	材料代
インレー 1面	800円		千 円	千 円	有床義歯 1~4歯	2,100円		千 円	千 円
2面	1,000				5~8歯	2,500			
3面	1,150				9~11歯	2,900			
4面	1,300				12~14歯	4,700			
5面	1,450				総義歯	5,600			
前歯ﾒﾀﾙ冠	2,400				裏歯修理	1,500			
ﾒﾀﾙ冠	2,000				リベース 1~4歯	1,700			
金 CK 冠	2,200				5~8歯	2,000			
圧 印 冠	1,050				9~11歯	2,300			
CCK・PK	1,050				12~14歯	3,750			
合金圧印冠	1,300				総義歯	4,480			
ダミー	2,100								
					鉤 追 加	1,150			
					線鉤双歯	1,200			
					レスト有	700			
線冠維持腺	1,900				レスト無	600			
ジ・ゲット冠	1,700				フック・スパー	500			
硬質ジャケット冠	4,500				バー鉤 追	2,200			
ポストコアー	1,200				バー局所パラ	1,100			
冠 修 理	300				〃 〃 他	1,400			
鉤 〃	500				補 強 線	1,300			
維持腺 〃	600				保 持 装 置	400			
口 蓋					床				
模型調整料					バイトブロック				
					配 列 料				
小 計					小 計				
					合 計				

愛知県歯科医師会・愛知県歯科技工士会　協定統括用紙1号　実用新案登録出願中

実用新案登録を出願した様式

ない」。印紙税について、国税局の見解を求めていた。ただし法人である場合は、別見解。

◇中部善意銀行から感謝状（5月18日、愛知文化講堂）

“善意の日”に開催された中部善意銀行設立15周年記念大会で本会に感謝状が贈られた。昨年秋に催したチャリティーボウリング大会の収益金44万余円を“難病基金”を指定して預託したことに対して。

◇準会員・家族会員制度発足（6月11日、西尾市役所会議室）

◇東海4県野球大会で2位（7月23日、静岡県三島市「スルガヒルクラブ・グラウンド」）

◇第1回ソフトボール大会（10月14日、蒲郡三谷グラウンド）

6チームが参加。

優　勝	昭　和
2　位	名　東
3　位	一　宮

◇勤務者部主催弁論大会（10月22日、而至名古屋営業所）

参加者　約40人

◇社団法人化後初の代議員会（3月4日、名古屋観光会館）

昭和54年度

◇東海北信越ブロック協議会に出席（5月5日、福井県芦原「清風荘」）

本会から亀田会長、木戸副会長、山本専務理事、田口・小間各理事。

△日技の委員選出（関係分）

財務委員＝社本昇貴（愛知）

△役員改選

次の通り決定

ブロック長　亀田昭治（本会）

会　計　　社本昇貴（同）

◇名古屋デンタル学院との懇談会（5月6日、名古屋市中区「桃花林」）

〈出席者〉亀田会長、山本専務理事、斎藤・須田各理事。名古屋デンタル学院－飯野輔司理事長、岡田治夫校長ら5人。

本会から次の要望をした。

1．入会促進に対する協力
2．卒業生の追跡調査に協力
3．在学生に本会の会報の配布
4．在学生に対するアンケート調査への協力
5．歯科技工士会が開催する学術大会に名古屋デンタル学院の教員を演者に要請することに対する協力
6．歯科技工士会が開催する行事に学校関係者を招待する

これに対して名古屋デンタル学院側は快諾。

◇亀田会長、日技・中央特別委員会に出席、副委員長に就任（5月19日）

◇亀田会長、日技・実務者講習会で講演須田理事、同講習会に出席（5月26・27日）

◇技工所部、特別会費を徴収

技工所部の活動資金として1人当たり5千円を特別に徴収することを決定。

◇亀田会長、全国植樹祭へ（5月26日）

「緑で結ぼう山村（むら）と都会（まち）」をテーマに、天皇・皇后両陛下をお迎えして5月27日、西加茂郡藤岡町の藤岡県有林で行われた第30回全国植

樹祭に亀田会長も招待を受けた。しかし、亀田会長は同日、日技実務者講習会で講演を依頼されていたため、主催者の指示により、その前日、南設楽郡鳳来町の愛知県民の森で行われた「お手まき行事」に出席した。

◇総会（6月3日、尾西文化会館）

出席者94人、（委任状193人）

〈来賓〉内藤一宮歯科医師会長

櫛田西尾市長（代理）

◇中央相互銀行とローン提携（7月5日）

従来から東海銀行と提携契約している東海歯科技工士会ローンの他に、新たに中央相互銀行とも中銀歯科技工士ローン（事業資金・住宅賃金）の提携契約を締結した。

◇亀田会長、而至陶歯工業社創立30周年祝賀会に出席（6月19日、ホテル・ナゴヤキャッスル）

◇東海4県野球大会を主管（7月22日、名古屋市中川区西前田グラウンド）

本会が優勝

前日、名古屋市中区「中日パレス」で前夜祭、75人出席。

◇長谷川二郎・愛院大歯学部教授就任祝賀会を共催（7月29日、名古屋都ホテル）

日本歯科金属床協会中支部との共催、会員約50人が出席。

◇第7回東海北信越ブロック歯科技工学術大会に参加（9月23日、鳥羽市民文化会館）

本会から約230人参加。

〈研究発表〉（関係分）

▷「合理的なFinishing Lineの設定と製作について」

森　博史（知多）他

◇献血会が発足（10月7日）

社団法人の会として、いくらかでも社会に奉仕したいとして「愛の献血」を始めることにし、献血会を発足させた。当初の会員は本会員203人、家族530人の合わせて733人。

◇第2回ソフトボール大会（10月10日、春日井市上条グラウンド）

160人参加。

優　勝	昭　和
2　位	一　宮
3　位	春日井

◇第3回県歯科医療関係団体親睦野球大会で優勝（11月3日、津島市営球場）

◇「準会員の集い」（11月1日、名古屋市中区・名古屋白根歯科商店）

役員・準会員合わせて約30人出席。

〈内容〉役員と準会員との懇談会

〈講演〉

▷「イソシットC＆Bによる金属冠前装法」

水野義昭・白水貿易(株)研究室次長

▷「法医学について」

飯野輔司・名古屋デンタル学院理事長

◇学術講座がスタート（11月25日、名古屋市中村区第2豊田ビル・ホール）

開校式を挙行して向こう3カ年にわたる学術講座が始まった。

出席者207人

（会員148人、未入会員20人、学生39人）

〈来賓〉尾関県歯科医師会副会長

武井愛知学院大学歯学部長

竹花　同　教授

飯野名古屋デンタル学院理事長

大脇東海歯科技工士学校理事長

▷歯冠補綴学

竹花庄治　愛院大歯学部教授



第２豊田ビルホールで挙行された学術講座開会式

▷歯牙解剖学
酒井琢朗　愛院大歯学部教授
◇善意銀行へ64,574円預託(12月27日)
◇第２回学術講座（２月17日、第２豊田ビルホール）
出席者　124人（うち非会員23人）
▷有床義歯学「無歯顎の補綴を下顎の動き」川口豊造　愛院大歯学部教授
▷歯科理工学「修復物製作時に知らねばならない事」
長谷川二郎　愛院大歯学部教授
◇臨時総会（３月２日、県産業貿易館）
出席者127人（委任状157人）
〈来賓〉伊藤宏・内藤清県歯科医師会理事、今枝敬雄顧問。
３選の亀田会長はじめ次期役員を選出。高齢会員仲野秀茂氏(昭和)を顕彰。
◇初の記者会見（３月６日、本会事務所）



本会始まって以来初めての記者会見をする亀田会長（中央）と山本専務理事(左)　右は藤井広報部長（本会事務所で）

本会が直面している問題やこれに対応する考え方について広く対外に認識してもらうとともに理解を求めようと行われた。出席は医療新報社と歯界報知新聞社の2社。

昭和55年度

◇亀田会長、県衛生対策審議会歯科保健対策専門委員に

◇第4回県歯科医療関係団体親睦野球大会で3位（4月20日、中電日進総合運動場）

◇東海北信越ブロック協議会に出席（5月3日、富山県「宇奈月ニューオータニホテル」）

本会からの出席者は亀田会長、社本・藤井各副会長、山本専務理事。

亀田ブロック長、古館副ブロック長及び社本会計の留任を決定。

◇第3回学術講座（5月25日、名古屋市中区「ブラザー栄ビル」）

出席者　146人。

▷矯正学「現今の矯正臨床の特色」
宮原　熙　愛院大歯学部教授

▷部分床義歯学「前歯部の排列基準に対する考え」
平沼謙二　愛院大歯学部教授

◇総会（6月1日、蒲郡市民会館）

出席者　144人（委任状　183人）

〈来賓〉服部県歯科医師会副会長
山田蒲郡歯科医師会会長

54年度事業経過報告（1月～3月）及び同会計決算報告を承認。55年度事業計画案及び会計修正予算案を可決。

▷調査統計部を組織部に統合

◇東海4県野球大会に参加（7月13日、岐阜市営球場）

◇第4回学術講座（7月20日、名古屋市千種区「弥生会館」）

出席者　96人

▷保存修正学「窩洞マージンを考える」
原　学郎　愛院大歯学部教授

▷小児歯科技工学
黒須一夫　愛院大歯学部教授

◇日技創立ならびに歯科技工法制定25周年記念大会に参加（9月21日～23日、東京・日本青年館）

参加申し込み　92人

＜受賞者＞（本会関係分・敬称略）

▷厚生大臣表彰
二村貴祐一・元会長

▷日技会長表彰
尾崎藤利・技政協会理事長
安藤　進・監　事
桂木雅康・監　事
社本昇貴・副会長

▷第3回中筋賞
村井瀞一・元会長

◇第5回学術講座（9月28日、名古屋市瑞穂区「名古屋市博物館地下講堂」）

出席者　103人

▷歯科理工学「非貴金属系合金の実際」
長谷川二郎　愛院大歯学部教授

◇第3回ソフトボール大会（10月10日、春日井市上条グラウンド）

12支部が参加。

優　勝	一　宮
準優勝	西
3　位	南

◇本会事務所の所在地表示が変更

＜新表示＞

名古屋市西区城西五丁目21番14号

◇東海地区歯科医学大会に参加(11月2・

3日、県産業貿易館）

〈本会企画講演〉

本会会員は133人が聴講。

▷第1日「遊離端義歯における維持装置の選択」

松元　誠　東京医科歯科大学教授

▷第2日「歯科鋳造に於ける失敗の原因とその対策」

井田一夫　京都大学教授

◇県デンタルファミリー体育祭で優勝（11月16日、名古屋市瑞穂区「ブラザー工業体育館」＝**写真**）

「デンタルファミリーが一堂に会し、体力向上と親睦を兼ねて日ごろのストレスを発散し、和やかに秋の一日を過ごそう」と第1回県デンタルファミリー体育祭（県歯科医師会主催）が開催され、本会から会員・家族合わせて151人が参加した。総合得点で本会は最高点を挙げて優勝。

◇東海歯科用品商協同組合愛知県支部と懇談会（12月13日）

本会の出席者は亀田会長、山本専務理事、田口・柴田・小切間各理事。

◇中部善意銀行に「会員の善意」53,170円を預託（12月29日）

◇亀田会長、園田厚相らと懇談（1月6日）

亀田会長は、厚生省大臣室で園田厚相や関係ポストの人たちと約2時間半にわたって懇談した。その懇談で亀田会長は歯科技工士の実態を伝え、補綴点数の適正な評価と改正を訴えるとともに、国民皆保険下での歯科技工士の在るべき姿について話し合いを行った。懇談の中で亀田会長は、特に次の点を強調した。

1．医療費点数の改正は医師、歯科医師にも必要であるが、医療はそれらの人々のみで行われているだけでなく、医療専門職と称される多くの人々によって行われており、この人たちにも光の当てられるものでなくてはならない。特に歯科技工士（歯科技工所）は生活困難になっている。材料費、経費の増大は著しく、早期



優勝トロフィーを受ける山本専務



初めて開かれた新入会員歓迎懇談会（名城チサンホテル）

解決が必要である。

2．愛知県における実情として差額徴収は行わない保険尊重の真面目な歯科診療が行われ、歯科医師会、歯科技工士会が一丸となって国の保険医療行政に貢献している。この立場から「愛知方式」という保険尊重の歯科技工方式を採っている。この中で感じ訴えたいことは医療費点数、特に補綴点数の適正な評価と改正実施が必要であるということである。

◇二村元会長厚生大臣表彰受賞祝賀会（1月24日、名古屋市西区「通信会館」）
出席者　80人

◇262人入会

当年度の入会者（再入会を含む）は260人、他県技からの転入の2人を合わせると入会者は262人となり、単年度の入会者数としては本会史上最高を記録した。執行部・会員が一丸となって組織拡大運動を行った。

◇新入会員歓迎懇談会（2月1日、名古屋市北区「名城チサンホテル」）
役員、新入会員合わせて100人が出席。

◇第6回学術講座（2月22日、名古屋市北区「名城チサンホテル」）
出席者　95人
▷「無歯顎の補綴」
川口豊造　愛院大歯学部教授
▷「歯科技工料をめぐる諸問題」
榊原悠紀田郎　愛院大歯学部教授

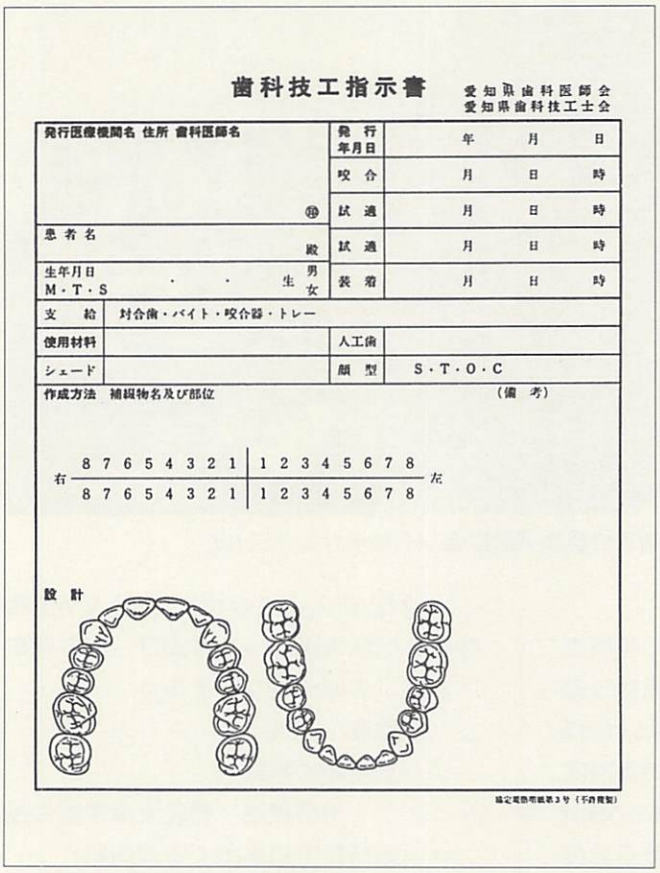
◇臨時総会（3月1日、「名古屋市公会堂」）
出席者　119人（委任状　267人）

昭和56年度

◇緑支部が発足（4月1日）
会員　28人。支部数は22になった。

◇山本専務理事、日技の常務理事就任。亀田会長は同代議員会議長に就任

◇東海北信越ブロック協議会に出席（5月3日、石川県加賀市片山津温泉）
本会からの出席は亀田会長、社本副会長、山本専務理事及び柴田理事。
当協議会をもって5期連続ブロック



歯科技工指示書

愛知県歯科医師会
愛知県歯科技工士会

発行医療機関名 住所 歯科医師名		発行年月日	年 月 日
㊞		咬合	月 日 時
患者名 殿		試適	月 日 時
		試適	月 日 時
生年月日 M・T・S ・ ・ 生 男 女		装着	月 日 時
支給	対合歯・バイト・咬合器・トレー		
使用材料		人工歯	
シェード		顔型	S・T・O・C

作成方法 補綴物名及び部位 （備考）

右 8 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 8 左
8 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 8

設計

学術講座閉講式（下）で祝辞を述べる酒井琢朗・愛知学院大学歯学部長（上）

長を務めた亀田ブロック長は勇退。同時に社本会計役員も。

◇「歯科技工指示書」様式決定

県から歯科技工指示書の発行について協力を要請されていた本会は、県歯科医師会と協力してその用紙を作成することとし、本会案をもとに県歯と再三協議して、協定規格用紙第３号として決定した。（**左図**）

◇第７回学術講座（５月17日、名古屋市北区「名城チサンホテル」）

出席者　90人

▷歯冠補綴学「クラウン・ブリッジ技工の問題点とその解決法について」

竹花庄治　愛院大歯学部教授

以上をもって54年11月か

ら7回にわたって開催してきた学術講座は閉講。

受講者は延べ861人。

《閉講式》

〈来賓〉酒井愛院大歯学部長
竹花　同　教授
田辺歯科医師会副会長
永野名古屋歯科医療専門学校長

全7回のうち4回以上出席した78人に修了証書、うち皆出席の16人には賞状も併せて授与された。

◇第4回ソフトボール大会（5月24日、豊橋球場）

参加12支部、260人。

優勝　豊田
準優勝　一宮
3位　南

◇総会（6月7日、稲沢市勤労福祉会館）

出席者　101人（委任状　340人）

〈来賓〉川口信雄稲沢市助役
（市長代理）

◇本会事務所を拡張（6月28日）

空室になった事務所の隣室も借用することになった。新たに借用することになった部分は約43㎡、家賃月額55,000円、保証金33万円で6月12日に契約。

◇協定料金、初の改正へ（8月17日）

県歯科医師会と協定して実施されている社会保険歯科技工料金が、53年10月の協定後3年ぶりに初めて改定されることになった。6月の医療費改定に伴って改定されるもので、両会の間に数回にわたって折衝が続けられてきたが、全面的に新料金設定の合意には達せず、それが決定するまで、取り敢えず有床義歯など6項目について暫定的な料金を設定して、実施された。

◇第5回歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（9月13日、愛知青少年公園グラウンド）

◇東海4県歯科技工士野球大会に参加（9月15日、三重県厚生年金休暇センター野球場）

◇県歯科医師会の老人ホーム慰問診療に参加（10月10日、半田市老人ホーム）

知多支部会員　5人

◇桑田正博講演会（10月10日、名古屋市北区「名城チサンホテル」）

桑田正博先生（クワタパンデント）を迎えて学術講演会を開催した。

119人出席

◇第2回デンタルファミリー体育祭に参加（10月18日、名古屋市体育館）

本会から会員・家族合わせて222人参加。

◇第8回東海北信越ブロック学術大会を主管（10月31日・11月1日、県中小企業センター、豊田ホール及びホテルキャッスルプラザ＝**写真次頁**）

東海北信越の9県から会員など延べ約2,000人が参加して盛大に開催され、当番県の本会はその開催に総力を結集した。今回の学術大会は県歯科医学大会、中部日本デンタルショーとの合同開催の形がとられ、大会テーマにマッチしたすばらしい学術大会だったと関係方面から高く評価された。

〈研究発表〉

▷下顎骨骨折に用いたMMシーネー併用上下床副子の製作
高田一作（愛知）

▷悪性腫瘍治療後生じた口腔・鼻腔瘻を有する患者に対する顎補綴の一例



豊田ホールで行われた開会式



ホテルキャッスルプラザでの記念パーティー

藤井勝利（岐阜）

▷Ni-Cr系陶材焼付用合金の酸化膜について　坂　清子（愛知）

▷陶材焼付用Ni-Cr合金とメタルコンディショナーの結合について　小柳津純男（愛知）

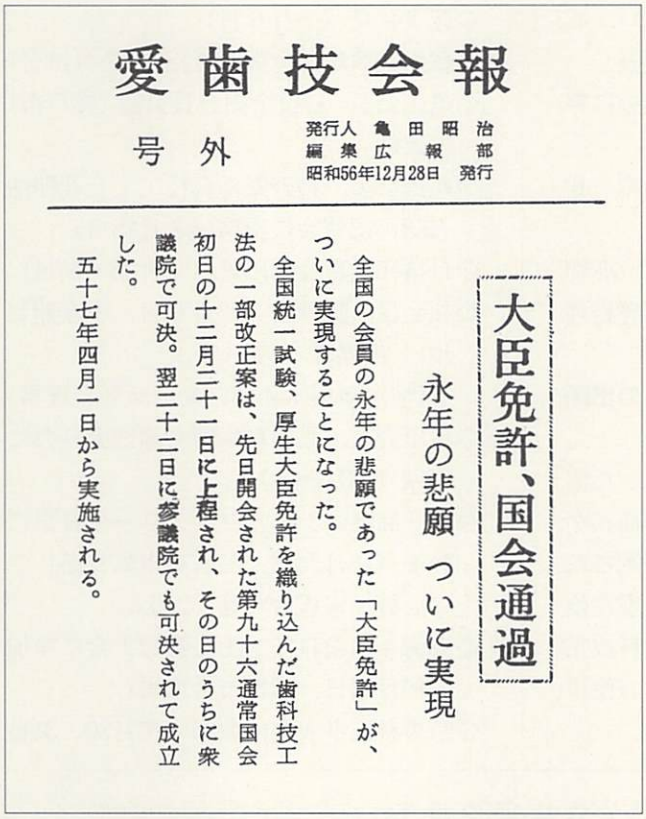
▷非貴金属系合金（焼付ポーセレン）による歯周補綴の臨床　佐藤幸司（愛知）

〈特別講演〉

▷80年代における歯科保健医療の展望－歯科要員と歯科経済の流れを追って　能美光房（東京歯科大学教授）

▷セラミックの世界　平林正也（京都セラミック㈱）

◇県歯科衛生士会との合同新年会（1月10日、名古屋市中区「ロイヤルホテル弁天閣」）



愛歯技会報

号外

発行人 亀田昭治
編集広報部
昭和56年12月28日 発行

大臣免許、国会通過

永年の悲願 ついに実現

全国の会員の永年の悲願であった「大臣免許」が、ついに実現することになった。

全国統一試験、厚生大臣免許を織り込んだ歯科技工法の一部改正案は、先日開会された第九十六通常国会初日の十二月二十一日に上程され、その日のうちに衆議院で可決。翌二十二日に参議院でも可決されて成立した。

五十七年四月一日から実施される。

広報部は間髪を入れずはがきによる号外を発行し、全会員に速報した（12月28日）

県歯科衛生士会（杉山桂子会長）との初めての合同新年会を「新春交歓パーティー」と銘打って催した。前年秋、同会から合同で新年会を－との呼びかけに応じて実現したもので、本会から48人、県歯科衛生士会から30人が出席した。来賓は県歯科衛生士会顧問の吉兼県歯科医師会長、榊原悠紀田郎愛院大歯学部教授、松平八重子前同会会長。

◇名古屋歯科医療専門学校の学校法人化に同意（２月７日）

財団法人名古屋歯科医療専門学校（名古屋市西区、永野志農夫校長）は本会に対して学校法人にするための同意を求めてきた。本会では理事会で検討した結果、日技の学校に対する考え方をも勘案して、それに同意することにした。

◇臨時総会（３月７日、名古屋市東区「中産連ビル」）

４選の亀田会長以下全役員を選出した。

高齢者顕彰式を行い、外畑義信（昭和）、加藤芳松（千種）、安福芳雄（東北）の各氏を顕彰。

◇歯科技工士法改正記念祝賀会に出席（３月19日、東京千代田区丸の内「パレスサイドホテル」）

本会から48人が出席した。

◇日技代議員会に出席（３月19日・20日）

亀田会長、社本副会長、木塚・辻各理事。

◇田中朝見講演会（３月28日、名古屋駅前「第２豊田ビル」）

139人出席、翌29日に実技中心の研修会。

◇会費前納２カ月分を短縮

４ヵ月前納となっていた会費納入制を２ヵ月短縮して前納は２ヵ月分に変更した。この変更は年度末に調整された。

昭和57年度

◇亀田会長、吉兼県歯科医師会長就任披露パーティーに出席（４月24日）

◇総会（６月６日、豊橋勤労福祉会館）

出席会員126人（委任状355人）
〈来賓〉伊藤豊橋市歯科医師会長

◇県歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（6月13日）

◇東海北信越ブロック協議会に出席（6月20日、本会事務所）
本会からの出席は亀田会長、小切間・浅井・宮地各副会長、服部専務理事。

◇**「歯科技工における取引伝票」の出願公告決定**（6月16日）
53年に実用新案登録の出願をした協定技工用の納品書及び請求書の様式が、特許庁より公告すべきものと決定された。（下はその謄本）これにより現在使用しているこれらの様式は「歯科技工における取引伝票」として、その使用権が本会に属することになった。

◇記者会見（7月6日）

◇献血20周年記念大会に出席（7月28日）

◇亀田会長、日技全国会長会議（神戸市）に出席

◇亀田会長、長野県歯科技工士会社団法人認可祝賀会に出席（8月28日）

◇日技代議員会に出席（9月25・26日）

◇社会保険講習会（10月9日、中産連ビル） 出席者 146人
〈講演〉伊與木和郎県歯科医師会理事

◇亀田会長、県歯科医師会地区会長会に出席（10月23日）

◇第3回県デンタルファミリー体育祭に参加（10月24日、名古屋市体育館）
会員・家族合わせて230人。

◇東海4県歯科技工士会野球大会に参加（10月24日、浜松市営球場）

◇県歯科医学大会に参加（10月30・31日、

出願公告決定の謄本

実用新案登録
出願の番号　実願昭 53－148801　昭和57 年06 月16 日

この出願は、出願公告をすべきものと決定する。

特許庁審査官　藤井 靖子　7008　(2C、)

この謄本は原本と相違しないことを認証する。

認証日 昭和 57 年07 月27 日　通商産業事務官　堺戸 秀樹　2

考案の名称　歯科技工における取引伝票

住所　460－　愛知県名古屋市中区栄　分類番号　B42D 11 頁
2－10－19　名古屋商工会議所ビル

氏名　岡田 英彦
6434

実用新案登録出願人　社団法人愛知県歯科技工士会

代理人　岡田 英彦

県産業貿易館）
〈本会企画講演〉
▷「接着性レジン応用の金属床義歯」
加賀谷忠樹氏
（東京医科歯科大学附属病院）
◇第５回ソフトボール大会（11月３日、春日井市上条グラウンド）
参加18支部、190余人。
優　勝　　西
準優勝　　中　村
３　位　　春日井
◇亀田会長、名古屋市歯科医師会医療センター開所式に出席（11月７日）
◇尾崎藤利・前技政協会理事長、県歯会長表彰受賞（11月７日）
◇歯科技工士法改正に伴う講習会（11月14日、県歯科医師会館）
「歯科技工士として歯科医療の向上のために」－歯科技工士法改正に伴う講習会が日技主催、厚生省・日本歯科医師会後援により開催。出席者は548人、うち本会会員369人。
〈講演〉
▷「法改正の意義と歯科技工士法について」津田　弘　県衛生部医務課長
▷「歯科医療の中の歯科技工士の果たす役割」
宮下和人　県歯科医師会常務理事
▷「歯科技工士の使命と倫理について」
尾上隆夫　日技副会長
▷「Ni－Cr系陶材焼付用合金の諸問題の対策について」
坂　清子　東海歯科技工士学校教員
◇県歯科衛生士会と合同ボウリング大会（11月21日、星ヶ丘ボウル）
参加者120人、うち本会会員70人。
◇老人ホーム診療慰問に参加（11月28日、一宮支部）
◇中部善意銀行に「会員の善意」72,653円を預託
◇東海歯科用品商協同組合愛知県支部と懇談会（１月29日、名古屋市中区「蓬莱」）
本会からの出席者は亀田会長、服部専務理事、塗木・杉本各理事。
◇名古屋デンタル学院と懇談（２月８日）
ポリサルホンについて。
◇囲碁大会（２月11日）
◇亀田会長、県衛生対策審議会歯科専門部会に出席（２月18日）
◇勤務者部懇談会及び県歯科衛生士会と懇親パーティー（２月27日、名古屋市中区「中国大飯店」）
〈懇談会〉出席者約70人
〈親睦パーティー〉
〈来賓〉吉兼県歯科医師会会長
出席者122人、うち本会から92人。
◇亀田会長、東海北信越ブロック会長会議に出席（３月５日）
◇亀田会長、歯科技工士試験に出向（３月９日・10日）
◇日技代議員会に出席（３月19・20日）

昭和58年度

◇名古屋デンタル学院講師（本会会員）との懇談会（４月２日）
◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月８日、岐阜市「ホテルパークみなと館」）
本会からの出席者は亀田会長、小切間副会長、服部専務理事、杉本理事。
◇日技・技対指導者研修会に出席（５月22日、岐阜市）

本会からの出席者は亀田会長、小切間・宮地各副会長、服部専務理事、塗木・鈴木各理事及び田口前理事。

◇総会（5月29日、名古屋市中区「日本生命栄ビル9階ホール」）

出席者95人（委任状301人）

〈来賓〉佐藤県歯科医師会副会長
高橋則行・今枝敬雄
各技政協会顧問

ポリサルホン対策特別委員会設置を決定。

〈高齢会員〉

横山　實（瀬戸）、岩附　実（岡崎）、安藤　進（岡崎）の各氏を顕彰。

◇東海4県歯科技工士会懇談会に出席（6月18日、浜松市）

本会からの出席者は亀田会長、浅井副会長、服部専務理事。

技工料金について・大手ラボの進出について－などを協議。

◇亀田会長、三重県歯科技工士会社団法人認可祝賀会に出席（7月10日）

◇生活対策指導者研修会（7月17日、県スポーツ会館）



県スポーツ会館で開かれた
生活対策指導者研修会

◇県歯科医師会との懇談会（8月15日）

本会からの出席者は亀田会長、服部専務理事及び柘植理事。

窮状を訴える「陳情書」を県歯に提出し、会員に協定料金を徹底して欲しいと強く要望した。

◇東海歯科用品商協同組合愛知県支部との懇談会（8月25日）

本会からの出席者は亀田会長、小切間副会長、服部専務理事、塗木・鈴木各理事。

本会は、協定料金の円滑な実施に強く協力を求めた。

◇社会保険医協会懇談会に出席（8月30日）

◇中部善意銀行へ「会員の善意」46,796円預託

◇東海北信越ブロック歯科技工学術大会に参加（9月11日、新潟県民会館）

《研究発表》（本会関係分）

▷「能率向上のための各種インスツルメントについて」
中村正也（中村）他

◇第7回県歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（5月15日、青少年公園グラウンド・8月7日、中京大グラウンド・9月11日、名城大グラウンド）

◇日技代議員会に出席（9月17日・18日）

本会からの出席者は亀田会長、小切間副会長、服部専務理事及び須田理事。

◇第4回県デンタルファミリー体育祭でV2（10月16日、名古屋市体育館）

本会から会員・家族合わせて284人参加。

◇三歯会懇談会に出席（10月27日、県歯科医師会館）

本会からの出席者は亀田会長、小切間・宮地各副会長、服部専務理事及び島田理事。

◇第6回ソフトボール大会（11月3日、

春日井市上条グラウンド）
参加18支部、270人余。
〈来賓〉梶田裕春日井市議
優　勝　　海　部
準優勝　　名　東
3　位　　東　北

◇亀田会長、日技全国会長会議に、東理事、同組織拡充実務者研修会に出席（11月12日）

◇医療保険改悪反対愛知県三師会大会に41人出席（11月12日、県厚生年金会館）

◇県歯科衛生士会と合同ボウリング大会（11月20日、星ヶ丘ボウル）
両会合わせて91人参加

◇亀田会長、東海北信越ブロック会長会議に出席（11月21日、岐阜市）

◇第3回歯の健康を守る愛知歯科医学大会に参加（11月27日、県歯科医師会館）
社本昇貴氏が県知事感謝状、水野茂孝氏が県歯科医師会表彰を受賞。

◇在名4歯科技工士学校教務主任との懇談会（2月9日、名古屋市中区「中国大飯店」）

◇県歯科医学大会に参加（2月11･12日）

◇亀田会長、県保健衛生対策審議会に出席（2月23日）

◇中高年歯科技工士会議（2月26日、名古屋市西区「サンライフ名古屋」）
〈講演〉
▷「成人病とその予防」
服部浩二氏（服部病院長）
〈会員発表〉
▷「信仰と生活」後藤正夫（中村）
▷「趣味について」　丹羽安之（知多）

◇技工所部総会（3月11日、名古屋市西区「サンライフ名古屋」）
〈講演〉
▷「低成長時代に求められる経営者像」
宇野総司氏　マネジメント㈱社長
〈会員発表〉
▷「緑支部の設立から、緑区歯科医師会との交流について」安藤嘉明（緑）
▷「海部支部の活動について」
古畑正士（海部）
▷「コンピューターに於ける技工システムについて」　小柳津純男（中村）

◇日技代議員会に出席（3月17・18日）
本会からの出席者は亀田会長、服部専務理事、須田・塗木各理事。

◇入会及び歯科技工士時局講演会（3月25日）
〈講演〉
▷「歯科技工士のおかれている現状とその対応」　亀田会長
他、未入会員に対して、担当役員が協定料金システムや入会を勧める説明。

昭和59年度

◇県歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（4月30日）



激励会で出席者から握手攻めの亀田前会長（5月27日）

◇東海北信越ブロック委員会に出席（5月12日、長野県）

◇亀田前会長激励会（5月27日、名古屋市中区「プリンセスガーデンホテル」＝**写真前頁**）

◇総会（5月27日、名古屋市西区「サンライフ名古屋」）

山本新会長はあいさつで生活の安定向上、組織の拡充強化、渉外活動に重点を置くと表明。

二宮正一（江南）、鈴置政一（一宮）の2氏が高齢者顕彰された。

◇山本会長全国会長会議に出席（6月22日、日技会館）

実務者研修会に丸山専務理事、辻理事が出席。

◇山本会長ら鈴木知事と懇談（6月25日）

政連顧問の高橋県会議員を通じ、山本会長以下三役が鈴木県知事を表敬訪問した。

▷現況の歯科技工会の諸事業の説明

▷無資格者による技工作業行為等、歯科技工法に抵触する問題を述べ行政当局の対応を要請

▷歯科技工法制定30周年記念行事について説明し、式典への出席を依頼した

◇「高齢化に対応する福祉をかたる会」（6月28日、岡崎市）

浅井・斉藤各副会長、地区会長出席。

◇県歯科医師会との懇談会（7月5日）

県歯科医師会から吉兼会長、浅岡副会長、中川専務、磯貝常務、鈴木理事が、本会からは山本会長ら三役が出席、友好的に懇談。

▷歯科技工士過剰対策として全国の歯科医師会立歯科技工士養成校（22校）に対して、配慮を要望。吉兼会長は中央に対して働きかけることを約束された。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（7月8日、県産業貿易会館）

日技より亀田副会長、岡本組織担当常務理事、本会11人出席。

◇中部善意銀行に「会員の善意」5万円を預託（8月23日）

◇県医務課と第1回懇談会（8月31日、県庁本館会議室＝**写真**）



本会からの出席者は山本会長、丸山専務理事、辻・杉本・古畑・中尾・鈴木各理事。

▷無資格者に対する法的指導を要請

▷歯科技工所、歯科医院技工室の環境整備指導基準の検討

▷歯科技工士法に基づく就業届と歯科技工所開設届についての指導方法について、歯科技工士会を窓口に置くことを検討

▷学術活動、広域活動についての助成金の件

◇日技代議員会に出席（9月1・2日）

◇囲碁大会（9月2日、本会事務所）

◇第16回東海4県歯科技工士会野球大会に参加（9月15日、岐阜市福光市民球場）

◇県歯科医師会との懇談会（10月4日、「蓬莱」）

出席者
（県歯）鈴木常務、早川・高柳各理事
（本会）斉藤副会長、丸山専務理事、中尾・中川各理事
県歯科医師会より次のアドバイス
○技工料を故意に下げる技工所に対して歯科医師会も喜んでいない
○歯科医師に対して技工技術のアドバイスを望む
○県下各地において学術活動などを通じて両者の連絡を密にして欲しい
◇勤務者部総会（10月7日、名古屋市西区「サンライフ名古屋」＝**写真**）



〈特別講演〉
▷「勤務する歯科技工士の権利と生活安定のために」
青木重臣顧問弁護士
林正之社会保険労務士
◇第5回デンタルファミリー体育祭に参加（10月21日、名古屋市体育館）
本会から会員・家族合わせて179人が参加。
◇四歯会懇談会（10月25日）に出席
県歯科医師会、同歯科衛生士会、材料商組合、本会
◇第7回ソフトボール大会（11月3日、春日井市上条グラウンド）
18支部、250人余が参加。
優　勝　　西
準優勝　　名　東
3　位　　中　村
◇第1回愛知県歯科技工士会学術祭（11月18日、名古屋市中小企業振興会館）
476人出席
〈特別講演〉
▷「歯科技工士の身近な問題を考える」
佐藤敏明　日技常務理事
20テーマのテーブルデモンストレーション、不要品交換市、親睦パーティーが行われた。
◇歯の健康を守る愛知歯科大会（11月18日、県歯科医師会館）
県知事感謝状を横山実氏（瀬戸）西尾定夫氏（瀬戸）、県歯科医師会長表彰を鈴置政一氏が受賞
◇山本会長、東海北信越ブロック会長会議に出席（12月8日、金沢市）
◇中部善意銀行へ「善意の箱」への会員の協力金7万円を預託（12月13日）
◇山本会長、全国会長会議に出席（1月12日、日技会館）
◇技工所部総会（2月17日、熱田神宮文化殿＝**写真次頁**）
協定歯科技工料金の厳守を誓う

〈講演〉
▷「歯科界の現状と協定技工料について」　鈴木郁夫　県歯科医師会理事
〈日技報告〉
▷「委託技工料進行状況について」　亀田日技副会長
〈文化講演〉
▷「より良い人間関係のための話し方」　島津靖雄　中部日本放送アナウンサー
◇東海地区歯科医学大会に参加（3月2・3日、県産業貿易館）
本会からの参加分
〈本会企画講演〉
▷「顎顔面補綴の臨床と技工」　田中貴信　愛院大歯学部助教授
〈テーブルクリニック〉
▷「インプラントにおける上部構造について」　鈴木永吉（緑）
▷「ブロードリック・アナライザーの使用方法」　前田隆司（瑞穂）
〈研究発表〉
▷「改良型自由運動咬合器の臨床経過報告」　有賀達哉（瑞穂）
◇代議員会及び臨時総会（3月24日、県産業貿易館）
代議員数71人、出席61人。
〈高齢者顕彰〉
田中泉（一宮）・小谷喜治郎（一宮）・有馬正男（西三）の各氏



熱気のこもった技工所部総会（2月17日、熱田神宮文化殿）

昭和60年代

会員が1,000人を超えた（60年）
日技の歯科技工士生涯研修制度スタートにより、本会でもその実施が始まった（61年）
「製作歯科技工に要する費用はおおむね100分の70」の厚生大臣告示（63年）。その円滑な実施に向けて大変な労苦を強いられた。

昭和60年度

◇東海北信越ブロック協議会に出席（5月11日、湯沢グランドホテル）
本会からの出席者は山本会長、辻・杉本各理事。

◇第2回代議員会総会（6月2日、知多市民体育館）
代議員84人（委任状568人）

◇会員1,000人に（9月19日）

◇日技法制定30周年記念式典に参加（9月15・16日、仙台市）
〈受賞者〉（関係分）
厚生大臣表彰　村井瀞一（元会長）
永野志農夫（元会長）
亀田昭治（前会長）
日技会長表彰　岩見重朗（元会長）
八木謙一（豊川）
水野茂孝（豊田）

◇第8回ソフトボール大会（11月4日、春日井市上条グラウンド）
参加18支部
優勝　岡崎
準優勝　西三
3位　海部

◇第5回歯の健康を守る愛知歯科大会に参加（11月17日、県歯科医師会館）
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状
大川重正氏（知多）
県歯科医師会長表彰
藤井美喜男氏（春日井）

◇歯科技工士法制定30周年、社団法人設立15周年記念式典・祝賀パーティー（11月24日、ホテルナゴヤキャッスル）
関係者多数を迎えて盛大に開催、それに先立って第2回学術祭も。
〈主な来賓〉
酒井清二日技会長、吉兼守県歯科医師会会長、鈴木礼治愛知県知事、西尾武喜名古屋市長、稲垣実男衆院議員、春日一幸民社党常任顧問、柴田弘代議士、小出忠孝愛知学院大副学長、竹花庄治愛知学院大歯学部教授、榊原利一東海歯科用品商協同組合理事長、松平八重子県歯科衛生士会会長、他多数の来賓より高齢化社会における役割と期待を込めた多くのコメントが寄せられた。



「30周年を祝う会」風景

各賞授与式では会員46人、職員１人、４団体が受賞。（敬称略）

県知事表彰　亀田昭治（東三）
八木謙一（豊川）
知事・永年勤続賞
浮田恵司（千種）他13人
名古屋市長感謝状
浅井貞雄（知多）他12人
県歯科医師会長表彰　山本武司会長
会長特別表彰　下村英治（瑞穂）
鈴木康之（蒲郡）
丹羽安之（知多）
会長表彰　大塚卓次（海部）他13人
優良支部表彰　中村・海部・東三
会長感謝状　堂脇三代子（職員）

◇第２回学術祭

〈テーブルデモンストレーション10題〉

▷「病院歯科における歯科衛生士」
小林優子（歯科衛生士）
▷「純チタン使用のメタルプレートとは」
藤　末二（東北）
▷「焼成後の色調が判断出来る陶材の多色築盛法について」－特殊リキッド使用－
鈴木公雄（豊田）
▷「鑞着精度の向上をめざしたパラレルスタンドテクニックについて」
沼田恵三（南）
▷「新しいメタルボンドテクニック」－セラプラチン、クラウンの製作法と臨床例－
三輪友昌（海部）
▷「マージンポーセレンの適合性と色調」
鈴木輝吉（昭和）
▷「審美的な総義歯の素早い排列法」
中村技工研究部
▷「クラウン・ブリッジの合理的ワックス・アップ操作について」
中川技工研究会
▷「石膏系埋没材を使用した－陶材焼付用Ni－Cr合金の臨床報告」
伊藤　聡・石原幹也（名東）

〈ポスターセッション２題〉

▷「新システムによるコーヌステレスコープ内冠の製作法について」
久野富雄（昭和）

▷「クラックの入らない焼付用陶材の開発」 服部智子・坂　清子（名東）

◇会史刊行（11月24日）

30周年記念事業の一環として過去30年間の本会の歴史をまとめた会史を刊行した。

◇第９回県歯科医学大会に参加（２月22・23日、県産業貿易会館）

〈本会企画講演〉

▷「テレスコープシステムの臨床について」稲葉　繁・日本歯科大学教授

昭和61年度

◇小牧支部が発足（４月１日）

会員は21人

◇「愛知歯技」200号発行（４月20日）

◇第10回県歯科医療関係団体野球大会に参加（５月、長久手口論議公園野球場）

◇技対部（自営者）時局研修会（６月26日、名古屋市公会堂）

312人が出席。

委託歯科技工料制度化について、亀田日技副会長より説明。

◇中部善意銀行「善意の箱」に32,659円を預託（７月11日）

◇第３回代議員会・総会（７月13日、豊田産業文化センター）

◇第９回ソフトボール大会（７月20日、新城市桜渕公園グラウンド）

優　勝　　蒲　郡
準優勝　　中　村
３　位　　江　南

◇県歯科医師会との懇談会（８月７日、名古屋市西区「志の島」）

〈県歯科医師会〉

吉兼会長、益川副会長、中川専務理事、宮下・鈴木・伊與木・山中各常務理事、永井・河合・加藤各理事の10人

〈本会〉

全役員が出席。

デンタルファミリーとして協力体制を確認。

◇日技代議員会（９月20・21日、日技会館）

山本会長、後藤専務理事、杉本・小柳津各常務理事出席

◇釣りクラブ主催第２回釣り大会（９月21日、幡豆郡一色町）

会員・家族40人が参加。

◇第７回デンタルファミリー体育祭に参加（10月12日、県体育館）

本会会員・家族386人が参加。

◇名古屋歯科医療専門学校の就職懇談会に出席（10月16日）

杉本・小柳津各常務理事、早川・三浦各理事

◇歯・技・衛・材協議会に出席（10月25日、たなか屋）

山本会長、杉本・石川各常務理事、森田理事。

◇東海ブロック４県協議会に出席（10月25日、三重県湯の山）

◇県保険医協会と懇談会（11月９日、ライオンズプラザ名古屋）

山本会長、後藤専務理事、須田常務理事、鈴木・中久保各理事が出席。

「委託歯科技工料制度化」について

◇第６回歯の健康を守る愛知歯科大会に参加（11月16日、県歯科医師会館）

本会は「歯型コーナー」を行う。

県知事感謝状　　木戸正満氏（岡崎）

県歯科医師会会長表彰状

小切間邦雄氏（昭和）

◇材料商組合と懇談会（11月29日）
山本会長、後藤専務理事他３人の理事が出席。
◇技対セミナー及び総会（２月15日、第２豊田ビル西館ホール）
〈講演〉
▷「生きるための技工所経営」
今井康人・日技常務理事
▷「時代の変化に即した経営のあり方を考えてみよう」
佐藤澄男・影山勝行氏
（名南経営センター）
◇第10回県歯科医学大会に参加（２月21・22日、県産業貿易会館）
〈本会企画講演〉
▷「咬合と全身」加藤吉晴（歯科医師）
〈研究発表〉
▷「コーヌステレスコープデンチャーの適合精度を高めるための仕上方法」
松浦　亨（豊田）
〈テーブルクリニック〉
▷「接着性床用レジンを応用したコーヌステレスコープデンチャーの製作法について」井口明嘉・日技認定講師
▷「マイオドンティックスデンチャーのラボワーク」
杉浦伸吉・日技認定講師
◇第４回代議員会･総会（３月１日、「サンライフ名古屋」）
◇生涯研修、第１回基本研修課程（３月15日、名古屋市公会堂）
▷「補綴物の咬合と適合」
佐藤幸司・日技認定講師
▷「医事法概説と現代の医療構造について」　湯田雅士・日技認定講師
▷「歯科用ネジの補綴物への応用」
標　繁雄・日技認定講師

昭和62年度

◇６支部発足（４月１日）
天白、守山、東名古屋、半田、豊川、西春日井。
◇「愛知歯技」第三種郵便物に認可される（４月10日）
都道府県技会報紙では初めて。
◇第10回ソフトボール大会（４月29日、春日井市上条グラウンド）
16支部、195人が参加
優　勝　　江　南
準優勝　　蒲　郡
３　位　　中　村
◇竹花先生を囲む会（５月３日、中区栄「円庄」）
50人が出席して盛大に行われた。
◇第11回歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（５月５日、尾張旭市・名古屋市職員運動場）
本会は３位。
◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月９日、三重県鳥羽市「扇芳閣」）
山本会長、大澤副会長、後藤専務理事、須田・小柳津常務理事が出席
◇第３次規約審議委員会（５月24日、本会事務所）
◇東海４県協議会に出席（８月29日、岐阜市「岐山会館」）
山本会長、後藤専務理事、杉本常務理事、中久保・早川理事が出席。
ブロック学術大会、無資格者対策、日技代議員、委託歯科技工料などについて。
◇第８回デンタルファミリー体育祭に参加（９月23日、名古屋市総合体育館）
◇第５回代議員会･総会（９月27日、「サ

本会史上最多1160人の会員を擁した昭和62年、会報「愛知歯技」が第３種郵便物に認可された。全国の歯科技工士会広報紙では初めて。下はその第１号の題字



No. 213 '87 5月号

昭和62年４月10日第３種郵便物認可
毎月１回20日発行
昭和62年５月20日発行
社団法人 愛知県歯科技工士会
発行人 山本武司
編集 石川照幸
発行所 〒451 名古屋市西区城西5-21-14
電話 (052) 524－1508
(定価 110円)
印刷所 手島印刷株式会社
電話 (052) 522－1635

ンライフ名古屋」）

会館建設に関する件について、500円の会員負担案は否決。

◇技対・学術部合同セミナー（11月８日、「サンライフ名古屋」）

実習を導入、153人が受講。

▷「歯科技工士の健康と予防－エイズ・肺炎を中心に」

県職員病院歯科口腔外科部長
梅村長生・歯科医師

▷「ポーセレンの色調と築盛」

鈴木輝吉・日技認定講師

実習参加者15人が築盛を行った。

◇第７回歯の健康を守る愛知歯科大会に参加（11月15日、県歯科医師会館）

県知事感謝状　服部　孝氏（中村）
県歯科医師会会長表彰
浅井貞雄氏（知多）

本会は「歯型コーナー」を開設。

◇東海北信越ブロック歯科技工学術大会を主管（11月22・23日、名古屋市中小企業振興会館）

1,158人が参加

《テーブルクリニック》（関係分）

▷「パターンレジンを応用したバー・クラスプの製作法」
中島　勝（東名古屋）

▷「アンテリアガイダンスについて」
前田隆司（瑞穂）

▷「合理的な硬質レジン前装冠の製作法について」　杉浦伸吉（中川）

▷「口腔に整合しかつ審美性に富む義歯製作について」　富田鋭一（西）

▷「金属床のワックスアップとスプルーイング法及びコーヌスクローネと金属床」　村田明徳（昭和）

▷「石膏模型における各種硬化処理材の検討」　小笠原明弘（中村）

▷「良い適合を得る為のスプルーイングについて」　河合範久（豊田）

《ポスターセッション》

▷「パーシャルデンチャーの設計について（県内技工所アンケートより）」
佐藤元信（海部）

▷「マイオドンティックスによる総義歯の製作」　大下克己（江南）

◇亀田昭治日技副会長　藍綬褒章受章祝賀会（12月６日、名古屋市「都ホテル」）

多数の来賓と会員100余人出席。

◇中部善意銀行「善意の箱」に73,623円



盛大に開催された第２回歯科技工士生涯研修会

を預託

◇第２回生涯研修基本研修（２月21日、名古屋港湾会館＝**写真**）

《歯冠修復技工学Ⅰ》

▷「補綴物の咬合と適合」

久野富雄・日技認定講師

《社会歯科技工学（職業倫理）》

▷「これからの歯科技工士の道」

亀田昭治・日技認定講師

《歯冠修復技工学Ⅱ》

▷「トラブルの少ない金属焼付ポーセレンの製作法」

坂　清子・日技認定講師

出席者　322人

◇第６回代議員会・総会（３月27日、県スポーツ会館）

女子部内規案承認

特別福祉積立金管理委員（ブロック）

名古屋ブロック　大澤昭二（中村）

尾張ブロック　木塚　茂（瀬戸）

三河ブロック　千賀　仁（蒲郡）

の３氏が承認された。

昭和63年度

◇西尾支部発足（４月１日）

30番目の支部として25人で発足。

◇第11回ソフトボール大会（５月20日、春日井市上条グラウンド）

参加者330人

優　勝　中　村

準優勝　東　三

３　位　豊　川

◇第３回生涯研修基本課程（６月19日、県中小企業センター）

出席者　270人

▷「補綴物の咬合と適合」

丹羽治一・日技認定講師

▷「歯科技工室の環境衛生と健康管理」

工藤亀一・日技認定講師

▷「デントジェニックスレストレーション」　浮田恵司・日技認定講師

◇小切間新執行部スタート（７月１日）

５人欠員のため執行部の発足が不可能であったが、第７回臨時代議員会・

総会（6月26日）で役員が選出された。

◇大臣告示に伴う歯科技工料伝達講習会（7月17日、名古屋郵便貯金会館）

自営者376人、勤務者238人、未入会者19人、合計633人が出席。

日技からの指示をうけ、大臣告示に至った経過説明やその意義・設定の根拠、また今後の対応について全会員に伝達するため開催され、現行の協定料金から告示の料金への実施は10月1日と発表された。しかしこの後、おおむねの言葉の解釈や、厚生省保険局長通達による「拘束力はなし」等々、会員個々の現場ではさまざまな混乱が起き、執行部は県歯科医師会の役員に理解と協力を得るため、幾度も協議会や懇談会を重ねた。また、歯科技工料対策特別委員会（小柳津純男委員長・丸山功副委員長）を設置して、スムーズな実施に努力を続けた。

◇第8回代議員会・総会（9月25日、県スポーツ会館＝**写真**）



小切間会長は「技工料金問題を最重要とし、日技とともに進み、県歯とは緊密な話し合いをもって最善を尽くす」と言明。

◇デンタルファミリー体育祭に参加（10月16日、名古屋市総合体育館）

310人が参加

◇東海北信越ブロック歯科技工料普及対策委員会講習会に出席（10月30日、本会事務所）

遅々として進まない大臣告示の歯科技工料実施に、技工料対策委員を集めて行われた。

◇第2回国際歯科技工学術大会に参加（11月3・4・5日、国立京都国際会館）

本会からテーブルクリニック5題の参加。

▷「マイオドンティックススプリントの臨床術式とその技工」
杉浦伸吉（中川）

▷「AS－咬合平面診断機を用いた咬合平面の設定法とその技工」
久野富雄（天白）

▷「コーヌステレスコープ製作におけるディスク研磨とダイレクトキャスト法」　小柳津純男（中川）

▷「チタン含有コバルトクロム合金による鋳造床の製作」
井口昭嘉（豊田）

▷「審美性にすぐれたオールセラミッククラウンレストレーション」
坂　清子（東名古屋）

◇歯の健康を守る愛知歯科大会に参加（11月20日、県歯科医師会館）

本会も歯型コーナーに協力

〈顕彰者〉（関係分）

県知事感謝状　後藤正夫氏（中村）

県歯科医師会会長表彰
小林静二氏（東三）

◇大臣告示による歯科技工料金実施（12月1日）

県歯との協議を重ね、やっと理解を得ることが出来て実施。

しかし、会員個々には多くのトラブ

ルも見られ、完全実施に至るにはまだまだ時間を要することとなる。

◇第４回生涯研修基本課程（１月29日、豊橋市文化会館）

出席者は120人以上。

▷「21世紀の歯科技工士像を求めて」
岡本　茂・日技認定講師

▷「矯正技工を理解するために」
横井欣弘・日技認定講師

◇中高年会議（２月５日、不二パークホテル）

40歳以上の会員による懇談会。「老後の生活設計を考える」と題して約４年ぶりに開催された。参加者は85人。

村井・永野・山本３氏の会長経験者をはじめ、多くの会員による体験談

１、 中高年の歯科技工士生活
２、 健康管理
３、 趣味、その他

アトラクションに落語家・露の団丸師匠の一席。

◇東海４県歯科医学大会に参加（２月25・26日、名古屋市中小企業振興会館）

本会からは延べ1,434人が参加。

《企画講演》

▷「最新の新素材・新材料の動向」
鈴木　明氏（日刊工業新聞社嘱託）

〈研究発表〉

▷「流し込みレジンの無気泡填入法について」　鈴木克彦（瑞穂）

〈テーブルクリニック〉

▷「審美性に優れたオールセラミックスレストレーション」
松本聖市（東名古屋）

▷「リベースのルーティンワーク」
川北泰広（西春日井）
東　賢次（半田）

国際歯科技工学術大会入賞作品展示余技総合展への出品参加

◇自営者総会（２月26日、県中小企業センター）

４月から実施される消費税の説明会を兼ねて。220人出席

《特別講演》

▷「消費税」
林　利三氏（青色申告会連合会会長）

◇技対部合同セミナー（３月12日、名古屋市中小企業振興会館）

▷「労働保険と雇用保険のしくみと加入制度」
勝　　勉氏（県労働部雇用保険課）
青山克之氏
（県労働基準局労災適用課）

▷「創造性とロマンティシズム」
谷まさる氏（名古屋モード学園長）

▷「エアロビクス応用のストレッチング」　藤　利枝子氏　他

◇県歯科衛生士会との親睦会（３月19日、ブランズウィックスポルト）

本会から22人、衛生士会からは18人の参加でゲーム後パーティー。

◇第９回代議員会・総会（３月26日、名古屋市公会堂）

総会終了後に第２回消費税説明会、約300人が出席。

平成元年度

委託歯科技工料の普及定着に努力

前年実施となった大臣告示の委託技工料は、その普及に多大な努力を要した。新たに導入された消費税や会費改定問題など、理解を得るため執行部は全支部を訪問。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（4月29・30日、富山県宇奈月町）

本会からは小切間会長、中村副会長、杉本専務理事、小柳津常務理事、中島・前田理事が出席。

◇役員支部訪問（6月4日）

大臣告示の委託歯科技工料や消費税などの定着を推し進め、会費改定問題など会員の理解を得るため、執行部は全支部を訪問し、3ヵ月かけて指導にあたった。

◇第5回生涯研修基本課程（6月11日、県中小企業センター）

受講者211人

▷「歯科理工学からみた歯科材料、最近の課題」

長谷川二郎（愛知学院大学歯学部教授）

▷「歯科技工の生産性」IE手法による分析結果と対応策

長田　勲・日技認定講師

◇東海4県歯科技工士会協議会に出席（8月26日、舘山寺）

本会からは会長はじめ9人の役員が出席。

◇第10回代議員会・総会（9月10日、県スポーツ会館）

「自営者会費年間5,000円を新設」が可決された。平成2年度より施行。

◇第12回ソフトボール大会（10月10日、春日井市牛山グラウンド）

参加　24チーム・400人

優　勝　　東　三

準優勝　　瑞　穂

◇第3回学術祭「技工フェア」（11月12日、県産業貿易館）

〈講演〉

▷「スポーツと歯」

石島　勉　歯科医師

▷「歯周病と歯科技工」

大野友三　歯科医師

▷「患者のしあわせと歯科技工士」

長倉　功　朝日新聞編集委員

▷会員によるテーブルクリニック10題

▷メーカーによる器材デモンストレーション11題

▷エアロビ・インストラクターによるストレッチ体操

▷県歯科衛生士会によるブラッシング



デモンストレーション

指導

▷不用品交換コーナーや開業相談コーナー　など

◇第９回歯の健康を守る愛知歯科大会に参加（11月12日、県歯会館）

〈顕彰受賞者〉（関係分）

県知事感謝状　　森川重信氏（西）

県歯科医師会会長表彰

高松宏允氏（江南）

◇技対部自営者総会（１月28日、「サンライフ名古屋」）

自営者会員88人出席

〈特別講演〉

▷「時局問題」

坂井　剛（県歯科医師会専務理事）

◇第11回代議員会・総会（３月４日、県スポーツ会館）

小切間会長が再選。

無資格者雇用排除の決議文を採択。

決　議　文

歯科技工法第十七条第一項「歯科医師または歯科技工士でなければ業として歯科技工を行ってはならない。」を遵守する我々歯科技工士にとって、無資格者の技工作業が環境整備の障壁の一因になっているのが現状であります。このことは、大臣告示による歯科技工料金の完全実施、勤務歯科技工士の雇用条件改善にも多大の影響を及ぼし、その進捗を著しく阻むものであります。

現状を放置することは、現代歯科医療への充分な対応力を欠く結果となり、良質の歯科技工物を提供するにあたり、少なからぬ弊害となっており、良質な国民歯科医療の確保に資することが出来ません。

ここに社団法人愛知県歯科技工士会第十一回代議員会・総会において歯科技工料金を遵守することを誓うと共に、無資格者雇用排除の決議を宣言いたします。

平成二年三月四日

社団法人愛知県歯科技工士会

第十一回代議員会・総会

平成 2 年度

大臣告示料金を県歯と合意

全国にさきがけて、委託歯科技工料大臣告示の完全実施を県歯と合意、覚書に調印して、両会がそれぞれ会員指導をしていくことにした。

小切間会長及び一部役員が事情あって任期途中で辞任する事態になった。

◇小切間執行部、歯科技工料問題解決に全力

代議員会・総会で信任された小切間執行部は、未定であった一部役員もすべて出揃いスタート。今年度の重点事業として、「会員に生活安定をなくして社団法人としての目的を達成することはできない。そのためには経済基盤の確立が必要である」との見解から、委託歯科技工料大臣告示の定着を最重点項目として全力を挙げる。

連動して、勤務歯科技工士の雇用の安定、環境整備の促進にも尽力。

この他、歯科技工法制定35周年記念式典の挙行、歯科技工フェアのさらなる発展、組織の拡大に努めた。

◇職員２人制に

会員増、事業の拡大などから事務量が増加し、職員１人を増員した。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（４月29日、石川県山代温泉）

小切間会長、田口専務、金井・前田・朝倉の各常務と職員１人が出席。

◇第13回ソフトボール大会（５月３日、春日井市）

参加179人

優　勝　　蒲　郡
準優勝　　江　南
３　位　　西春日井

◇委託歯科技工料大臣告示の完全実施を県歯と合意

今年の最重要課題として、執行部の総力を挙げて、県歯科医師会との交渉に当たった。「７：３の通達が出た後の日歯の対応がゆる過ぎた、このことが点数改正の足を引っ張ることになる。中医協で決めたことが守れないようでは、今後とも点数アップは望めない」との宮下会長の発言にみられるように、県歯側の深い理解により、双方が完全実施を徹底指導することで一致。

◇技対部臨時総会（６月９日、名古屋国際会議場）

県歯より益川武夫副会長を迎え、会員342人が出席。

県歯との合意に基づく委託歯科技工

料の実施に関し、その経過報告と内容説明のため開催。

◇東海４県歯科技工士会臨時協議会に出席（６月10日、本会事務所）

愛知において、県歯・県技が合意したことで臨時に開かれ、岐阜・静岡・三重の各県から会長以下三役と本会は全役員が出席。

愛知での交渉経過と結果を報告し、料金表・請求書・納品明細書・領収書の用紙等を参考資料として提供。

◇第６回生涯研修基本課程（６月24日、名古屋国際会議場）

242人が出席

〈講演〉

▷「歯科技工の身近な問題を考える」
佐藤敏明・日技認定講師

▷「粘膜組織調整剤を使用した義歯の製作法」　原田庸人・日技認定講師

◇ます釣り大会（７月29日、東加茂郡下山村野原川）

初の釣り大会、参加者70人。

◇東海４県歯科技工士会懇談会に出席（８月19日、三重県鳥羽市）

本会からは、小切間会長、木塚副会長、石川常務、吉川・澤口理事と職員１人が出席。

◇３都府県歯科技工士会懇談会に出席（８月19日、名古屋市「ニューグランドホテル」）

当面する諸問題について意見交換。

愛知における県技・県歯合意は一応の評価を受け、日技に対し、日歯との協調を要望する声が多く出された。

◇第12回代議員会・総会（９月２日、名古屋市総合社会福祉会館）

宮下県歯科医師会会長が出席、先の委託歯科技工料問題について「多少の不満もあろうが、まず“小異を捨てて大同につく”ことが大事、その上で歯科ファミリーが団結して業界の発展を」

推薦委員長一任となっていた副会長、理事、監事の一部役員が全員一致で承認された。

◇歯科技工法制定並びに日技創立35周年記念大会に参加（９月23日、香川県「マツノイパレス」）

本会から60余人が参加。

記念式典の席上、表彰があり、５氏と中村支部が受賞した。

〈受賞者・関係分〉（敬称略）

厚生大臣表彰
山本武司・前会長
（前日技副会長）
岩見重朗・元会長

日技会長表彰
大澤昭二・元副会長
高松宏允・元副会長
千賀　仁・元専務理事
中村支部

◇受賞祝賀会（11月18日、名古屋市「不二パークホテル」）

前項の日技記念大会で受賞の各氏を会員等70余人が賑やかに祝福した。

◇歯科技工士法制定35周年・社団法人設立20周年記念式典（10月14日、ホテルキャッスルプラザ＝**写真次頁**）

鈴木県知事、西尾名古屋市長、宮下県歯科医師会会長、小出愛知学院大学学長、佐野日本歯科技工士会会長をはじめ、多くの来賓を迎えて盛大に式典を挙行。



記念式典で式辞を述べる小切間会長

〈特別講演〉
▷「21世紀における日本の超高齢化社会像」
小川直宏・日本大学経済学部教授
功労者らに表彰状が贈られた。
主な受賞者（敬称略）
県知事表彰　山本武司（前会長）
県知事感謝状
大澤昭二（元副会長）
丹羽安之（前副会長）
永年勤続賞
山岸英昭（小牧）ほか６人
会長表彰
藤井美喜男（元副会長）ほか６人
会長感謝状
久保勝一（元理事）ほか７人
優良支部表彰　蒲郡支部、瀬戸支部
式典のあと、祝賀パーティー。

◇初の県民対象技工フェア（11月25日、栄広場ほか＝**写真次頁**）
４回目の“技工フェア”今回は一般県民を対象に、歯科技工のPRもと「噛むcomeデンタルテクノロジー」と銘打って、名古屋栄の中心地で。数々のイベントや講演会に集まった人は4,770人を超えた。
〈講演〉（名古屋市教育館）
▷「入れ歯の正しい使い方」
県歯科医師会　宮村一弘先生
▷「外観を重んじた歯科治療」
県歯科医師会　池田篤子先生
▷「きれいな歯ハはの歯」
県歯科衛生士会
久田せつ子・内藤三納子両先生
▷「入れ歯・さし歯の種類」
中島　勝（東名古屋）
▷「入れ歯・さし歯のしくみと役割」
佐藤幸司（守山）
〈特別講演〉
▷「出逢い ふれあい 人間コンサート」
天野鎮雄（俳優）
〈主なイベント〉（栄広場）
歯の相談コーナー、虫歯予測テスト、輪投げコーナー、パネル展示、



宮下県歯会長（中央）他来賓らによるテープカットで技工フェアが開幕

歯垢の観察、口臭測定、
風船コーナー、アイバンクコーナー、
歯の記念撮影、子どもの手型作製、
ワイヤー曲げコーナー、
腎臓バンクコーナー、
歯槽膿漏の検査、七宝焼コーナー、
歯科技工デモ、骨髄バンクコーナー

◇小切間会長途中辞任　柴田副会長が代行

委託歯科技工料問題、35周年記念式典、技工フェアの準備などの中、役員間の意見の差異が感情的な行き違いともなり、９月に監事１人を含む役員７人が辞表提出。相談役などの調停でも慰留できず、11月に至り、小切間会長は辞表を受理し、自らも辞任。急きょ柴田副会長が会長職を代行することに。

◇第１回愛知歯科保健大会に参加（11月18日、県歯科医師会館）

宮脇　明氏（東三）が県歯科医師会会長賞を受賞。

◇保険医協会との懇親会（11月29日、ラ イオンズプラザナゴヤ）

本会からは柴田会長代行、中村副会長、田口専務、石川・吉川理事が出席。

◇第13回臨時代議員会・総会（２月10日、名古屋市総合社会福祉会館）

11月より空席となっていた、会長及び理事選出のため開かれた。会長に柴田副会長（同代行）、理事に２人（欠員は６人）が信任された。

◇技対部総会及び合同セミナー（２月24日、名古屋国際会議場）

◇第14回代議員会・総会（３月31日、名古屋市中小企業振興会館）

欠員となっていた役員は、今年度末で辞任する人を含む副会長３人、理事８人、監事１人が満場一致で信任された。

〈高齢者顕彰〉（敬称略）

永野志農夫（中村）
前田大也（瀬戸）
小林静二（東三）

平成 3 年度

会館建設の気運高まる

大阪府歯科技工士会館が竣工されたことも刺激になって会館建設の機運が高まり、積極的に取り組むことになった。

技工を理解してもらおうと開催した歯科技工フェアは、約5,800人の来場者があり大盛況だった。

◇柴田執行部スタート（４月１日）

柴田会長「会員の生活安定対策を最重要課題とし、会館建設に関しては広く皆様の意見を聞きながら進めたい」

◇柴田会長、大阪府歯科技工士会会館落成記念式典に出席（４月13日）

後日の理事会で柴田会長は「本会でも出来ないことはない」

◇東海北信越ブロック協議会に出席（４月28日、蒲郡市竹島ホテル）

◇県歯科医師会との懇談会（６月４日、県歯科医師会館）

県歯から坂井専務、加藤常務、岩田、新谷社保次長、本会から斎藤副会長、田口専務理事、鈴木・朝倉・中島常務理事が出席して、委託歯科技工料７対３の定着と会員指導、労働保険の加入などについて。

◇第15回歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（６月９日）

参加者　15人

◇第７回生涯研修基本課程（６月23日、白鳥センチュリープラザ）

〈講演〉

▷「セラモメタルワークの進歩と変化」　伊集院正俊・日技認定講師

▷「これから良くなる歯科技工」　和田弘穀・日技認定講師

受講者は196人

◇日技・日歯に要望書を提出

社会保険診療に関する歯冠修復及び欠損補綴の製作料について、次回診療報酬改定に向けて県歯科医師会と打ち合わせが進められていたが、今回両会長連名で各々上部団体に要望書を提出した。これは、平成２年８月９日の県歯との間で取り交わされた覚え書きをもとに、打ち合わせが進められてきたもので、全国に先駆けたもの。

◇三都府県三役懇談会に出席（大阪府歯科技工士会館）

本会からは柴田会長、浅井・斎藤・三輪副会長

◇東海４県歯科技工士会懇談会に出席（８月24日、岐阜市「ホテルパークみなと館」）

本会からは柴田会長、浅井副会長、田口専務、中島常務、戸ケ崎・川本理事が出席。

◇長崎県歯科技工士会へ雲仙災害義援金を贈る

本会からの10万円と会員の善意115,118円。

◇第15回代議員会・総会（９月１日、県産業貿易会館）

協議項目の「会館建設」には慎重意見が多く出された。

◇東海北信越ブロック学術大会（９月15日、静岡県掛川市）

本会から117人参加。

〈実技と研究発表〉（関係分）

▷「Branmerk・systemによるインプラント上部構造の製作について」井口昭嘉（豊田）、三品富康（知多）鈴木永吉（瑞穂）

◇第５回歯科技工フェア（10月20日＝**写真**）

「噛むcome Dental Technology」をサブタイトルに歯科医療の中での歯科技工の重要性を、一般の人々に理解してもらおうと開催。

主なイベント

・歯のクイズ　・バンド演奏
・氷で歯の彫刻　・カルタ取り
・ワイヤー曲げ　・輪投げ
・手型コーナー　・風船つり
・七宝焼き　・歯科技工デモ

「歯の相談コーナー」や子どもたちによる「ぬり絵」などが行われ、約5,800人の入場者で賑わった。

◇第２回愛知歯科保健大会に参加（11月10日、県歯科医師会館）

木塚　茂氏（瀬戸）県歯科医師会会長賞受賞。

◇竹花庄治愛知学院大学歯学部教授の告別式に、役員並びに会員多数参列（１月24日）

◇第44回県歯科医学大会に参加（２月21日・22日、名古屋中小企業振興会館）

〈企画講演〉（関係分）

▷「患者さんに喜ばれる総義歯」小林俊三・歯科医師

〈研究発表〉（同）

▷「純チタン焼付ポーセレンについて」柴田光男（西三）

◇第16回代議員会・総会（３月29日、名古屋市中小企業振興会館）

柴田会長は「会員一人ひとりの生活安定のために、料金問題を最重要課題とし直接請求をめざす」とあいさつ。



開会のあいさつをする柴田会長

平成 4 年度

会館建設へ徐々に進捗

柴田会長がラジオ番組に出演して、歯科技工士の重要性をアピール。「会館建設準備基金」が承認され会館建設に一歩前進。

◇料金表、分析表作成

平成２年に、公取委から「独禁法第８条・競争の制限に関する事項」に抵触する疑いがあると指摘された製作技工料金表について４月16日見解が出された。会は金額を記した料金表、納品書、請求書は発行できないものの、70%の数字を明記することは認められた。

この問題に対して公取委は当初、団体と団体が料金を決めることはカルテルにあたり違法である。大臣告示は法的根拠がないなどの理由から、料金表、帳簿類は違法になるので全てに破棄すべきとの姿勢であった。これに対して本会は、厚生省局長通達に従って行っていること、上限があって下限がない自由競争があるのかなどの主張をした。東京の公取委へも出向き何度も事情説明を重ねた結果、歯科技工士の実態に理解を示し前記の見解となった。

本会では今後、70%を明記した分析表を発行することになった。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月16日、岐阜県高山市）

本会から柴田会長、三輪副会長、田口専務、中島常務、川本・内田・戸ケ崎各理事が出席。

◇第16回歯科医療関係団体軟式野球大会に参加（５月17日、尾張旭グランド）

◇デンタルフェスティバル'92に参加（６月６・７日、NHK放送センター）

昨年の歯科技工フェアの成功を見た県歯科医師会が開催したもので、県歯科衛生士会とともに協力した。

本会コーナーは、補綴物の展示と歯科技工デモ、手型作製、七宝焼き。

◇県保険医協会との懇談会（６月17日、同協会伏見会議室）

〈テーマ〉

▷「歯科技工士さんとの協力で危機打開を」

社会保険部会から池歯科部長、小谷、大橋、大岩、谷、寺田、矢野の７人、本会は柴田会長、田口専務、鈴木・中島・前田常務が出席。

◇第８回生涯研修基本課程（６月21日、西春日井郡師勝町民総合体育館）

〈講演〉

▷「保険医療と歯科技工」

西村周三・京都大学経済学部教授

▷「やさしい咬合の話」
斎木好太郎・日技認定講師

◇東海４県歯科技工士会協議会に出席（６月27日、吉良観光ホテル）
本会からは柴田会長以下全役員が出席。

◇第17回代議員会・総会（９月６日、県スポーツ会館）
〈来賓〉大島慶久参議院議員
▷「会館建設準備基金案」承認される。
会の資産（会館建設積立金・定期預金・入会金・特別福祉基金）を運営に支障のない範囲で会館建設に充当できることに。

◇第15回ソフトボール大会（10月10日、春日井市上条グラウンド）
役員チームを含む17チームが参加。
優　勝　　蒲　郡
準優勝　　西春日井
３　位　　江　南

◇柴田会長、FM愛知「クリーンデンタル」に出演（10月３日）
県歯科医師会提供の番組で、柴田会長が一般の人たちに対して歯科技工士の仕事をわかりやすく話した。

◇歯科技工士学校教務主任との合同会議（10月８日）
学校側から、岡崎和良、近藤厚、佐藤元信各氏。本会は浅井副会長ほか６人の役員が出席。

◇県民と共に考える愛知歯科保健大会に参加（11月８日、県歯科医師会館）
〈顕彰者〉（関係分）
県歯科医師会会長表彰
島田邦夫氏（小牧）

◇柴田会長、東海ラジオ「歯、お元気ですか」に出演（11月16日）
「歯科医療の中での歯科技工士の役割」をテーマに話す。

◇技対部合同セミナー及び総会（２月７日、名古屋市中小企業振興会館）
総会で柴田会長は「直接請求を目指しているが、現時点では大臣告示を厳守して欲しい、600人足らずの自営者が団結できない訳がない」
〈講演〉
①「開業までの一考察」
萩原良治（東三）
②「今、技工所経営に何が必要か」
大林茂夫・経営コンサルタント
出席者118人

◇第45回東海地区歯科医学大会に参加（２月20・21日、名古屋市中小企業振興会館）
会員723人が参加
〈本会企画講演〉
▷「リンガライズドオクルージョンを付与した総義歯の臨床」
石田　修・日技認定講師
〈同会員発表〉
▷「純チタン、レジン前装鋳造冠における各種維持形態について」
森　和生（海部）
本会は「聞・見学・展示・体験するコーナー」で歯科技工物の展示と手型作製を行った。

◇第18回代議員会・総会（３月17日、県産業貿易会館）
柴田会長は「定款と会員のための福祉共済制度を見直す。会館建設は原点に還って考える」とあいさつ。
〈高齢者顕彰〉（敬称略）
大沢　清（瀬戸）
藤井美喜男（春日井）
杉浦秀士（西尾）

平成 5 年度

会館用地取得を決定

任期満了による新執行部が発足した。
福祉共済見直し、全国生涯フェスティバル参画等、重要課題へ総力を注ぐとともに、長年の懸案である会館建設、用地の購入を決定。

◇新執行部発足（４月１日）
柴田会長は、新執行部の指針として歯科技工士の職責自覚の徹底、環境整備について、会館建設・福祉共済の見直し等を表明。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月８・９日、長野県諏訪簡易保険保養センター）

◇第17回県歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（５月16日）

◇デンタルフェスティバル'93に参加（６月５・６日、NHK放送センタープラザウェーブ21）
手型コーナー、七宝焼コーナー、氷の彫刻、歯科補綴物、模型の展示等で共催。

◇静岡県歯科技工士会、社団法人認可祝賀会に柴田会長、三輪副会長出席（６月27日）

◇東海北信越ブロック実務者会議に出席（７月11日、県産業貿易会館）
本会が担当し、全役員が出席。

◇東海４県歯科技工士会懇談会に出席（９月４日、静岡県）
柴田会長、丸山専務、辻常務。

◇日技代議員会、総会に出席（９月18・19日、日技会館）
柴田会長、丸山専務、辻、岩本常務。

◇第19回代議員会、総会（９月26日、県産業貿易会館）
会館建設基金が機動的に解除できることになり、会館建設実現へ前進した。

◇第16回ソフトボール大会（10月10日、春日井市熊野グラウンド）
優　勝　　小　牧
準優勝　　中　村
３　位　　江　南

◇中部善意銀行に35,000円預託（10月12日）

◇県歯科医師会との懇談会（10月25日）

◇歯～とぴあ8020愛知県歯科保健大会に参加（11月７日、県歯科医師会館）
歯型コーナーに。
県歯科医師会会長表彰
川北幸広氏（西春日井）
久保勝一氏（西尾）

◇第５回全国生涯フェスティバル「まなびピア'93 in 愛知」に参加（11月19日



展示説明風景

～23日、名古屋市中小企業振興会館）
県民に歯科技工士の職業理解を求めるため、歯科技工物の展示、パネル展示、歯科技工士へのプロセス及び、主な資料等説明パンフレット1450部以上を配布した。

◇第４回生涯研修基本課程（11月21日、栄ガスビル）
▷「審美補綴最前線」
妹尾輝明・日技認定講師
▷「美しくよく噛める歯の話」
丸森賢二・歯科医師
生涯フェスティバルの一環として開催、多数の市民参加があった。

◇東海北信越ブロック会長会議に柴田会長出席（２月26日、静岡県富士市）

◇県歯科医学大会に参加（２月19・20日、名古屋市中小企業振興会館）
〈本会企画講演〉
▷「形状記憶合金の医用応用人工歯根と上部構造体を中心として」
福与碩夫氏・口腔インプラント生涯研修センター所長
〈研究発表〉
▷「オッセオインテグレイテッド・インプラントを応用した顎顔面補綴の技工」　三品富康（知多）
▷「人に優しいニューセラミックの臨床」　佐藤勝彦（春日井）
▷「インフォームド・コンセントとシェードティキング」
石垣精三（中川）

◇会館建設用地購入決定（２月20日、名古屋市中小企業振興会館）
役員、会館建設委員、支部長の合同会議で、会館建設用地として次の物件を購入することを決定。

名古屋市東区矢田町３丁目49番地３
面　積　513.00㎡（155.45坪）
価　格　115,000,000円

◇歯科技工法改正に伴う感謝の会に出席（３月17日、赤坂プリンスホテル）
柴田会長、丸山専務、辻・中野常務、永野元会長出席。

◇第20回代議員会、総会（３月27日、県産業貿易会館）
「会館に係る借入金及び分担金と使途について」借入金４千９百万円、返済期間40年間、分担金月額１人700円等が決定された。
◎入会金及び再入会金については、
新入会者（自営者）１万円
（勤務者）無料

〈高齢者顕彰〉（敬称略）
渡辺忠夫（西）
八木謙一（豊川）
水野茂孝（豊田）

◇宮下県歯会長の日歯副会長就任祝賀会に柴田会長出席（３月31日）

平成 6 年度

会館の概要固まり建設へ

懸案であった会館建設が決定され、それに県および名古屋市から３千万円が補助されることになった。

◇「愛知県歯科技工士会共済会」発足（４月１日）

◇技対部自営者総会（４月17日、県産業貿易会館）

〈特別講演〉

▷「保険の疑義解釈について」

新谷澄男・県歯科医師会社保担当理事

▷「技術共同体について」

柴田光男（西三）

▷「歯科技工における廃棄物処理について」

藤本　穣氏（産業廃棄物処理業）

◇県歯科医師会との打ち合わせ（５月７日、県歯科医師会館）

丸山専務、辻常務、内藤・今村理事出席。

◇**会館建設用地取得契約**（５月12日、東海銀行柳橋支店）

柴田会長、岩本常務、田口会館建設委員長出席。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月14日、新潟県佐渡）

柴田会長、丸山専務、戸ケ崎・中島・辻常務。

◇デンタルフェスティバル'94に参加（６月５日、NHK名古屋放送センタービルプラザウェーブ21）

◇歯科材料商協同組合と会合（６月９日、本会事務所）

◇中高年会議（６月19日、毎日ビル国際サロン）

会員44人が出席。宮田燿彰氏（コンサルタント）の「心と健康」についての講演後、懇談会。

◇県歯科医師会との医療センター保険歯科技工料についての「覚書」調印（６月21日、県歯科医師会館）

柴田会長、丸山専務出席。

◇日技、東海４県歯科医師会長会、同４県歯科技工士会長会議に柴田会長出席（６月23日）

◇第18回県歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（６月23日、東海病院グラウンド）

◇卒後研修指導者セミナー（８月28日、県スポーツ会館）

◇東海４県歯科技工士会協議会に出席（９月３日、三重県湯之山）

柴田会長、丸山専務、岩本常務。

◇歯科技工フェスティバル（９月10・11日、豊橋市民文化会館）

豊橋健康まつりに三河ブロックが参画。

◇第10回生涯研修基本研修課程（９月11日、豊橋商工会議所ビル）
　教育課程「夢の超合金、生体用チタンについて」　藤根道彦・工学博士
　専門課程「法改正の意義と、これからの展望」　平野良治・日技副会長
◇日技代議員会、総会に出席（９月17日、日技会館）
　柴田会長、丸山専務。
◇第21回代議員会、総会（９月25日、名古屋市中小企業振興会館）
〈高齢者顕彰〉（敬称略）
　本持良三（江南）、福田広子（昭和）
　岩見重朗（昭和）、樋尻　実（一宮）
◇第12回東海北信越ブロック歯科技工学術大会に参加（10月９日、福井市フェニックスプラザ）
〈研究発表〉（関係分）
▷「オッセオインテグレイド・インプラントを応用した顎顔面補綴の歯科技工」　三品富康（知多）
▷「人に優しいニューセラミックの臨床」　佐藤勝彦（春日井）
▷「磁気アタッチメントの臨床応用」　下川勝喜（中村）
〈テーブルクリニック〉（同）
▷「ラピッドフレックスシステムによる金属床の製作」　新海健市（瑞穂）
▷「合理的な高精度金属床義歯の製作法」　小柳津純男（日技認定講師）
◇国際長寿科学シンポジウムに柴田会長、安形副会長出席（10月19日）
◇ボウリング大会（10月23日、星ヶ丘ボウル）
　121人が参加
◇わかしゃち国体開会式に柴田会長出席（10月29日）
◇第５回県歯科保健大会に参加（11月６日、県歯科医師会館）
　県歯科医師会会長表彰
　　古田　勝氏（江南）
◇県内歯科技工士学校同窓会会長と懇談会（11月20日）
　柴田会長、浅井・三輪副会長、丸山専務、辻・戸ケ崎常務が出席。
◇東海歯科用品商組合との懇談会（12月１日）
　柴田会長、安形副会長、丸山専務出席。
◇県歯科医師会との懇談会（12月９日）
　丸山専務、辻常務、内藤、今村理事出席。
◇阪神・淡路大震災へ義援金（２月５日）
　兵庫県技へ百万円を贈った。
◇会館建設助成金認められる（２月17日）
◇柴田会長、東海北信越ブロック会長会議に出席（２月25日、松坂市）
◇技対部セミナー（３月12日、熱田神宮文化殿）
▷「労働基準法について」
　粂田知行・地方労働基準監察監督官
▷シンポジウム
　「歯科技工界の現状と将来展望について」
加藤直彦・県歯常務理事、粂田知行・地方労働基準監察監督官、杉原哲男・税理士、三品富康（会員勤務者）、藤井靖久（会員自営者）、柴田桂太（会長）
◇日技代議員会に出席（３月18・19日、日技会館）
　柴田会長、丸山専務、今村理事及び鈴木連盟理事長。
◇第23回代議員会、総会（３月26日、県産業貿易会館）

平成 7 年度

会館竣工！長年の夢ついに実現

念願であった会館が完成。長年の苦労が花開いた年となった。法制定40周年、社団法人化25周年を併せての記念式典を開催した。

◇**会館地鎮祭**（４月４日＝**写真**）
関係団体の来賓各位、本会役員、竹中工務店担当者が出席して行われた。

◇実務者会議（５月７日、東別院青少年会館）
支部長、地区専務、各事業部部員が出席して開催。

◇21世紀愛知万博誘致委員会に柴田会長出席（５月15日）

◇第19回歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（５月21日、東海病院グラウンド）

◇長野県技40周年記念式典に柴田会長出席（５月27日）



柴田会長による鎌入れ



工事の安全を祈る

◇東海北信越ブロック協議会に出席（６月10日、静岡）

柴田会長、安形副会長、丸山専務、辻常務、鈴木連盟理事長。

◇宮下県歯会長藍綬褒章受賞祝賀会に出席（６月11日）

柴田会長、浅井・三輪・安形副会長、丸山専務。

◇全国組織担当者研修会へ安形副会長出席（７月１日、日技会館）

◇東海４県技懇談会に出席（８月27日、岐阜）

柴田会長、浅井副会長、中野常務理事。

◇**会館落成式竣工祝賀会**（８月31日、会館）



新会館で開かれた竣工祝賀会であいさつする柴田会長

会館落成式竣工祝賀会は政官界、関係団体、施工者、会員等百十余人の出席者を迎え会館で行われた。

◇**歯科技工士法制定40周年、社団法人設立25周年並びに会館竣工記念式典**（９月３日、名古屋ヒルトンホテル＝**写真下**）

会長式辞の後、平野日技副会長挨拶、佐治正之愛知県副知事、登内洋人名古屋市助役等の祝辞。表彰状、感謝状授与の後、受賞者を代表して小切間邦雄氏が謝辞、会員を代表して下川勝喜氏による誓いの言葉。

続いて祝賀パーティー。

◇健康フェスティバル'95に参加（９月14日～19日、松坂屋本店）

名古屋ブロックが参加。歯科技工物の展示と説明、歯科及び歯科技工物等の啓発に係るパンフレット配布。

◇第23回代議員会、総会（10月１日、本会会館）

柴田会長が会館落成式・記念式典のお礼、大手ラボの問題、無資格者排除の件等や、今後の会館利用についてあいさつ。



盛大に催された法制定 40 周年等の記念式典。円内は式辞を述べる柴田会長
（９月３日、名古屋ヒルトンホテル）

◇歯科技工フェスティバル「健康づくり県民のつどい」に参加（10月14日、大府養護学校）
　尾張ブロックが担当、七宝焼、歯科技工物展示説明。
◇生涯研修第11回基本研修（10月15日、本会会館）
社会学
「法改正その後と将来の展望」
佐野恵明・日技会長
専門学
「キャストパーシャルの構造設計について」　川島　哲・日技認定講師
出席者　137人
◇第２回ボウリング大会（10月29日、星ヶ丘ボウル）
参加者　230人
◇第６回愛知県歯科保健大会に参加（11月５日、県歯科医師会館）
　柴田桂太会長が県知事感謝状、杉本紘平氏(緑)が県歯科医師会長賞を受賞。
　歯型コーナー、歯科技工物の展示・説明、歯科技工紹介パンフレットを配布。
◇長寿科学シンポジウムに出席（11月６日）
　浅井副会長、丸山専務。
◇愛知学院創立35周年記念式典に柴田会長出席（11月17日）
◇日技歯科技工士法制定40周年記念式典に出席（11月25日、東京・日比谷公会堂）
　本会から次の５氏が顕彰された。
（敬称略）
厚生大臣賞　社本昇貴（東北）
斉藤年寛（豊田）
日技会長表彰　丹羽安之（知多）
小切間邦雄（千種）
浅井貞雄（知多）
　その後、東京会館にて記念パーティー。
◇県歯との懇談会（12月２日）
　三輪副会長、丸山専務、辻・岩本常務。
◇スタッフ合同研修会に出席（12月20日、アイリス愛知）
◇新年会（１月14日、本会会館）
　新年会を初めて本会会館で行った。来賓は県歯科医師会の宮下会長、坂井専務、加藤・宮村常務、連盟顧問の鈴木政二参院議員、今枝敬雄元衆院議員、谷田、岡本各名古屋市会議員。
◇第１回愛知県歯科技工ゼミナール（１月28日、本会会館）
〈講演〉
▷「BRIDGEを可能にしたオールセラミックシステム、ビタインセラムシステム」　久野富雄・日技認定講師
▷「解剖学から学ぶもの、日常の臨床から学ぶもの」
佐藤幸司・日技認定講師
▷「フェイシングワークにおける諸問題をどう解決するか」
白石静男・日技認定講師
◇厚生大臣、日技会長表彰受賞祝賀会（２月３日、国際サロン）
　日技創立40周年記念式典において顕彰された５氏を祝う祝賀会を開催。
◇県歯科医学大会に参加（２月24・25日、名古屋市中小企業振興会館）
〈研究発表〉（本会関係分）
▷「骨結合型インプラント上部構造の適合精度向上の為に」
三品富康（知多）

〈ワークショップ〉
▷「オールセラミックに関して」
〈本会・県歯科医師会共同特別講演〉
▷「新しいセラミックに期待するもの、その現状とこれから」
久野富雄（天白）らによるシンポジウム本会の参加者　610人

◇会館建設特別委員会・会館建設維持特別委員会合同委員会（３月９日、本会会館）

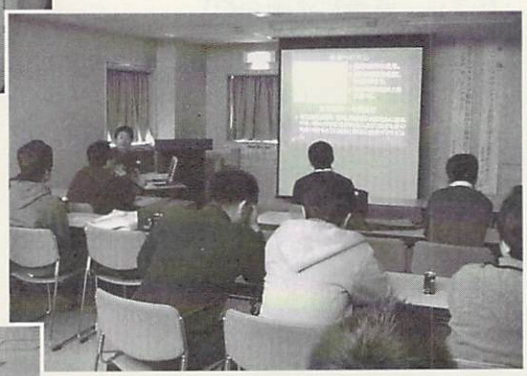
◇第24回代議員会、総会（３月24日、本会会館）
柴田会長が、経済問題、にせ歯科技工士問題の取り組みについてあいさつ。

◇技対セミナー（３月31日、県産業貿易会館）
出席者　220人

新しい会館の有効活用が始まった



３階　実習室



３階　中会議室



１階　大会議室

平成 8 年度

浅井執行部、組織拡充に一丸

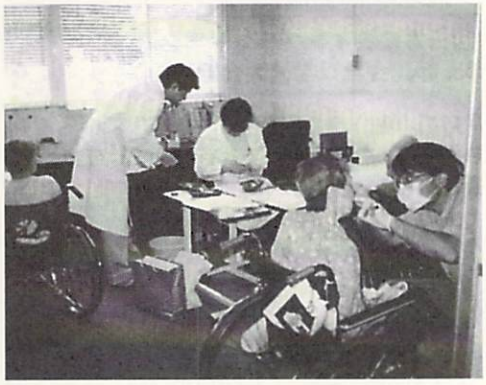
支部長会をより重視して会員との密接な交流を図り組織拡充を進めることを目標に新執行部がスタートした。

◇デンタルフェスティバル"96 打ち合わせ会に出席（４月25日、歯科医師会館）
◇支部長会で意見交換（４月28日、本会会館）
◇浅井会長21世紀万博協議会に出席（５月７日）
◇「愛歯月報」にインタビュー受ける（５月９日、本会会館）
県歯広報部担当の浅見理事らが来訪、浅井会長がインタビューを受けた。この模様は「愛歯月報」に掲載された。
◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月18日、鳥羽市）
◇デンタルフェスティバルに参加（６月２日、NHK名古屋放送センタービル）



七宝焼に挑戦の子どもたち

本会は七宝焼、パネルを使って義歯やポーセレンの説明
◇東海北信越ブロック実務者会議に出席（７月14日、本会会館）
◇【会員証明書】を発行
◇東海４県歯科技工士会懇談会に出席（８月25日、本会会館）
◇義歯に名前入れのボランティア事業開始（９月５日）



初の義歯ネーム入れ事業（瀬古マザー園で）

１回目として名古屋市守山区の「瀬古マザー園」を訪問。
◇第25回代議員会・総会（９月８日）
◇健康フェスティバル"96 に参加（９月10日～17日、松坂屋本店）

本会は２回目のこの年は、歯科技工物の展示や、コンピューターを使い歯科技工の説明を行った。ミクロに挑戦や氷の彫刻は来場者に好評。

◇歯科技工所運営研修会（10月13日、本会会館）

厚生省健康政策局からの「検討会報告書」を会員に指導徹底するために開催。45人が出席。

◇熟年会員親睦会（10月20日、大須演芸場）

60歳以上の会員８人が出席。漫談や落語を楽しんだ。

◇第７回愛知歯科保健大会に参加（11月10日、県歯科医師会館）

本会は「歯型コーナー」
「ミクロの世界」

〈顕彰者〉（関係分）

県知事感謝状　　辻　政明氏（西）
県歯科医師会会長表彰
中野重信氏（緑）

◇ボウリング大会（11月７日、名古屋市・星ヶ丘ボウル）

会員及び家族、歯科医師会など関係団体を含め241人が参加。

◇三都府県会議に出席（11月23日、本会会館）

本会から浅井会長、安形・島田・藤各副会長、藤野専務理事ほか役員多数。厚生省告示の徹底や「シケン」問題が焦点。

◇技対部セミナーで総決起大会（２月16日、県女性総合センター）

〈特別講演〉

▷「歯科技工専門職確立の道程」
岩倉政城東北大学教授

約300人が出席。良質な歯科補綴物の提供を誓う決議文読み上げ。



力強くシュプレヒコールをする参加者

決議文

我々歯科技工士は医療人であることを自覚し、歯科医療を通して県民の健康を守るため健全な歯科技工界をもってより良質な歯科技工物を提供することを義務とし一層の努力と献身を惜しまぬことを愛知県歯科技工士会会員を代表してここに誓います

平成九年二月十六日

社団法人　愛知県歯科技工士会
会員代表　稲垣一寿

決起大会での決議文

◇東海地区歯科医学大会に参加（２月22・23日、名古屋市中小企業振興会館）

本会受付1,543人

〈本会企画講演〉

▷「Still～色調の審美に焦点をあてたシェードテーキング」
山本尚吾・日技認定講師

◇第１回卒後研修（３月20日、本会会館）

▷「新人歯科技工士に求められる意識と行動」
(株)管理者養成所・岩井喜也氏

▷「新卒者のための臨床的クラウンの作り方」　久野富雄氏

◇第26回代議員会・総会（３月23日、本会会館）

浅井会長は２年目に向けて、「組織の拡充・経営基盤の確立・環境の浄化をさらに進める」

平成 9 年度

無料職業紹介事業始まる

会員の就職・求人活動を円滑に行うために、全国で初めて労働大臣の許可を得て歯科技工士の職業紹介所を開設。

◇無料職業紹介事業開始（４月１日）

◇中央支部が発足（同）

中支部と東北支部が統合。

◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月10日、福井県）

◇歯科技工指示書に署名・捺印を県歯と合意

◇釣り大会（６月15日、知多半島・豊浜漁港）

表彰式の後バーベキューで親睦を図った。68人が参加



大漁だー！

◇老人ホームで義歯のネーム入れ（７月17日、西春町「五条の里」）

68床の義歯に西春日井支部会員および役員がネーム入れ奉仕活動。

◇名古屋歯科医療専門学校で講義（７月22日）

役員が出向して講義。

◇第27回代議員会・総会（８月30日、本会会館）

◇NHKテレビ「おしゃべりランチ」で義歯ネーム入れ事業を紹介（９月２日）

安形副会長と渡辺理事が出演。義歯にネームを入れる工程の説明と老人ホームでの奉仕活動が紹介される。放映後視聴者から多数の問い合わせがあった。

◇三都府県会議に出席（９月４日、大阪）

本会からは安形・島田・藤各副会長、藤野専務理事。

◇豊川市でネーム入れボランティア（９月４日、養護老人ホーム「平尾荘」）

豊川歯科医師会の協力を得て豊川支部会員11人が奉仕活動。

◇健康フェスティバル"97に参画（９月11日～16日、松坂屋本店など３会場）

歯科技工物の展示、ミクロに挑戦、氷の彫刻など名古屋ブロック会員が協力。

◇熟年会員懇親会（10月19日、大曽根すずらん南座）

60歳から90歳近くの会員21人が剣劇と歌謡ショーを楽しんだ。

◇東海歯科医療専門学校で講義（10月15・20日）

河合範久氏（豊田）を派遣して講義

◇ブロック学術大会に参加（11月２日、岐阜県）

本会から258人参加。

〈研究発表〉（関係分）

▷「クリセラを使ったオールセラミックス」　稲垣弘政氏（千種）

▷「メタルボンドのトレーニング」　鈴木輝吉氏（天白）

◇県民と共に考える第８回愛知歯科保健大会（11月９日、県歯科医師会館）

〈顕彰者〉（関係分）

知事感謝状　三輪英朗氏（西）

県歯科医師会長表彰　中島勝氏（東名古屋）

本会コーナーは「ミクロに挑戦」、「ワイヤー曲げ」、「あなたの歯型作ります」を行った。

◇生涯研修第13回基本研修課程（11月16日、本会会館）

104人が受講。

▷「人間どう生きる」　比叡山総本堂輪番・赤松光真先生

▷「各種インプラントの総論と技工」　増田長次郎・日技認定講師

◇第４回ボウリング大会（11月23日、岡崎市グランドボウル）

参加者　114人

◇女性歯科技工士と懇談会（11月30日、本会会館）



女性歯科技工士と組織部委員

◇４校教務主任との懇談会（12月11日、本会会館）

「歯科技工業界への定着を計るために」を議題に意見交換。

◇会長代行決定（１月29日）

浅井会長の辞任を受けて次期代議員会・総会まで藤副会長の代行を理事会で決定する。

◇勤務者にも「会員証明書」

自営者に発行していた「会員証明書」を勤務者にも発行することを決定。

◇県歯科医学大会に参加（２月21日・22日、名古屋市中小企業振興会館）

〈本会企画講演〉

▷「歯科医療と技工士を取り巻く経済環境」

京都大学経済学部　西村周三教授

148人が聴講。

◇第28回代議員会・総会（３月１日、本会会館）

新会長に安形敏男氏を選出。

「経済基盤の確立と県民への啓発活動に全力で取り組む」ことを表明。

◇第２回卒後研修（３月８日、本会会館）

▷「歯科技工業界における身近な経済」　杉原哲男氏（税理士）

▷「歯科技工業界の今・そして未来」　鈴木克彦連盟理事長

◇技対部合同セミナー（３月29日、名古屋国際会議場）

▷「21世紀の歯科技工士が医療人として知っておきたいこと」　高柳和江・日本医科大学助教授

〈特別講演〉

朽名正也県歯科医師会理事の医療保険点数改定について説明

平成10年度

安形会長にバトンタッチ

一身上の都合により任期途中で辞任した浅井会長に代わり、安形新会長が就任。他の役員は代わらず残任の１年を新会長の下で全力投球した。

◇第29回臨時代議員会・総会（４月26日、本会会館）

安形会長に交代した経緯の説明と今後の活動方針を示すため開催。安形会長は「行動する執行部」を目標に掲げ会員に協力を要請した。補充役員１人を選出。

◇東海四県歯科技工士会懇談会に出席（５月10日、三重県）

料金問題・中間業者が中心議題。本会からは青木顧問弁護士の中間業者に対する見解を示して、対応説明と他県への協力を要請。

◇交通安全講習会（５月24日、本会会館）

会員が営業活動の際の交通安全意識を高めるために開催。76人の受講者に「会員車両標章」が渡された。

◇佐野日技会長・支部長懇談会（６月27日、本会会館）

日技と本会との強固な協力体制を築く目的で開催された。歯科技工業界の厳しい現実に支部長以外の多数の会員も出席して、大臣告示への対処などについて多くの質問。

◇第30回代議員会・総会（７月26日、本会会館）

安形会長は「経済基盤の確立のために、労働環境の整備と地域歯科医師会との関係を密にしたい」

◇大運動会（８月９日、名東スポーツセンター）

会員及び家族401人が参加して親睦を図った。



競技終了後全員が輪になった

◇東海北信越ブロック協議会に出席（９月５日、富山県）

ブロック学会は、今後全会員が日本歯科技工学会に入会することから規模を縮小することに決まる。

◇NHKテレビ番組制作に協力

NHK名古屋放送局制作の歯科技工士を紹介した「大人の試験」（10月７日放映）に本会会員の歯科技工作業の模

様が全国放送された。

◇基本研修課程（10月11日、本会会館）

▷「包括的歯科技工を考える」

西村好美・日技認定講師

▷「21世紀における歯科技工士の役割と職業倫理」

佐藤幸司・日技認定講師

108人が受講

◇第３回国際歯科技工学会に参加（10月31日・11月１日、パシフィコ横浜）

本会から235人

◇「ねんりんピック'98 愛知・名古屋」に参加（10月31日～11月３日、あいち健康の森）



好評だった歯科技工士会コーナー

「歯科技工物模型の展示」「ワイヤーアート」「ミクロに挑戦」を行った。健康と文化とスポーツの祭典に参加して、歯科技工物と歯科技工士を県民にアピールした。

◇三都府県会議に出席（11月１日、神奈川県技事務所）

本会からは安形会長、藤・島田・藤野各副会長。

◇第９回愛知歯科保健大会に参加（11月３日、愛知健康プラザ）

〈顕彰者〉（関係分）

県知事感謝状　　大澤昭吉氏（中村）

県歯科医師会会長表彰

小柳津純男氏（中川）

◇歯科技工所管理者等研修会（１月24日、県歯科医師会館）

約500人が出席

▷「感染防止対策」

望月廣日本歯科大学歯学部講師

▷「作業環境の整備」

福沢洋一日本大学講師

〈講演〉

日技から「設備構造基準」について説明。

◇県歯科医学大会に参加（２月20・21日、名古屋市中小企業振興会館）

〈本会企画講演〉

▷「ナースが聞いた泣き笑い入れ歯人生」

広島大学歯学部附属病院看護婦長

迫田綾子氏

◇女子部懇談会（２月21日、名古屋市中小企業振興会館）

◇平成10年度技対セミナー（２月28日、本会会館）

▷「歯科技工料原価計算について」

古橋博美・日技常務理事

▷「勤務者における労働基準法等について」　和田章・日技常務理事

◇第31回代議員会・総会（３月７日、本会会館）

新会長に丸山功氏を選出し、新役員が決まる。

◇卒後研修（３月22日、本会会館）

参加者　50人

▷「歯科技工業界を取り巻く経営環境」

(株)名南経営　六谷秀生氏

▷「歯科技工士と医療制度」

鈴木克彦（瑞穂）

平成11年度

丸山新執行部、職業倫理確立めざす

海外への再委託が発覚するなど、歯科技工士の経済、資格が問題になってきた。執行部はこれらの問題に全力で立ち向かった。

◇新執行部発足
丸山新執行部は、歯科技工士の意識改革、職業倫理確立徹底、組織改革を目標とする等表明。

◇県医務課、名古屋市衛生局、県歯へ就任挨拶（4月13日）
丸山会長、長谷川・中島・前野副会長、下川専務理事

◇第22回歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（5月23日）
参加者　18人

◇東海北信越ブロック実務者会議に出席（6月5日、岐阜県長良川国際会議場）

◇東海4県歯科技工士会懇談会に出席（6月6日、岐阜県民文化ホール未来会館）

◇第32回代議員会、平成11年度前期総会（7月18日、本会会館）
歯科技工物の海外発注に係わる会員の処分については「本会の範疇ではない」と会長見解

◇県医務課訪問（7月29日・8月2日・27日）
丸山会長はじめ役員多数出向

◇歯技衛材懇談会に出席（8月10日）
丸山会長、前野副会長、下川専務理事

◇3都府県懇談会に出席（8月28日、本会会館）
丸山会長はじめ役員多数

◇東海北信越ブロック協議会に出席（9月4・5日、石川県小松市）
丸山会長、下川専務理事、小柳津常務、加藤常務、村上理事、堂脇事務長、山本職員。
歯科技工料金請求のあり方について本会より提案し、医療保険制度内の位置づけを図り、公的請求を推進。

◇日技代議員会、総会に出席（9月18日・19日）丸山会長他
歯科技工物の海外発注と輸入問題について本会が要望した「断固阻止する旨執行部意思表示を」に応えての決議文が日技より示された。

◇親睦ボウリング大会（10月10日、星ヶ丘ボウル）

◇生涯研修自由課程（10月12日、本会会館）
▷「21世紀に対応する歯科技工士像」
自然を超える審美と機能
田中朝見
出席　128人（うち学生41人）

◇生涯研修自由課程　第１回普通救命講習会（10月17日、本会会館）
　実技指導　名古屋市消防局から５人
◇どうぶつブクブクフェアーに協賛（10月17日、東山動物園）
　本会ブースに197人来場
◇第10回愛知歯科保健大会に参加（11月７日、健康科学総合センター）
　「挑戦してみよう“プロの技”」をテーマに本会ブースは、ワイヤーベンディング、顕微鏡を使用して米粒に文字を書く実演と来場者の挑戦、歯科技工物の展示をした。
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状　　中野重信氏（緑）
県歯科医師会会長表彰
　　藤野　進氏（昭和）
◇生涯研修基本課程（11月14日、本会会館）
　▷「歯科技工物の薬事承認と安全性について」　　酒井順哉名城大学教授
　▷「咬合と適合　３Ｄマスターシェードガイドを用いた新しいシェードテイキング方法と新世代ポーセレン、オメガ900の使用法」
　　久野富雄・日技認定講師
◇東海歯科用品商協同組合との懇談会（11月19日）
　丸山会長出席
◇新年会（１月９日、ホテルナゴヤキャッスル）
◇小牧警察署長より感謝状（１月７日）
　小牧市内焼却炉にて発見された女性焼死体捜査への協力に対して。
◇県歯科医学大会に参加（２月19日・20日、名古屋市中小企業振興会館）
〈本会企画講演〉
　▷「福祉の立場から見る歯科について」
　　安村美恵子・
　　社団法人長寿社会文化協会代表
〈本会会員研究発表〉
　▷「変形させない金属床総義歯の重合法とリベースについて」
　　小柳津純男・日技認定講師
◇女子部会（２月20日、レオパレス名古屋「パティオ」）
　神谷明美委員長はじめ10人出席
◇東海北信越ブロック会長会議　丸山会長出席（２月26日、静岡）
◇豊川警察署へ出向（２月28日）
　無資格問題で、丸山会長、下川専務、鈴木常務、村上理事。
◇第33回代議員会、平成11年度後期総会（３月５日、本会会館）
　丸山会長は海外再委託問題に対して、県衛生部長通達に従い会員が法を遵守するよう強く求めた。また団体直接請求実現等、経済問題に強い意思表明。
◇歯科技工士試験に丸山会長出向（３月７日）
◇第２回普通救命講習会（３月12日）
　講師　名古屋市消防局より３人
　参加者　27人
◇丸山会長記者会見（３月24日）
　県議会で「歯科技工物の安全性等の確保についての意見書」が可決されるのを傍聴後、県政記者クラブで会見。
◇平成11年度技対セミナー（４月１日、本会会館）
　▷「福祉用具の現状と開発について」
　野口欣作氏
　　(株)福祉用具センター代表取締役
　▷「保険点数の改正点について」
　　県歯社会保険担当　岩田　眞氏

平成12年度

団体直接請求実現を提唱

（前年度から）職業の環境整備と職業人としての意識改革に努めてきた。その一環として歯科技工士法違反に対しては会を挙げて対処してきた。また、経済問題打開のため団体直接請求を他県も含めて、一丸となって推進していきたい－丸山会長

◇県歯との懇談会（5月8日）
◇第24回歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（5月14日）
◇県歯との「覚書」調印（5月25日、県歯会館）
◇生涯研修自由課程（5月28日・本会会館）
「インターネットの活用法」
加藤智弘キューピット代表
出席者　58人
◇第1回卒後研修セミナー（6月11日）
「労働環境の基礎知識」
杉村頼幸理事
〈実習〉
クラウンブリッジコース
参加者　12人
◇東海4県歯科技工士会懇談会に出席（6月24日、本会会館）
丸山本会会長が「4県、ブロック、日技を通じて団体直接請求実現を国に働きかけたい」とあいさつ。
◇稲葉前富山県技会長藍綬褒章受賞祝賀会に中島副会長出席（7月2日）
◇第34回代議員会、平成12年度前期総会（7月30日、本会会館）
◇歯技衛材懇談会に出席（8月11日）
長谷川副会長、下川専務、小柳津常務。
◇第53回東海北信越ブロック協議会に出席（8月26日、本会会館）
◇第72回日技代議員会に出席（9月15日、静岡県コンベンションアーツセンター）
◇日技創立ならびに歯科技工士法制定45周年記念大会に参加（9月16日、静岡県コンベンションアーツセンター）
本会から200人
〈顕彰者〉（関係分）
▷厚生大臣表彰
小切間邦雄氏　杉本紘平氏
▷日技会長表彰
加藤久四氏　服部孝氏
〈展示発表〉　本会から6演題
◇どうぶつブクブクフェアー共催（10月15日、東山動物園）
◇卒後研修セミナー（10月22日）
クラウンブリッジコース
出席者　11人
◇第6回ボウリング大会（10月29日、星ヶ丘ボウル）

参加者　186人

◇第11回愛知県歯科保健大会に参加（11月12日、県歯会館）

〈顕彰者〉

県知事感謝状　浅井貞雄氏（知多）

県歯科医師会会長表彰

藤　末二氏（中央）

◇第１回愛知県歯科技工士会学術大会（11月23日、本会会館）

参加者　128人

〈一般口演〉（３演題）

▷「コバルトクローム合金の融点におけるメーカー表示値について」

三田正徳（春日井）

▷「ダウエルコアが破折したコーヌスデンチャーへの根面アタッチメント応用」　安井雄一（千種）

▷「患者さんに優しいカンヌキ機構アタッチメントワーク」

原　宗男（西春日井）

〈基本過程〉（２演題）

▷「ラボ内感染を防ぐ」

阿部浩子・歯科衛生士

▷「臨床的総義歯のあれこれ」

佐藤幸司・日技認定講師

〈テーブルテクニック〉（４演題）

▷「ポーセレンを考察する」光田武司

▷「デジタルカメラの活用法について」　小柳津純男・日技認定講師

▷「フルマウスリコンストラクションにおける新しいコンセプトに基づくSIVA式咬合採得について」

小笠原明弘

▷「臨床的総義歯あれこれ考察模型のデモ」　佐藤幸司・日技認定講師

〈講演〉

▷「日技テーマ2000」

中西茂昭日技副会長・日技認定講師

◇東海北信越ブロック女性代表者研修会及び東海北信越ブロック、東京都女性代表者懇談会に出席（12月３日、東京都）

本会から２人

◇鈴木勝義常務理事、豊川警察署長感謝状受賞（１月12日）

◇全国会長懇談会、ブロック会長会議に出席（１月12日）

◇新年会（１月14日）

◇愛知学院大学歯学部附属病院新築披露に丸山会長出席（１月27日）

◇卒後研修セミナー（１月28日）

パーシャルデンチャーコース

フルデンチャーコース

◇第53回東海地区歯科医学大会に参加（２月17日・18日、名古屋市中小企業振興会館）

〈本会企画講演〉

「評価される補綴物とはいかなるものか」　重村　宏

◇女子部会（２月18日、浩養園）

◇東海北信越ブロック会長会議に出席（２月24日）

◇歯科技工士試験に丸山会長出向（３月１日・２日）

◇歯科材料商組合との懇談会（３月４日）

◇日技代議員会に出席（３月17日･18日）

◇平成12年度技対セミナー（３月20日）

▷「21世紀に望まれる歯科医師と歯科技工士とのあり方と役割について」

県歯社会保険担当　坂井　剛氏

豊川警察署警部補２人に感謝状贈呈

◇第35回代議員総会、平成12年度後期総会（３月25日、本会会館）

平成13年度

ホームページを開設

長年懸案だったホームページを持った。
全国都道府県技の中では数番目の開設。

◇県医務国保課に出向（４月20日）
　下川専務、岩本常務
◇ホームページを開設
◇東海４県技懇談会に出席（５月19日、東京生命ビル静岡）
　丸山会長、鈴木副会長、仲尾理事
〈議題〉
　１、日技点数明示以降の件
　２、無届歯科技工所への対応
　３、７月参議院選挙への取り組み
　４、日技の国会議員擁立支援について
　５、東海４県連盟協議会について
　本会が提案し賛同が得られた。
◇シケン社役員来訪（５月31日）
◇歯科医療関係団体親睦野球大会に参加（６月17日、東海グラウンド）
　参加者　23人
◇佐野義仁静岡県技会長受章を祝う会に出席（６月17日）
　丸山会長
◇３都府県会議に出席（６月24日、本会会館）
　団体直接請求、不法行為ラボへの対応などについて協議。
◇第36回代議員会、平成13年度前期総会（７月１日、本会会館）
　丸山会長
　「この２年間技対を中心として、法の遵守を積極的に進め成果があった。経済基盤の確立については、団体直接請求を目標に掲げ今後も懸命に行っていきたい」
◇歯技衛材懇談会に出席（７月10日）
◇歯歯塚供養会に出席（８月８日、大須観音）
◇東海北信越ブロック協議会に出席（９月１日、岐阜）
◇第２回卒後研修セミナー（９月９日、本会会館）
　クラウンブリッジコース
◇第74回日技代議員会に出席（９月15日、16日）
◇富山県技50周年記念式典に出席（10月７日）
◇ボウリング大会（10月14日、星ヶ丘ボウル）
◇どうぶつブクブクフェアーに参加（10月21日、東山動植物園）
◇第２回学術大会（10月28日、本会会館）
　参加者　120人
〈一般口演〉（３題）
　▷「新しいテンポラリークラウンの製

作法」　堀尾浩彦（名東）
▷「歯科技工士からのテクニカルインフォメーション」
鈴木雅也氏（東海歯科医療専門学校）
▷「歯科用デンタルCAD／CAMを用いたオールセラミックスクラウンの製作」　佐藤元信（海部）
〈テーブルテクニック〉（４題）
▷「Rapid－Flex　waxを用いたキャストパーシャルの製作」
三田正徳（春日井）
▷「咬合器上で守るべき最低限の要件」
中石雄二（中川）
▷「光重合パターンレジンの合理的な使用法」　小柳津純男（中川）
▷「アタッチメントとミリングワークについて」　大久保　孝（一宮）
〈基本研修課程〉
〈社会学・教養課程〉
▷「歯科技工士と政治家のかかわり　歯科製作技工料について」
鈴木克彦・本会役員
〈学術・専門課程〉
▷「合理的な高精度金属床義歯の製作法」　小柳津純男・日技認定講師

◇第12回愛知県歯科保健大会に参加（11月11日、県歯会館）
本会は歯科技工物展示、ウォークラリー、石膏人形色塗り、ワイヤーアートに参画、182人が参加。
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状
奥藤博美氏（一宮）
県歯科医師会会長表彰
鷲見時男氏（江南）

◇第14回東海北信越ブロック学術大会に参加（11月23日･24日、長野ビッグハット）

◇中高年懇談会（12月９日、本会会館）
▷「元気な毎日を過ごすには。スプリントの有効性について」
菅　栄・かいせい病院院長

◇全国会長懇談会に出席（１月13日）
丸山会長

◇県歯科医学大会に参加（２月16日･17日、名古屋市中小企業振興会館）
〈本会会員研究発表〉
▷「アタッチメント義歯のキーポイント」　大久保孝（一宮）
〈本会企画講演〉
▷「ドイツと日本の歯科事情について」
大畠一成氏
（ドイツ歯科技工士マイスター）

◇女子部会（２月17日、浩養園）
神谷明美部長ら８人出席。

◇自衛消防訓練（２月23日、本会会館）

◇東海北信越ブロック会長会議に出席（２月23日）
丸山会長

◇第４回卒後研修セミナー（２月24日、本館会館）
フルデンチャーコース

◇第37回代議員会、平成13年度後期総会（３月３日、本館会館）
任期満了に伴う役員改選は丸山会長はじめ現役員が引き続き信任され、丸山執行部は、２期目も歯科技工士の経済基盤確立に向け全力を挙げ取り組む旨表明があった。

平成14年度

丸山執行部、一貫方針で２期目に

２期目を迎えた丸山執行部は前期と変わらぬ基本方針と姿勢で引き続き尽力していく決意を表明。

◇県歯科医師会と「覚書」調印（５月９日、県歯会館）
◇交通安全講習会（６月13日、本会会館）
〈講師〉東警察署交通課係長
受講者37人に「会員車両標章」交付
◇第26回歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（６月16日、東海病院グラウンド）
◇第１回卒後研修セミナー（６月23日、本会会館）
▷「クラウンブリッジコース前半」
原　宗雄学術部員
▷社会学「善い歯科技工士とは何が出来る人のこと」
杉村頼幸理事
受講者10人
◇歯技衛材懇談会に出席（６月25日、「しゃぶ禅」）
◇歯科技工所管理者等研修会（６月30日、本会会館）
受講者57人
▷「歯科技工士法の改正及び職務に関わる通知等」
加藤洋一・医務国保課主査
▷「歯科技工の環境整備について」
鈴木勝義常務理事
▷「愛知県歯科技工士会の活動について」
鈴木克彦副会長


講師によるデモ

◇第38回代議員会、平成14年度前期総会（７月７日、本会会館）
〈高齢顕彰者〉（敬称略）
高木半兵衛（南）
服部　孝（中村）
新田　忠（一宮）
永井　等（知多）
木塚　茂（瀬戸）
山本　武司（瑞穂）
◇中西日技会長来訪、役員と懇談会（７月13日、本会会

館）
◇歯歯塚供養会に出席（８月８日、大須観音寶生院）
◇東海北信越ブロック協議会・日技実務者研修会に出席（９月２日、長野県茅野市）
◇第２回卒後研修セミナー（９月８日、本会会館）
▷社会学「歯科技工士が知るべき感染症及び感染症対策」
太田ひとみ・歯科衛生士



講演する太田ひとみ講師

▷「クラウンブリッジコース後半」
山田清治理事
受講者11人
◇歯科技工作業に係る健康調査アンケート
労働福祉事業団の協力で呼吸器疾患並びに呼吸器症状に関するアンケートを実施した。旭労災病院（尾張旭市）でレントゲンとCTスキャンによる検診も併せて実施した。
◇名古屋歯科医療専門学校で講義（９月12日）
▷「歯科技工概論」
鈴木克彦副会長、杉村頼幸理事
◇どうぶつブクブクフェアーに参加（９月29日、東山動物園）
◇キャストパーシャル実技講習会（10月12・13日、本会会館）
▷ラピットフレックスシステム
三田正徳学術部員
受講者10人
《協力》
(株)デンツプライ三金
◇第８回会員家族親睦ボウリング大会（10月20日、星ヶ丘ボウル）
〈来賓〉
県歯科医師会
参加者194人
◇第３回学術大会（10月27日、本会会館）
〈基本研修課程〉
受講者94人
教養課程
▷「歯科技工と指示書について」
丸山　功・日技認定講師
▷「電子媒体による指示書の保存法とパソコンの活用法について」
小柳津純男・日技認定講師
専門課程
▷「21世紀歯科技工に求められる色調再現の重要性」
浅野正司・日技認定講師
〈自由研修課程〉
受講者87人
一般口演３題・テーブルクリニック３題・ポスター発表３題
〈テクニカルコンテスト〉
今回初の試みでテクニカルとカービングのコンテストを行った。



テクニカルコンテスト優秀作品展示

◇第13回愛知歯科保健大会に参加（11月10日、県歯科医師会館）
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状　　藤　末二氏（中央）
県歯科医師会会長表彰
岩本成久氏（中村）

◇第３回卒後研修セミナー（11月17日、本会会館）
パーシャルデンチャーコース
▷「設計・維持装置・クラスプ作製」
三田正徳学術部員
受講者８人

◇県歯科衛生士会設立50周年及び社団法人化記念式典に出席（12月１日、名鉄グランドホテル）

◇第２回歯科技工所管理者等研修会（12月８日、本会会館）
受講者　38人
▷「歯科技工士法の改正及び職務に関わる通知等」
加藤洋一・医務国保課主査
▷「歯科技工所の環境整備について」
鈴木勝義常務理事
▷「愛知県歯科技工士会の活動について」
鈴木克彦副会長

◇全国会長懇談会に出席（１月10日、日技会館）

◇新年会（１月12日、名古屋不二パークホテル）
〈来賓〉
宮下和人県歯科医師会会長ほか多数

◇県歯科医学大会に参加（２月15・16日、名古屋市中小企業振興会館）
〈本会企画講演〉
▷「K３システムによる顎位のあるマウスガード製作について」
小松弘幸・東京都技会員
〈研究発表〉
▷「咬合器上で吸引、加圧成型するマウスガードの製作法」
杉浦　勉（西尾）
〈ワークショップ〉
▷「マウスガードの製作のデモンストレーション」



ワークショップデモンストレーション

小松弘幸・東京都技会員
杉浦　勉（西尾）
小柳津純男・日技認定講師

◇東海北信越ブロック会長会議に出席
（２月22日、三重県津市ＮＴＴベルセ島崎）

◇第４回卒後研修セミナー（２月23日、本会会館）
受講者８人

〈フルデンチャーコース〉
▷「適合の良い咬合床製作・義歯の掘り出し研磨」
三田正徳学術部員

〈社会学〉
▷「歯科技工（補綴物）の原価を考える」
加藤　正常務理事

◇第39回代議員会、平成14年度後期総会（３月30日、本会会館）

平成８年から続けている高齢者福祉施設入居者の義歯に名前入れのボランティア事業。この年も会員らの奉仕で実施された（写真は愛厚ホーム一宮苑で）





平成15年度

組織内候補擁立の機運高まる

歯科技工製作料の直接請求実現活動により大きな声を上げるには、やはり国政に参加すべきーとして歯科技工士会から候補者を出そうーとの機運が高まった。

◇堂脇三代子前事務長の慰労会（４月13日、 逓信会館）

昭和39年以来、本会に勤務して本会発展に尽くした前事務長に感謝の意を表して慰労会を催した。



慰労会で歴代会長に囲まれる堂脇前事務長（中央）

◇第27回歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（５月11日、東海病院グラウンド）

◇東海北信越ブロック協議会・日技実務者研修会に出席（５月17日、新潟県月岡温泉「村上館」）

労災保険問題・組織拡充等を協議した。

◇卒後研修セミナー（６月８日、本会会館）

【社会学コース】

▷「歯科技工士に求められるもの～善い歯科技工士とは何ができる人のこと」杉村頼幸理事

▷「歯科技工士が知るべき感染及び感染症対策」

太田ひとみ・歯科衛生士

◇助成金交付される

社会福祉・医療事業団基金事業部から歯科衛生普及事業に係わる諸機器購入に。

〈交付〉

卓上エンジン５台･集塵機５台･加圧重合器２台･コンプレッサー１台･超音波洗浄器２台・レーズ１台・ツール一式

を購入した。

◇**トヨタ自動車株式会社より助成金**

歯科衛生普及事業へのご理解をいただき助成金（20万円）を受けた。

◇キャストパーシャル実技講習会（6月14・15日、本会会館）

三田正徳学術部員

〈協力〉(株)デンツプライ三金

受講者５人

◇第１回卒後研修セミナー（６月22日、本会会館）

〈クラウンブリッジコース〉前半

▷「マイクロスコープ使用の模型製作」　山田清治理事

受講者14人

◇第40回代議員会、平成15年度前期総会（７月６日、本会会館）

〈高齢顕彰者〉（敬称略）

大塚　卓次(海部)　千賀　仁(蒲郡)
内田　勉(春日井)　大野　正夫(小牧)
藤江　利治(岡崎)　小間　恒彦(中川)
柘植　正行(蒲郡)　小林　忠夫(東三)

◇歯技衛材懇談会（７月23日、銀座アスター）

より一層の協力関係をつくり、忌憚のない懇談ができた。

◇歯歯塚供養会に出席（８月８日、大須観音寶生院）

◇第78回日技代議員会・第１回定時総会に出席（９月20日、日技会館）

◇平成15年度歯科技工所管理者等講習会・感染症予防講習会・技対セミナー（９月28日、本会会館＝**写真**）

〈歯科技工所管理者等講習会〉

▷「歯科技工士法の改正及び職務に関わる行政通知書」

川口　竜二　医務国保課主査

〈感染症予防講習会〉

▷「感染症予防歯科技工士講習」

（厚生労働省委託　日歯・日技共催）

谷　康平・大阪市立大学大学院医学研究科環境衛生教室所長

〈技対セミナー〉

▷「法律のあれこれ」

青木重臣　顧問弁護士

受講者80人

◇第２回卒後研修セミナー（９月28日、本会会館）

〈クラウンブリッジコース〉後半

▷「マイクロスコープ使用のワックスアップ・鋳造体適合研磨」　山田清治理事

受講者10人

◇名古屋歯科医療専門学校で講義（10月16日、名古屋歯科医療専門学校）

歯科技工所の経営について

◇第９回会員家族親睦ボウリング大会（10月19日、星ヶ丘ボウル）

参加者192人



歯科技工所管理者等講習会・感染症予防講習会で講演される谷　康平講師

〈来賓〉県歯科医師会
県歯科衛生士会
東海歯科用品商協同組合
◇第27回全国育樹祭に出席（10月26日、県緑化センター）
◇第４回学術大会（10月26日、本会会館）
〈基本研修課程〉出席者53人
教養課程
▷「歯科技工士の感染予防対策」
～ユニバーサルプレコーションを考慮した予防策～
石川泰樹・日技認定講師
専門課程
▷「セラミックスを中心とした日常の歯科技工」
鈴木輝吉・日技認定講師
〈自由研修課程〉出席者91人
一般口演４題・テーブルテクニック３題・ポスター発表３題
〈カービングコンテスト〉
◇第14回愛知歯科保健大会に参加（11月９日、県歯科医師会館）
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状　島田邦夫氏（小牧）
県歯科医師会会長表彰
藤井清治氏（豊川）
◇第３回卒後研修セミナー（11月16日、本会会館）
▷「パーシャルデンチャーコース」
中島　勝副会長
前野功雄副会長
山田清治理事
三田正徳学術部員
受講者８人
◇セラミック研修会（11月30日、本会会館）
受講者10人
▷「金属焼付用陶材ゼオセライト実技研修」
〈共催〉山本貴金属地金(株)
◇新年会（１月12日、東京第一ホテル錦）
〈来賓〉
宮村一弘　県歯科医師会会長
池山豊子　県歯科衛生士会会長
鈴木重徳　東海歯科用品商協同組合愛知県支部長
中西茂昭　日技会長
鈴木政二　参院議員（連盟顧問）
他多数
◇日技新年会に出席（１月16日、赤坂プリンスホテル）
◇県歯科医学大会に参加（２月21・22日名古屋市中小企業振興会館）
〈本会・県歯科衛生士会共同企画ワーク



県歯科医学大会でのワークショップ風景



印象へ石膏注入する参加者

ショップ〉

「患者さんにより良い歯科補綴物を提供するための基礎」

〈本会企画講演〉

▷「新しい考え方の義歯設計法」

射場信行・京都府技会員

〈研究発表〉

▷「クラウンブリッジが高くなる要因について」　五十住　徐（中村）

▷「塩素系除菌剤がシリコンの重合に及ぼす影響について」

三田正徳（春日井）

▷「プロビジョナルレストレーションのオリジナルアイディア」

杉浦　勉（西尾）

◇東海北信越ブロック会長会議に出席（２月21日　本会会館）

次年度ブロック長及び役員を選出した。

◇第４回卒後研修セミナー（２月29日、本会会館）

▷「フルデンチャーコース」

高木和順学術部員

受講者　９人

◇第41回代議員会、平成15年度後期総会（３月７日、本会会館）

◇第79回日技代議員会・平成15年度第２回定時総会に出席（３月20日、日技会館）



本会会館大会議室は学術研修や各種会議等に大いに活用されている

平成16年度

丸山執行部３期目に

丸山執行部３期目を迎えて諸懸案事項の早期解決を目指しますます意気上がる。初の組織内擁立候補で臨む第20回参議院選挙に向けて精力的に活動。

◇平成16年度技対セミナー（４月４日、本館会館）
▷「社会保険診療報酬改定について」
内堀典保・県歯社保担当理事
▷「歯科製作点数分析表及び平成15年度消費税改正内容について」
阿部勝仁理事

◇歯冠修復用ハイブリッドレジン　シンフォニー・ロカテック実技講習会（４月18日、本会会館）
鈴木輝吉・日技認定講師
〈共催〉　３M　ESPE

◇東海北信越ブロック協議会に出席（５月15・16日、静岡市「清水テレサ」）
次期開催地を三重県から愛知県へ変更することに決定（愛知万博開催中）

◇交通安全講習会（５月17日、本会会館）
受講者に「会員車両標章」交付
〈講師〉東警察署交通課係長

◇卒後研修セミナー「社会学」（６月13日、本会会館）
▷「歯科技工士が知るべき感染及び感染症対策」
太田ひとみ・歯科衛生士
▷「歯科技工士に求められるもの～善い歯科技工士とは何ができる人のこと～」
杉村頼幸（海部）

◇第１回卒後研修セミナー（６月13日、本会会館）
▷「クラウンブリッジコース前半」
山田清治常務理事

◇第２回卒後研修セミナー（７月11日、本会会館）
▷「クラウンブリッジコース後半」
山田清治常務理事

◇第42回代議員会、平成16年度前期総会（７月25日、本会会館）
〈高齢顕彰者〉（敬称略）
小切間邦雄（名東）　伊藤　嘉朗（中村）
木村　嘉男（蒲郡）　小藤　　梓（半田）
藤井　清治（豊川）

◇歯歯塚供養会に出席（８月８日、大須観音寶生院）

◇普通救命講習会（８月22日、本会会館）
矢田三丁目町内会長の西村けんじ名古屋市議会議員と町内参加者と本会会員、職員、家族が受講。

◇名古屋歯科医療専門学校で講義（９月９日）
▷「歯科技工士学概論」
高木和順理事
三田正徳理事

◇第３回卒後研修セミナー（９月12日、本会会館）

▷「パーシャルデンチャーコース」
三田正徳理事

◇第80回日技代議員会・平成16年度第１回定時総会に出席（９月18日、日技会館）
第20回参議院選挙後初の代議員会であり、その総括も。

◇平成16年度歯科技工所管理者等講習会（９月26日、本会会館）
▷「歯科技工士法の改正及び職務に関わる通知等」
川口竜二・医務国保課主査
▷「歯科技工所の健全経営（労働環境改善）」　庭山麗子・日技理事
▷「愛知県歯科技工士会について」
鈴木克彦副会長

◇第10回親睦ボウリング大会（10月17日星ヶ丘ボウル）

◇研修会「リンガライズドオクリュージョンの有効性」(10月24日、本会会館)
〈共催〉ヘレウスクルツァージャパン
小野寺保央・ヘレウス東京研修センター

◇第８回フォーラム8020愛知に参加（11月７日、県歯科医師会館）
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状　中島　勝氏
県歯科医師会会長表彰　鈴木克彦氏

◇研修会「OPC次世代オールセラミックスシステム」(11月14日、本会会館)
〈共催〉ペントロンジャパン

◇東海四県歯科技工士会懇談会（11月23日、本会会館）

◇第５回愛知県歯科技工士会学術大会（基本･自由研修課程）(11月28日、本会会館)
〈基本研修課程〉
教養課程
▷「チェアーサイドとラボサイドのコミュニケーションについて」
中川昌樹・歯科医師
専門課程
▷「最新の総義歯製作とインプラント製作のガイドラインについて」
佐藤幸司・日技認定講師
〈自由研修課程〉
一般口演４題、ポスター発表２題、テーブルテクニック３題
〈テクニカルコンテスト〉

◇東海北信越ブロック会長会議に出席（12月11日、福井県歯科医師会館）

◇シルバーアクセサリー教室（１月23日、本会会館）
〈共催〉相田化学工業(株)

◇第４回卒後研修セミナー（１月30日、本会会館）
〈フルデンチャーコース①〉
高木和順理事

◇第５回卒後研修セミナー（２月13日、本会会館）
〈フルデンチャーコース②〉
高木和順理事

◇東海地区歯科医学大会に参加（２月20日、名古屋市中小企業振興会館）
〈県歯科医師会・本会合同企画講演〉
▷「21世紀に対応する歯科技工を考える」　中川昌樹・歯科医師
桑田正博・日技認定講師

◇第81回日技代議員会・第２回定時総会に出席（３月19日、日技会館）
任期満了に伴う役員選挙で**副会長に本会の丸山会長が当選。**

◇第43回代議員会、平成16年度後期総会（３月27日、本会会館）

平成17年度

節目の周年記念式典を開催

歯科技工士法50周年ならびに社団法人設立35周年の年を迎え、記念式典を開催してそれを祝うとともに、歯科医療の一翼を担ってさらに広く社会に貢献していくことを誓った。

◇保険医協会との懇談会に出席（4月21日、愛知県保険医協伏見会議室）
　無料診療報酬改善、混合診療問題、歯科技工料問題、海外技工問題、等歯科医師と歯科技工士の今後の協力のあり方を話し合う。

◇第1回臨床研修セミナーアドバンスコース（4月24日、本会会館）
▷「イントロダクション」各講師の紹介
▷「患者との関わり～ホリスティックデンティストリー～」
三輪一雄・歯科医師
▷「治療の流れ」
中川昌樹・歯科医師
受講者　56人

◇歯科医療関係団体親睦軟式野球大会に参加（5月8日、東海病院グラウンド）

◇東海北信越ブロック協議会に出席（5月14日、本会会館）
・次期参議院選挙について
・歯科技工所の構造設備基準及び歯科技工所における歯科補綴物等及び品質管理指針
・組織全体について

◇第2回臨床研修セミナーアドバンスコース（5月22日、本会会館）
テーマ「審美」
▷「美修復におけるマテリアルセレクション」　山田和伸・歯科技工士
▷「すばらしい歯科補綴『機能と審美の調和を求めて』」
吉木邦男・歯科医師

◇卒後研修セミナー「社会学」（6月5日、本会会館）
▷「歯科技工士が知るべき感染及び感染症対策」太田ひろみ・歯科衛生士
▷「労働基準法の基礎知識（勤務編）」
市ノ瀬高司（名北労働基準協会）
受講者　45人

◇第3回臨床研修セミナーアドバンスコース（6月19日、本会会館）
テーマ「ペリオと補綴」
▷「補綴物製作にあたって歯冠を考え歯根を考え歯周組織を考え～天然歯を求めて～」　山根光雄・歯科医師
▷「前歯部審美修復からのメッセージ～色調・形態、認識すべき基本の重要性～」　南沢英樹・歯科技工士
受講者80人

◇第1・2回卒後研修セミナー（6月26日・7月10日、本会会館）

クラウンブリッジコース（前後半）
受講者各回９人ずつ

◇第44回代議員会、平成17年度前期総会（７月24日、本会会館）
〈高齢会員顕彰者〉（敬称略）
高橋伸美（ 南 ）小川　　勉(中央)
高松宏允（江南）大坪　武司(半田)
金川政雄（蒲郡）曽我恵之弼(岡崎)
岩瀬平三（東三）

◇歯歯塚供養会に出席（８月８日、大須観音寶生院）

◇歯・技・衛・材懇談会に出席（８月18日、かっぱ園菜館）

◇第11回会員家族親睦ボウリング大会（９月４日、星ヶ丘ボウル）
参加者　138人

◇県下歯科技工士学校教務主任との懇談会（９月４日、星ヶ丘テラス「庵」）
▷歯科技工業界の現状について
▷就職活動状況
等々について

◇名古屋歯科医療専門学校へ講師派遣（９月８日、名古屋歯科医療専門学校）
・「歯科技工業界と歯科技工士」
高木和順理事
・「次世代の歯科技工へのメッセージ」
三田正徳理事

◇第３回卒後研修セミナー（９月11日、本会会館）
パーシャルデンチャーコース
受講者９人

◇日技第82回代議員会・平成17年度第１回定時総会に出席（９月17日、東京国際フォーラム）

◇歯科技工士法制定並びに日技創立50周年記念式典・記念祝賀会に参加（９月18日、東京国際フォーラム）
〈顕彰者〉（関係分）
厚生労働大臣表彰
柴田桂太氏（中央）
日技会長表彰
中島　勝氏(東名古屋)
小柳津純男氏（中川）
坂　清子氏(東名古屋)

◇第９回フォーラム8020愛知に参加（９月18日、あいち健康プラザ）
〈顕彰者〉（関係分）
県知事感謝状　安形敏男氏（東三）
県歯科医師会長表彰
新田　忠氏（一宮）

◇第４回臨床研修セミナー（９月25日、本会会館）
テーマ「咬合の理論と実践」
▷「咬合器の基本的な知識と活用法」
三輪一雄・歯科医師
▷「複歯型による作業の注意点とヒント」
水越紀博・歯科技工士
▷「咬合からみる構造組織学的考察」
佐藤幸司・歯科技工士
受講者89人

◇どうぶつブクブクフェアに参加（10月23日、東山動物園）

◇歯科技工士法制定50周年並びに社団法人設立35周年記念式典・記念祝賀会（10月30日、ウェスティンナゴヤキャッスル）

来賓に杉谷浩子出納長(県知事代理)、松原武久名古屋市長、宮村一弘県歯科医師会会長、池山豊子県歯科衛生士会会長、鈴木政二参院議員をはじめ関係方面から数多くの方々を迎え、会員を合わせ約500人が出席して開催した。丸山会長が次のように式辞(要旨**次頁**)を述べた。



式辞を述べる丸山会長

歯科技工界の黎明期から今日までを顧みると、数多の先人たちが案件の実現に如何に尽力されたかを窺い知ることができる。この式典はそのご苦労に感謝申し上げ、志す展望にあるものを学ぶ機会でもある。

これまで多くの懸案が実現された。とくに長年念願であった会館は、歴代役員と会員皆様のご協力により建設を果たした。

その時代を担い懸案を解決し、社会貢献をなすという先人の方々の志は連綿として今日に受け継がれている。

現在も問題は山積しているが、強固な意志をもって解決に導く尽力をする決意である。

＜顕彰者＞

【県知事賞】

表彰状　柴田桂太氏（中央）

感謝状　千賀　仁氏（蒲郡）

安形敏男氏（東三）

永年勤続賞13人（氏名略、以下同）

【会長表彰】

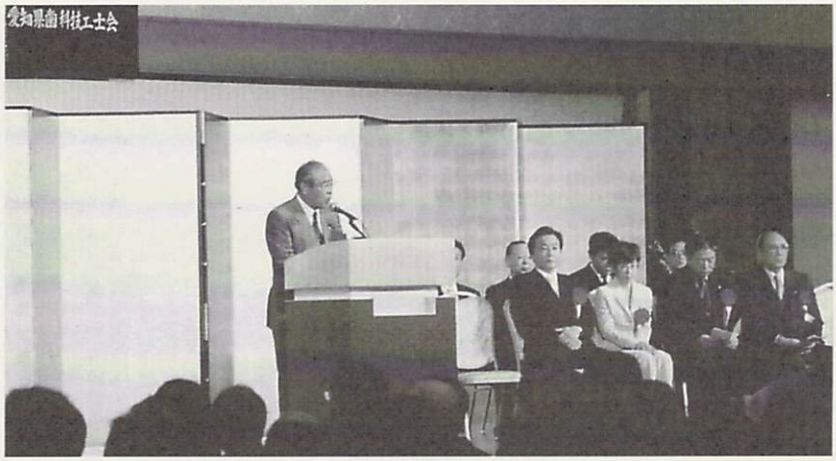
表彰状４人、特別表彰状５人、

感謝状23人、50周年記念賞51人、

永年勤続感謝状１人

最後に落合代議員会議長が会員を代表して「歯科医療の一翼を担う者として、さらに知識を深め技術を高め、広く県市民に貢献することをお誓いいたします」と誓いのことばを読み上げ式典を終えた。

この後祝賀会が催された。



祝辞を述べられる松原名古屋市長

式典と祝賀会に華を添えた
シュテルン弦楽四重奏団





式典のあと賑やかに祝賀会が催された



会　館　建　設

会館建設の歩み

本県歯科技工界は、組織形成の黎明期から、主に役員宅を本拠にしてきたが、歯科技工士法制定（昭和30年）ごろから、将来会館を持つ大目標があった。その前段階として独立した事務所を持つべく昭和37年、事務所設立委員会が発足。そして昭和39年、名古屋市西区江川端町に事務所を構え、常勤職員を雇用した。

一方、団保加入により共済制度の充実を図るとともに保険会社よりの還付による原資蓄財に取り組み始めた。

昭和44年、事務所設置準備委員会による土地建物の概要、資金調達法などが検討され会館建設特別委員会が発足、爾来引き継がれてきた。また同年、会館建設基金として年10万円の積み立てを開始した。

社団法人となった昭和45年、所有者の都合で転出を余儀なくされ事務所を名古屋市西区深井町比良政ビルへ移転した。

会館建設については、歴代の委員会で協議検討が重ねられ、昭和50年には会館建設特別委員会規定が定められ、昭和61年には毎年積み立てている会館建設積立金が年額100万円に増額、同年から翌62年にかけ、代議員会・総会で「協議事項」として活発な協議が繰り返し行われ、具体的な提案も出されて、会館建設への気運が徐々に高まっていった。

平成３年、執行部は会館建設について積極的に取り組むことを表明。代議員会・総会で、より具体的な提示による協議が行われ、平成４年代議員会・総会で、長年重ねられてきた協議をもとに「会館建設準備基金」が可決承認された。これにより長年積み立ててきた会の資産が会の運営に支障のない範囲で会館建設に充当できることとした。

平成５年理事会において、法制定40周年記念事業の一環として会館建設が承認された。会館建設特別委員会は建設用地の検討を重ね、平成６年２月、会館建設基金の解除の規定に基づき、執行部・会館建設特別委員会・支部長の合同会議で基金の解除と名古屋市東区矢田町の土地物件の取得を承認。いよいよ会館建設に踏み出すことになった。

同年３月、代議員会・総会で用地取得に係る借入金の件及び会館に係わる分担金（月額700円）の件が可決承認された。

執行部と会館建設特別委員会の合同会議において、会館の外観と施設の概要が協議検討された。助成金については県衛生部医務課及び本連盟顧問団の助言を受け、設計施工は（株）竹中工務店と協議し特命工事とすることとした。

平成７年４月１日着工、同年８月末日完成と決定。

建設をより円滑に、充実したものにするため、同年３月、歴代の会長はじめ役

員経験者による「会館建設推進委員会」が発足し、物心両面で協力。

同年４月４日地鎮祭挙行。

建設工事進捗につれて、担当者と綿密な打ち合わせを重ねつつ進められ、予定どおり８月31日に竣工、落成式を行った。

会館建設は本会にとって実に大変な事業であったが、執行部と担当委員の尽力、会員の協力により、長年の夢は現実のものとなった。

この会館は、これからの本会発展の本拠となるものである。

社団法人　愛知県歯科技工士会会館　施設設備「概要」

1	名　　称	社団法人　愛知県歯科技工士会会館
2	所 在 地	名古屋市東区矢田町二丁目13番地15号
3	敷地面積	513.00㎡
4	建築面積	193.36㎡
5	構造・延床面積	鉄骨造　３階建　555.33㎡

１階　185.11㎡　施設設備：大会議室「最大収容人数150人・机付定席120人」
大型スクリーン装備視聴覚設備
用　　途：各種講演会・会議・展示催事会場

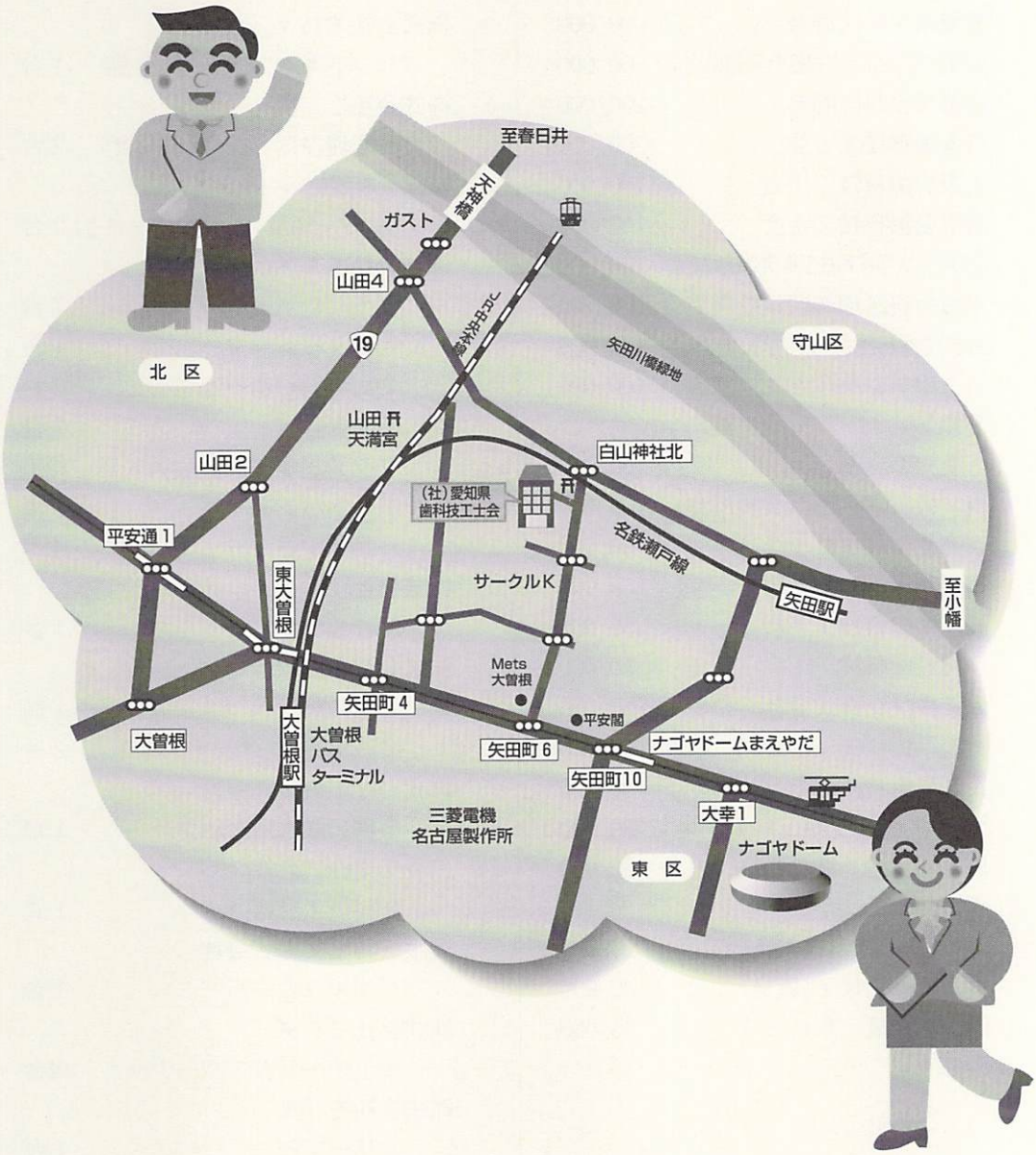
２階　185.11㎡　施設設備：小会議室「机付定席25人」・事務室・役員控室・
職員控室・男女別トイレ・湯沸室
用　　途：１階大会議室の使用に伴うトイレ・湯沸室の利用・
少人数による会議

３階　185.11㎡　施設設備：中会議室「最大収容人数50人・机付定席36人」
中スクリーン装備視聴覚設備・黒板

[別途]歯科技工研修センター　歯科技工実習室「技工机12人・指導者用２人」
倉庫・男女別トイレ・湯沸室
用　　途：講義・小規模の講習会・会議・歯科技工研修

設計・施行　　株式会社　竹中工務店名古屋支店
歯科技工研修センター　三栄技研株式会社
ヒノキブン株式会社

会館周辺マップ



(平成18年1月)

会館建設協賛者御芳名簿

《会員外》 (円)

愛知県歯科医師会	5,000,000
東海歯科用品商協同組合愛知県支部	500,000
海部郡歯科医師会	200,000
日本歯科技工士会	200,000
大阪府歯科技工士会	100,000
岐阜県歯科技工士会	100,000
愛知学院大学歯科技工専門学校同窓会	100,000
東海歯科医療専門学校同窓会	100,000
名古屋歯科医療専門学校同窓会	100,000
名古屋デンタル学院同窓会	100,000
愛知学院大学歯科技工専門学校同窓会 愛知県支部	100,000
横　井　常　子（会員母堂）	100,000
東海北信越ブロック	50,000
兵庫県歯科技工士会	50,000
三重県歯科技工士会	50,000
静岡県歯科技工士会	50,000
ヒノキブン株式会社	50,000
新潟県歯科技工士会	30,000
長野県歯科技工士会	30,000
カボ・イーダブリュ・エル	30,000
日下部　多　鶴（会員夫人）	30,000
南　山　　孝 （岐阜県歯科技工士会会員）	20,000
堂　脇　三代子（職員）	30,000
山　本　貴　永（〃）	5,000

（順不同、敬称略）

株式会社オハラ
　パットキャスター（鋳造器）　1台
株式会社松　風
　真空埋没器（スタンド付き）　2台
株式会社ジーシー
　サベヤーKMI（コノメーター付き）2台
株式会社デントピア
　マイクロバーナー　7台
　センタートリマー　1台
　ミニホローネーⅡ　2台
　薬品保管庫　1台
　フラメホルダー　13丁
　デントパンチ　7本
　リングマーカー　4本
株式会社ササキ
　超音波洗浄器　1台
株式会社東海銀行
　七宝の額　1額
　カーボ・リングファーネス　2台
株式会社中央信託銀行
　事務局来客用テーブル　1卓
三金工業株式会社
　歯科技工材料　1式
大栄歯科産業株式会社
　バブルリムーバー　1台
株式会社ヨシダ
　卓上オートガスバーナー　14台
株式会社モリタ
　トリーマー　1台
株式会社シラネ
　サベヤー（コノメーター付き）1台
　タオルセット　9箱

手島印刷株式会社	
高級置時計	1台
永津歯科商店	
カラーテレビ	1台
株式会社竹中工務店	
壁掛時計	3台
(株)愛知デンタルラボラトリー	
大型掛時計	2台
鶴舞デンタルラボラトリー	
ビデオ用カメラ	1台
スリーエム社	
歯科用防塵マスク	10箱
玄関マット	1枚
(有)細川商店	
OAデスク	1卓
名古屋歯科補綴研究所	
展示用模型	1式

＊　　＊

《会　員》

(支部名)	(氏　名)	(円)
東　北	柴田桂太	1,000,000
知　多	浅井貞雄	1,000,000
東　三	安形敏男	1,000,000
西	丸山　功	1,000,000
中	村井瀞一	600,000
中　村	永野志農夫	600,000
瑞　穂	山本武司	600,000
千　種	小切間邦雄	600,000
東　北	社本昇貴	600,000
豊　田	斉藤年寛	500,000
昭　和	支部有志一同	343,000
西	三輪英朗	300,000
蒲　郡	千賀　仁	300,000
東　北	小川　勉	300,000
瑞　穂	鈴木克彦	300,000
蒲　郡	支部一同	260,000
東　三	亀田昭治	200,000
瀬　戸	日下部淳二	200,000
昭　和	河合康男	200,000
中　村	服部　孝	200,000
海　部	戸ケ崎　淳	200,000
緑	杉本紘平	200,000
西	辻　政明	150,000
中　村	下川勝喜	150,000
天　白	中尾昌光	120,000
西	支部一同	100,000
千　種	加藤久四	100,000
中　村	岩本成久	100,000
〃	後藤正夫	100,000
海　部	古畑正士	100,000
南	大野正之	100,000
千　種	長谷川　進	100,000
東　北	内藤克良	100,000
緑	中川正始	100,000
〃	中野重信	100,000

天白	支部一同	100,000
〃	久野富雄	100,000
瀬戸	木塚茂	100,000
〃	大沢清	100,000
半田	大川重正	100,000
西春日井	田本次生	100,000
東名古屋	中島勝	100,000
豊田	水野茂孝	100,000
〃	井口昭嘉	100,000
岡崎	川本正起	100,000
豊川	鈴木勝義	100,000
岡崎	支部一同	100,000
中村	大沢昭二	50,000
緑	安藤嘉明	50,000
知多	永井等	50,000
〃	丹羽安之	50,000
小牧	島田邦夫	50,000
半田	大川久直	50,000
西春日井	土橋康雄	50,000
豊田	原田昭夫	50,000
〃	市川隆司	50,000
蒲郡	猪股吉雄	50,000
東三	森晴美	50,000
豊川	藤井清治	50,000
東三	宮脇明	50,000
半田	山下武司	50,000
小牧	落合法正	50,000
江南	田中等	30,000
東北	藤末二	30,000
西	高橋充治	20,000
豊川	加納哲英	20,000
名東	鈴木正隆	20,000
西	ブロック参加者一同	20,000
東北	小野道子	20,000
瀬戸	西尾定夫	20,000
海部	加藤正	20,000
一宮	仲村逸郎	20,000
豊田	ゴルフコンペ 斉藤・都築・市川・井口	20,000
中村	中村正之	10,000
昭和	土井康雄	10,000
東北	桂木雅康	10,000
天白	飯島健司	10,000
知多	下村隆治	10,000
〃	早川清二	10,000
〃	服部秀夫	10,000
〃	後藤博	10,000
一宮	奥籐博美	10,000
〃	脇田治夫	10,000
〃	樋尻実	10,000
西春日井	今福茂	10,000
豊田	塩飽高伸	10,000
〃	林孝浩	10,000
〃	佐藤公彦	10,000
〃	大和田隆史	10,000
〃	上野弘生	10,000
〃	井口恒雄	10,000
西尾	畔柳和一	10,000
〃	津田咸一	10,000
〃	久保勝一	10,000
〃	鈴木薫	10,000
知多	支部一同	6,320
中村	波多野正和	3,000
西	加藤惣一	2,000
愛歯技親睦ゴルフ大会		42,000
事務所募金箱		61,816

総合計

会員	14,448,136円	合計
会員外	7,125,000円	21,573,136円

歴　代　役　員

昭和30年度

会長		二村貴祐一
副会長		鈴木吉夫
理事	○庶務	安田鎌一
〃	○学術	社本昇貴
〃	○社会	佐藤竹治
〃	○会計	八木謙一

昭和31年度

会長		二村貴祐一
副会長		安田鎌一
〃		村井瀞一
常任理事		社本昇貴
〃		辻野金光
〃		岩附実
理事	○学務	仲野秀茂
〃	○社会	横山実
〃	○会計	八木謙一
監事(兼編集部長)		亀田昭治
〃		佐藤竹治
〃		鴻巣博司

昭和 32 年度

会長		二村貴祐一
副会長		八木謙一
〃		仲野秀茂
専務理事		永野志農夫
理事	○学務	社本昇貴
〃	○社会	横山実
〃	○会計	安田鎌一
〃	○機関紙	亀田昭治
〃		鈴木吉夫
〃		村井瀞一
監査		岩見重朗
〃		桂木正之
〃		鴻巣博司

昭和 33 年度

会長		村井瀞一
副会長		安田鎌一
〃		八木謙一
専務理事		永野志農夫
理事	○学務	岩見重朗
〃	○社会	高田俊弥
〃	○機関紙	亀田昭治
〃	○技工所	大竹喜篤郎
〃	○勤務者	新田忠
監査		大野武雄
〃		鈴木利郎
〃		森川重信

昭和34年度

会長		村井瀞一
副会長		安田鎌一
〃		八木謙一
専務理事		永野志農夫
理事	○学務	岩見重朗
〃	○社会	高田俊弥
〃	○機関紙	亀田昭治
〃	○技工所	大竹喜篤郎
〃	○勤務者	新田忠
監査		大野武雄
〃		鈴木利郎
〃		森川重信

昭和35年度

会長		村井瀞一
副会長		鴻巣博司
〃		八木謙一
〃		永野志農夫
専務理事		岩見重朗
理事	○機関紙	亀田昭治
〃	〃	新田忠
〃	○学務	社本昇貴
〃	○社会	高田俊弥
〃	〃	脇田治夫
〃	○会計	相馬栄
〃	○技工所	田中泉
〃	○勤務者	平岩慶一
〃		大川重正
〃		水野茂孝
〃		藤沢文雄
監査		下村英治
〃		横山実

昭和 36 年度

会　長		村井瀞一
副会長		鴻巣博司
〃		八木謙一
〃		永野志農夫
専務理事		岩見重朗
理　事	○機関紙	亀田昭治
〃	〃	新田忠
〃	○学　務	社本昇貴
〃	○社　会	高田俊弥
〃	〃	脇田治夫
〃	○技工所	田中泉
〃	○勤務者	平岩慶一
〃	○会　計	相馬栄
〃		大川重正
〃		水野茂孝
〃		藤沢文雄
監　事		下村英治
〃		横山実

昭和 37 年度

会　長		村井瀞一
副会長(兼専務理事)		安田鎌一
〃		横山実
〃		水野茂孝
専務理事（副）		渡邊忠夫
理　事	○学　術	社本昇貴
〃	〃	大川重正
〃	○機関紙	丹羽安之
〃	〃	古田勝
〃	○社　会	大澤昭二
〃	〃	土橋三男
〃	○技工所	桂木正之
〃	〃	中川桂太郎
〃	○勤務者	佐々木正昭
〃	〃	鈴木康之
〃	○会　計	服部孝
監　事		春田平
〃		安福芳雄

昭和38年度

会長		村井瀞一
副会長(兼専務理事)		安田鎌一
〃		横山実
〃		水野茂孝
理事	○学術	社本昇貴
〃	〃	渡邊忠夫
〃	○機関紙	丹羽安之
〃	〃	大川重正
〃	○技工所	桂木雅康
〃	〃	土橋三男
〃	○社会	大澤昭二
〃	〃	古田勝
〃	○勤務者	佐々木正昭
〃	〃	中川桂太郎
〃	○会計	服部孝
〃	〃	鈴木康之
監事	監査	伊佐地栄
〃	〃	春田平
〃	〃	安福芳雄

昭和39年度

会長		二村貴祐一
副会長		岩見重朗
〃		尾崎藤利
〃		安藤進
専務理事		相馬栄
理事	○学術	仲野秀茂
〃	○機関紙	亀田昭治
〃	〃	丹羽安之
〃	○技工所	桂木雅康
〃	○社会	大澤昭二
〃	○記録	久保勝一
〃	○勤務者	古田勝
〃	〃	岩附実
〃	○会計	鈴木康之
〃	〃	川北幸広
監事	監査	鈴木吉夫
〃	会計監査	小林静二
〃	〃	高松宏允

昭和40年度

会長		二村貴祐一
副会長		岩見重朗
〃		尾崎藤利
〃		安藤進
専務理事		相馬栄
理事	○学術	仲野秀茂
〃	○機関紙	丹羽安之
〃	〃	宮脇明
〃	○技工所	桂木雅康
〃	○社会	大澤昭二
〃	○記録	久保勝一
〃	○勤務者	古田勝
〃	団保委員	浅井貞雄
〃	○会計	鈴木康之
〃	〃	川北幸広
監事	会計監査	小林静二
〃	〃	高松宏允

昭和41年度

（4月～11月）

会長		二村貴祐一
副会長		尾崎藤利
〃		八木謙一
〃		大澤昭二
専務理事（兼学術部長）		社本昇貴
理事	○学術	社本昇貴
〃	○機関紙	後藤正夫
〃	○技工所	伊藤稔
〃	〃	田口昭二
〃	○庶務	山本武司
〃	〃	小切間邦雄
〃	○社会	浅井貞雄
〃	○記録	久保勝一
〃	○勤務者	香田春夫
〃	○会計	高松宏允
〃	〃	川北幸広
監事	会計監査	小林静二
〃	〃	中川正
〃	〃	脇田治夫

昭和41年度
(11月～翌3月)

会長		永野志農夫
副会長		尾崎藤利
〃		八木謙一
〃		社本昇貴
専務理事(兼学術部長)		岩見重朗
理事	○機関紙	後藤正夫
〃	〃	新田忠
〃	○技工所	伊藤稔
〃	〃	田口昭二
〃	○庶務	森川重信
〃	○記録	久保勝一
〃	○福祉	浅井貞雄
〃	○勤務者	香田春夫
〃	○会計	高松宏允
〃	〃	川北幸広
監事	会計監査	小林静二
〃	〃	中川正
〃	〃	脇田治夫

昭和42年度

会長		永野志農夫
副会長		尾崎藤利
〃		八木謙一
〃		社本昇貴
専務理事(兼学術部長)		岩見重朗
理事	○機関紙	後藤正夫
〃	〃	新田忠
〃	○技工所	伊藤稔
〃	〃	田口昭二
〃	○庶務	森川重信
〃	○記録	久保勝一
〃	○福祉	浅井貞雄
〃	○勤務者	香田春夫
〃	○会計	高松宏允
〃	〃	川北幸広
監事	会計監査	小林静二
〃	〃	中川正
〃	〃	脇田治夫

昭和43年度

会長		永野志農夫
副会長		社本昇貴
〃		鴻巣博司
〃		亀田昭治
専務理事		岩見重朗
理事	○学術	岩見重朗
〃	〃	森博史
〃	○会計	高松宏允
〃	〃	服部孝
〃	○福祉	藤田銑治
〃	○技工所	伊藤稔
〃	〃	田口昭二
〃	○機関紙	後藤正夫
〃	〃	森川重信
〃	○勤務者	畔柳和一
〃	○記録	鈴木繁彦
会計監査		中川正
〃		脇田治夫
〃		下島順

昭和44年度

会長		永野志農夫
副会長		社本昇貴
〃		鴻巣博司
〃		亀田昭治
専務理事		岩見重朗
理事	○学術	岩見重朗
〃	〃	森博史
〃	○機関紙	後藤正夫
〃	〃	森川重信
〃	○技工所	伊藤稔
〃	〃	田口昭二
〃	○勤務者	畔柳和一
〃	○福祉	藤田銑治
〃	○会計	高松宏允
〃	〃	服部孝
〃	○記録	鈴木繁彦
会計監査		中川正
〃		脇田治夫
〃		伊藤一夫

昭和45年度

会長		永野志農夫
副会長		岩見重朗
〃		鴻巣博司
〃		小林静二
専務理事		相馬栄
理事	○学術	河合康男
〃	○機関紙	鈴木弘道
〃	〃	千賀仁
〃	○技工所	下村英治
〃	〃	鈴木繁彦
〃	○勤務者	小川晋司
〃	○福祉	藤田銑治
〃	〃	大澤昭二
〃	○会計	水野正英
〃	○記録	木戸正満
会計監査		伊藤一夫
〃		川北幸広
〃		平岩慶一

昭和46年度

会長		永野志農夫
副会長		岩見重朗
〃		鴻巣博司
〃		小林静二
専務理事		相馬栄
理事	○学術	河合康男
〃	○機関紙	鈴木弘道
〃	〃	千賀仁
〃	○技工所	下村英治
〃	〃	鈴木繁彦
〃	○勤務者	小川晋司
〃	○福祉	藤田銑治
〃	〃	大澤昭二
〃	○会計	水野正英
〃	○記録	木戸正満
会計監査		伊藤一夫
〃		川北幸広
〃		平岩慶一

昭和47年度

会長		村井瀞一
副会長		大澤昭二
〃		水野茂孝
〃		高松宏允
専務理事		高松宏允
理事	○技工所	山本武司
〃	〃	小切間邦雄
〃	○学術	河合康男
〃	〃	横井欣弘
〃	○広報	鈴木弘道
〃	〃	奥藤博美
〃	○福祉	木戸正満
〃	〃	永井等
〃	○勤務者（記録）	鷲見時男
〃	○会計	千賀仁
〃	〃	香田春夫
監事		岩見重朗
〃		藤田銑治
〃		鈴木康之

昭和48年度

会長		村井瀞一
副会長		後藤正夫
〃		高松宏允
〃		水野茂孝
専務理事		千賀仁
理事	○会計	永井等
〃	〃	香田春夫
〃	○技工所	山本武司
〃	〃	小切間邦雄
〃	○勤務者	鷲見時男
〃	○庶務	
〃	○学術	横井欣弘
〃	〃	丸山功
〃	○福祉	木戸正満
〃	○広報	奥藤博美
〃	〃	林正義
監事		岩見重朗
〃		鈴木康之
〃		古田勝

昭和49年度

会長		岩見重朗
副会長		後藤正夫
〃		高松宏允
〃		水野茂孝
専務理事		山本武司
理事	○学術	丸山功
〃	〃	田口好樹
〃	○広報	丹羽安之
〃	〃	津田咸一
〃	○技工所	小切間邦雄
〃	○勤務者	三輪英朗
〃	○福祉	原田至
〃	○会計	鷲見時男
〃	〃	曽我恵之弼
〃	○庶務	奥藤博美
監事		桂木雅康
〃		八木謙一

昭和50年度

会長		岩見重朗
副会長		後藤正夫
〃		高松宏允
〃		水野茂孝
専務理事		奥藤博美
理事	○学術	田口好樹
〃	〃	中尾昌光
〃	○広報	丹羽安之
〃	〃	津田咸一
〃	○技工所	丸山功
〃	〃	土橋三男
〃	○庶務	松本繁行
〃	○勤務者	三輪英朗
〃	○福祉	原田至
〃	○会計	鷲見時男
〃	〃	曽我恵之弼
監事		桂木雅康
〃		鴻巣博司
〃		八木謙一

昭和51年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		宮脇明
専務理事		小切間邦雄
理事	○学術	杉浦伸吉
〃	〃	古畑正士
〃	○広報	鈴木弘治
〃	〃	林坂治
〃	○技工所	辻政明
〃	〃	岡崎隆二
〃	〃	内藤祐一郎
〃	○庶務	富田誠
〃	○勤務者	藤井清治
〃	○福祉	門幸雄
〃	○会計	小柳津純男
〃	〃	柘植正行
監事		相馬栄
〃		尾崎藤利
〃		安藤進

昭和52年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		宮脇明
専務理事		小切間邦雄
理事	○学術	杉浦伸吉
〃	学術 ○組織	古畑正士
〃	○広報 組織	鈴木弘治
〃	広報	林坂治
〃	○技工所	辻政明
〃	○調査統計 技工所	岡崎隆二
〃	技工所	内藤祐一郎
〃	○庶務 調査統計	富田誠
〃	○勤務者	藤井清治
〃	○福祉	門幸雄
〃	○会計	小柳津純男
〃	〃	柘植正行
監事		相馬栄
〃		尾崎藤利
〃		安藤進

昭和53年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		木戸正満
専務理事		山本武司
理事	○学術	杉浦伸吉
〃	○技工所	田口好樹
〃	○勤務者	森田昇
〃	○福祉 調査統計	小間恒彦
〃	○広報 勤務者	藤井清治
〃	○組織 会計	須田英彦
〃	○調査統計	齋藤年寛
〃	○会計	伊藤嘉朗
〃	○庶務 技工所	木塚茂
〃	学術	宮地清
〃	技工所 組織	柴田桂太
〃	広報	島田邦夫
監事		桂木雅康
〃		大川重正
〃		安藤進

昭和54年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		木戸正満
専務理事		山本武司
理事	○学術 技工所	柴田桂太
〃	○技工所	田口好樹
〃	○勤務者	森田昇
〃	○福祉 調査統計	小間恒彦
〃	○広報 勤務者	藤井清治
〃	○組織 会計	須田英彦
〃	○調査統計	齋藤年寛
〃	○会計	伊藤嘉朗
〃	○庶務 技工所	木塚茂
〃	広報	島田邦夫
〃		杉浦伸吉
〃		宮地清
監事		桂木雅康
〃		大川重正
〃		安藤進

昭和55年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		木戸正満
専務理事		山本武司
理事	○庶務	小林利次
〃	○学術	岡崎榴二
〃	学術技工所	柴田桂太
〃	○技工所	田口好樹
〃	○勤務者	中野重信
〃	〃	鈴木孝児
〃	○福祉	小間恒彦
〃	〃	中村正行
〃	○広報	島田邦夫
〃	○組織統計	辻　政明
〃	組織統計会計	須藤武夫
〃	○会計	木塚　茂
監事		桂木雅康
〃		大川重正
〃		安藤　進

昭和56年度

会長		亀田昭治
副会長		社本昇貴
〃		藤井美喜男
〃		木戸正満
専務理事		山本武司
理事	○庶務	小林利次
〃	○学術技工所	柴田桂太
〃	○学術	鈴木克彦
〃	○技工所	田口好樹
〃	○勤務者	中野重信
〃	〃	鈴木孝児
〃	○福祉	小間恒彦
〃	福祉広報	中村正行
〃	○広報	島田邦夫
〃	○組織統計	辻　政明
〃	組織統計会計	須藤武夫
〃	○会計	木塚　茂
監事		桂木雅康
〃		大川重正
〃		安藤　進

昭和57年度

会長		亀田昭治
副会長		小切間邦雄
〃		浅井貞雄
〃		宮地清
専務理事		服部孝
理事	○庶務	島田邦夫
〃	○会計	須田英彦
〃	○学術 技工所	鈴木克彦
〃	○福祉	藤田銑治
〃	○技工所	塗木睦男
〃	○広報	杉本紘平
〃	○組織統計 福祉	堀博
〃	○勤務	岡田政雄
〃	庶務	柘植正行
〃	組織統計 会計	東金次郎
〃	学術 勤務者	小島孝義
〃	広報 福祉	川出静登
監事		中川正始
〃		藤井美喜男
〃		千賀仁

昭和58年度

会長		亀田昭治
副会長		小切間邦雄
〃		浅井貞雄
〃		宮地清
専務理事		服部孝
理事	○庶務	島田邦夫
〃	○会計	須田英彦
〃	○学術 技工所	鈴木克彦
〃	○福祉	堀博
〃	○広報	杉本紘平
〃	○組織統計 会計	東金次郎
〃	○勤務	岡田政雄
〃	○技工所	塗木睦男
〃	庶務	柘植正行
〃	学術 勤務者	小島孝義
〃	広報 福祉	川出静登
監事		中川正始
〃		藤井美喜男
〃		千賀仁

昭和59年度

会長		山本武司
副会長		大澤昭二
〃		浅井貞雄
〃		齋藤年寛
専務理事		丸山功
理事	○総務 ○組織統計	辻政明
〃	○会計	藤野進
〃	○学術	杉本紘平
〃	○福祉	須田英彦
〃	○広報	古畑正士
〃	○勤務者	中野重信
〃	○技工所	中尾昌光
〃	総務 組織統計	石川照幸
〃	広報 組織統計	鈴木勝義
〃	技工所	中川広志
〃	勤務者	原田裕光
〃	組織統計	前野功雄
監事		小切間邦雄
〃		高松宏允
〃		畔柳和一

昭和60年度

会長		山本武司
副会長		大澤昭二
〃		浅井貞雄
〃		齋藤年寛
専務理事		丸山功
理事	○総務	辻政明
〃	○会計	藤野進
〃	○学術	杉本紘平
〃	○福祉	須田英彦
〃	○広報	古畑正士
〃	○勤務者	中野重信
〃	○技工所	中尾昌光
〃	○組織統計	鈴木勝義
〃	広報	石川照幸
〃	技工所	中川広志
〃	勤務者	原田裕光
〃	組織統計	前野功雄
監事		小切間邦雄
〃		高松宏允
〃		畔柳和一

昭和61年度

会長		山本武司
副会長		大澤昭二
〃		丹羽安之
〃		水野茂孝
専務理事	渉外総括	後藤正夫
常務理事	総務・組織事務局	杉本紘平
〃	技対	須田英彦
〃	厚生会計	藤野進
〃	広報	石川照幸
〃	学術	小柳津純男
理事	厚生	荻野与一
〃	会計	日下部淳二
〃	学術	小早川勝教
〃	技対(自営)	鈴木弘治
〃	技対(勤務)	原田裕光
〃	広報	早川賢
〃	組織	森田昇
〃	技対(自営)	三浦久司
〃	技対(勤務)	中久保博士
監事		社本昇貴
〃		高松宏允
〃		小林静二

昭和62年度

会長		山本武司
副会長		大澤昭二
〃		丹羽安之
〃		水野茂孝
専務理事	渉外総括	後藤正夫
常務理事	総務・組織事務局	杉本紘平
〃	技対	須田英彦
〃	厚生会計	藤野進
〃	広報	石川照幸
〃	学術	小柳津純男
理事	厚生	荻野与一
〃	会計	日下部淳二
〃	学術	小早川勝教
〃	技対(自営)	鈴木弘治
〃	技対(勤務)	原田裕光
〃	広報	早川賢
〃	組織	森田昇
〃	技対(自営)	三浦久司
〃	技対(勤務)	中久保博士
監事		社本昇貴
〃		高松宏允
〃		小林静二

平成元年度

会長		小切間邦雄
副会長		丹羽安之
〃		須田英彦
〃		中村正行
専務理事	渉外総括	杉本紘平
常務理事	組織	石川照幸
〃	技術対学	小柳津純男
〃	広報厚生	早川賢
〃	会計	藤末二
理事	学術	前田隆司
〃	厚生	村橋学
〃	組織	安達孝一
〃	広報	金井宏樹
〃	技対(勤務)	中島勝
〃	技対(勤務)	大林喜八郎
〃	技対(自営)	野田隆志
〃	技対(自営)	朝倉金久
〃	会計	岩元賢
監事		社本昇貴
〃		奥藤博美
〃		鈴木弘道

昭和63年度

会長		小切間邦雄
副会長		丹羽安之
〃		須田英彦
〃		中村正行
専務理事	渉外総括	杉本紘平
常務理事	組織	石川照幸
〃	技対学術	小柳津純男
〃	広報厚生	早川賢
〃	会計	藤末二
理事	学術	前田隆司
〃	厚生	村橋学
〃	組織	安達孝一
〃	広報	金井宏樹
〃	技対(勤務)	中島勝
〃	技対(勤務)	大林喜八郎
〃	技対(自営)	野田隆志
〃	技対(自営)	朝倉金久
〃	会計	岩元賢
監事		社本昇貴
〃		奥藤博美
〃		鈴木弘道

平成2年度

会長	4月～1月	小切間	邦雄
〃	2月～3月	柴田	桂太
副会長	(11月～1月)(会長代行)	柴田	桂太
〃		中村	正行
〃		木塚	茂
専務理事	渉外総括	田口	好樹
常務理事	総務	石川	照幸
〃	会計厚生	藤	末二
〃	学術	前田	隆司
〃	広報組織	金井	宏樹
〃	技対	朝倉	金久
理事	学術	内田	雅康
〃	厚生	加藤	真司
〃	組織	沢口	功
〃	広報	長保	誠
〃	技対(勤務)	石川	泰樹
〃	技対(自営)	井上	峰秀
〃	技対(自営)	吉川	幸司
〃	会計	岩本	成久
〃	庶務	加藤	静子
〃	(2～3)広報	田中	等
〃	(2～3)技対(勤務)	鳥居	厚臣
監事		須田	英彦
〃		鷲見	時男
〃		藤井	清治

平成3年度

会長		柴田	桂太
副会長	組織	浅井	貞雄
〃	学術	齋藤	年寛
〃	技対	三輪	英朗
専務理事	支域職	田口	好樹
常務理事	厚生広報	鈴木	克彦
〃	渉外総括	中野	重信
〃	総務技対	中島	勝
〃	会計組織	前田	隆司
〃	広報技対	朝倉	金久
理事	学術厚生	山田	与五郎
〃	総務	岩本	成久
〃	会計	戸ケ崎	淳
〃	組織	田中	等
〃	広報	川本	正起
〃	技対(自営)	鳥居	厚臣
〃	技対(勤務)	内田	雅康
〃	学術	杉浦	伸吉
〃	厚生	井口	昭嘉
〃	学術		
監事		鷲見	時男
〃		藤井	清治
〃		藤田	銑治

平成4年度

会長		柴田桂太
副会長	組織 学術	浅井貞雄
〃	技対 職域支	齋藤年寛
〃	厚生 広報	三輪英朗
専務理事	渉外 総括	田口好樹
常務理事	総務 技対	鈴木克彦
〃	会計 組織	中野重信
〃	広報 技対	中島勝
〃	学術 厚生	前田隆司
〃	技対 厚生	朝倉金久
理事	総務	山田与五郎
〃	会計	岩本成久
〃	組織	戸ケ崎淳
〃	広報	田中等
〃	技対 (自営)	川本正起
〃	技対 (勤務)	鳥居厚臣
〃	学術	内田雅康
〃	厚生	杉浦伸吉
〃	学術	井口昭嘉
監事		鷲見時男
〃		藤井清治
〃		藤田銑治

平成5年度

会長		柴田桂太
副会長		浅井貞雄
〃		三輪英朗
〃		安形敏男
専務理事	渉外 広報	丸山功
常務理事	厚生	中野重信
〃	学術	中島勝
〃	会計	岩本成久
〃	組織	戸ケ崎淳
〃	技対	辻政明
理事	総務	市川隆司
〃	会計	鈴木正隆
〃	組織	加納哲英
〃	学術	森晴美
〃	技対 (自営)	内藤克良
〃	技対 (勤務)	今村裕之
〃	学術	長谷川進
〃	厚生	加藤正
〃	広報	落合法正
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		丹羽安之

平成6年度

会長		柴田桂太
副会長		浅井貞雄
〃		三輪英朗
〃		安形敏男
専務理事	渉外広報	丸山功
常務理事	厚生	中野重信
〃	学術	中島勝
〃	会計	岩本成久
〃	組織	戸ケ崎淳
〃	技対	辻政明
理事	総務	市川隆司
〃	会計	鈴木正隆
〃	組織	加納哲英
〃	学術	森晴美
〃	技対(自営)	内藤克良
〃	技対(勤務)	今村裕之
〃	学術	長谷川進
〃	厚生	加藤正
〃	広報	落合法正
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		丹羽安之

平成7年度

会長		柴田桂太
副会長		浅井貞雄
〃		三輪英朗
〃		安形敏男
専務理事	渉外広報	丸山功
常務理事	厚生	中野重信
〃	学術	中島勝
〃	会計	岩本成久
〃	組織	戸ケ崎淳
〃	技対	辻政明
理事	総務	市川隆司
〃	会計	鈴木正隆
〃	組織	加納哲英
〃	学術	森晴美
〃	技対(自営)	内藤克良
〃	技対(勤務)	今村裕之
〃	学術	長谷川進
〃	厚生	加藤正
〃	広報	落合法正
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		丹羽安之

平成8年度

会長		浅井貞雄
副会長	学術組織	安形敏男
〃	厚生広報	島田邦夫
〃	財務技対	藤末二
専務理事	渉外	藤野進
常務理事	学術厚生	前田隆司
〃	財務	野田隆志
〃	広報庶務	金井宏樹
〃	技対	川本正起
〃	組織	田中等
理事	技対	渋谷政信
〃	組織	柴田光男
〃	厚生	渡辺守和
〃	広報	仲村逸郎
〃	学術	高橋充治
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		奥藤博美

平成9年度

会長		浅井貞雄
副会長	学術組織	安形敏男
〃	厚生広報	島田邦夫
〃	財務技対	藤末二
専務理事	渉外	藤野進
常務理事	学術厚生	前田隆司
〃	財務	野田隆志
〃	広報庶務	金井宏樹
〃	技対	川本正起
〃	組織	田中等
理事	技対	渋谷政信
〃	組織	柴田光男
〃	厚生	渡辺守和
〃	広報	仲村逸郎
〃	学術	高橋充治
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		奥藤博美

平成 10 年度

会長		安形敏男
副会長	財務技対	藤末二
〃	厚広生報	島田邦夫
〃	学組術織	藤野進
専務理事	渉総外括	金井宏樹
常務理事	学総術務	前田隆司
〃	財技務対	野田隆志
〃	技組対織	川本正起
〃	広技報対	田中等
〃	組厚織生	柴田光男
理事	技組対織	渋谷政信
〃	厚生	渡辺守和
〃	広財報務	仲村逸郎
〃	学術	高橋充治
〃	庶務	小林多恵
監事		藤井清治
〃		大澤昭二
〃		奥藤博美

平成 11 年度

会長		丸山功
副会長	学術財務	長谷川進
〃	組織厚生	中島勝
〃	技対広報	前野功雄
専務理事	渉外総括	下川勝喜
常務理事	学術技対	小柳津純男
〃	財務総務	岩本成久
〃	技対組織	鈴木勝義
〃	厚生広報	日下部淳二
〃	組織広報	加藤正
理事	総務厚生	仲尾為二
〃	技対組織	村上進
〃	広学報術	近藤厚
〃	組織財務	杉村頼幸
〃	学技術対	山田清治
監事		柴田桂太
〃		島田邦夫
〃		宮地清

平成 12 年度

会長		丸山　功
副会長	学術	長谷川　進
〃	組織	中島　勝
〃	技術	前野　功雄
専務理事	渉外	下川　勝喜
常務理事	学術	小柳津　純男
〃	財務	岩本　成久
〃	技術	鈴木　勝義
〃	厚生	日下部　淳二
〃	組織	加藤　正
理事	総務	仲尾　為二
〃	技術	村上　進
〃	広報	近藤　厚
〃	組織	杉村　頼幸
〃	学術	山田　清治
監事		柴田　桂太
〃		島田　邦夫
〃		宮地　清

平成 13 年度

会長		丸山　功
副会長	学術	長谷川　進
〃	組織	中島　勝
〃	技術	前野　功雄
専務理事	渉外	下川　勝喜
常務理事	学術	小柳津　純男
〃	財務	岩本　成久
〃	技術	鈴木　勝義
〃	厚生	日下部　淳二
〃	組織	加藤　正
理事	総務	仲尾　為二
〃	技術	村上　進
〃	広報	近藤　厚
〃	組織	杉村　頼幸
〃	学術	山田　清治
監事		柴田　桂太
〃		島田　邦夫
〃		宮地　清

平成15年度

会長		丸山　功
副会長	渉外技	鈴木克彦
〃	組織厚生	中島　勝
〃	学術財務	前野功雄
専務理事	総括渉外	下川勝喜
常務理事	学術広報	小柳津純男
〃	技対組織	鈴木勝義
〃	厚生財務	日下部淳二
〃	組織技対	加藤　正
理事	総務財務	村上　進
〃	財務厚生	杉村頼幸
〃	学術組織	山田清治
〃	総務技対	阿部勝仁
〃	広報学術	片桐寿樹
監事		島田邦夫
〃		三輪英朗

平成14年度

会長		丸山　功
副会長	渉外技	鈴木克彦
〃	組織厚生	中島　勝
〃	学術財務	前野功雄
専務理事	総括渉外	下川勝喜
常務理事	学術広報	小柳津純男
〃	技対組織	鈴木勝義
〃	厚生財務	日下部淳二
〃	組織技対	加藤　正
理事	総務財務	村上　進
〃	財務厚生	杉村頼幸
〃	学術組織	山田清治
〃	総務技対	阿部勝仁
〃	広報学術	片桐寿樹
監事		島田邦夫
〃		三輪英朗

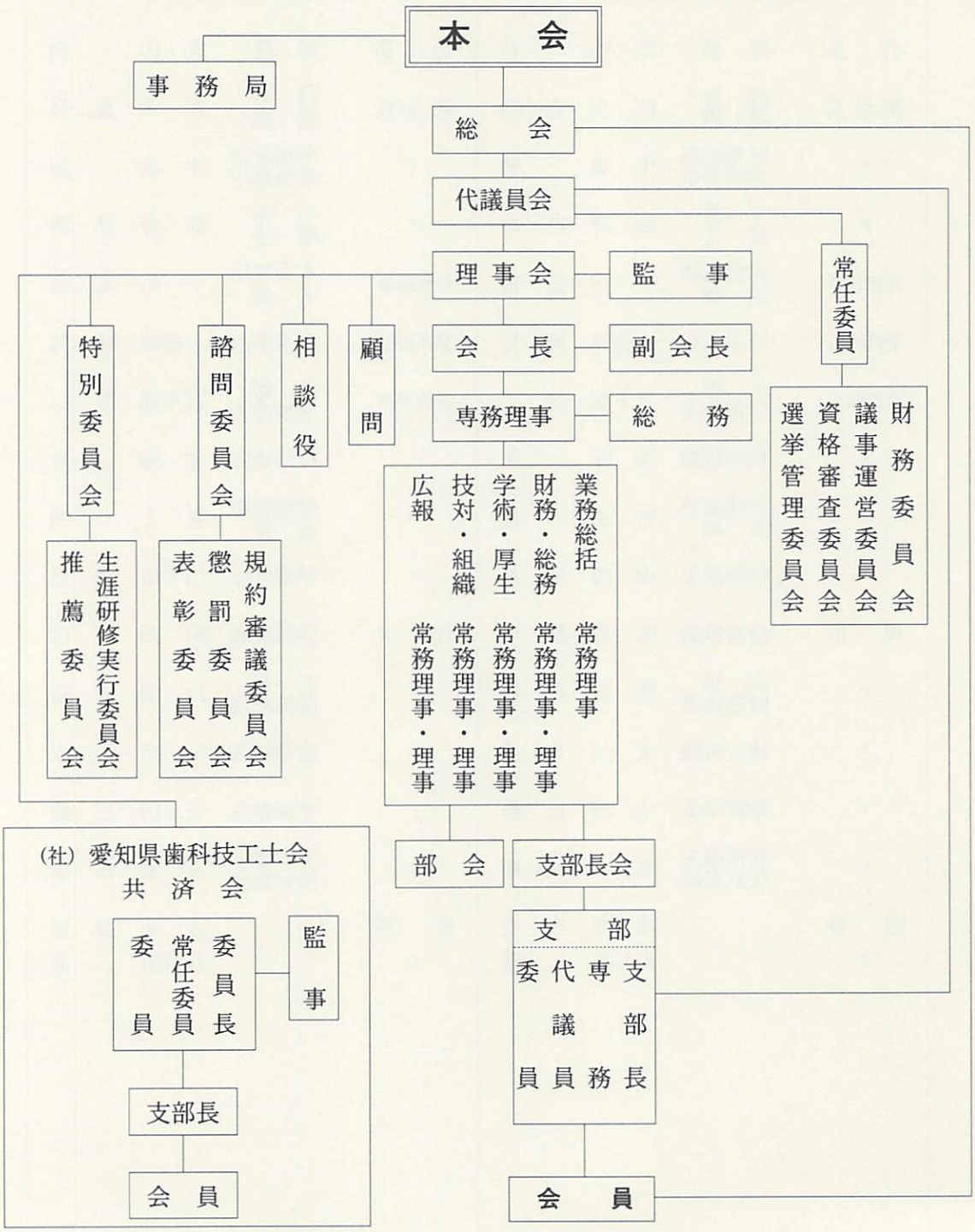
平成 16 年度

会長	総括	丸山　功
副会長	技対組織	鈴木克彦
〃	財務総務 学術厚生	中島　勝
〃	学術 厚生	前野功雄
専務理事	本会総括 広報	下川勝喜
業務総括	全事業部	小柳津純男
常務理事	広報 学術厚生	日下部淳二
〃	技対組織	加藤　正
〃	財務総務 広報	村上　進
〃	学術厚生	山田清治
理事	技対組織	阿部勝仁
〃	広報 財務総務	片桐寿樹
〃	技対組織	大川久直
〃	学術厚生	三田正徳
〃	学術厚生 技対組織	高木和順
監事		浅井貞雄
〃		長谷川　進

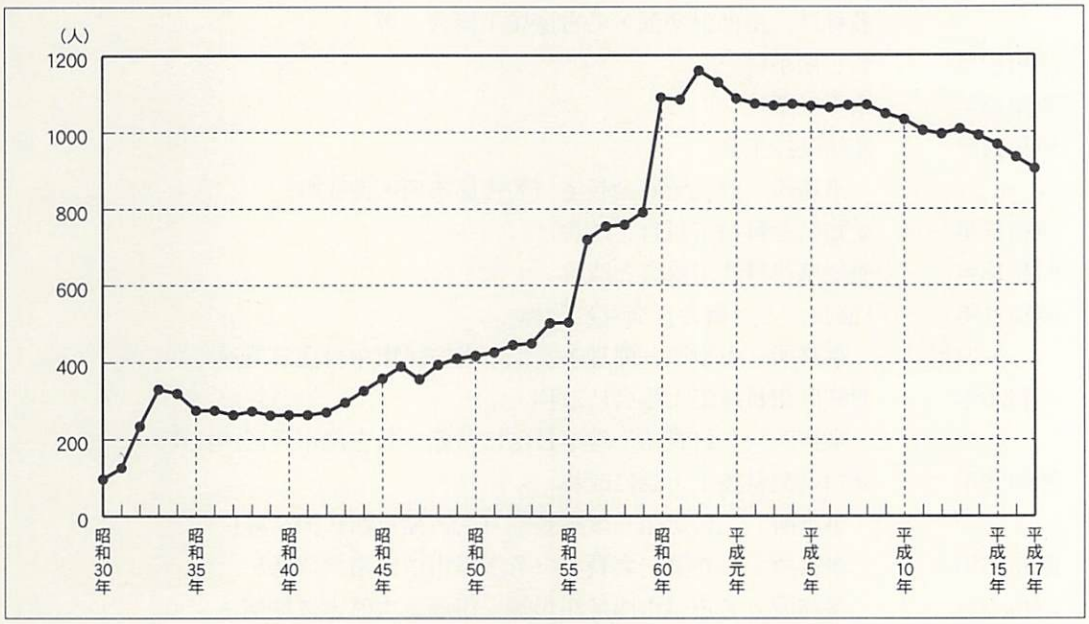
平成 17 年度

会長	総括	丸山　功
副会長	技対組織	鈴木克彦
〃	財務総務 学術厚生	中島　勝
〃	学術 厚生	前野功雄
専務理事	本会総括 広報	下川勝喜
業務総括	全事業部	小柳津純男
常務理事	広報 学術厚生	日下部淳二
〃	技対組織	加藤　正
〃	財務総務 広報	村上　進
〃	学術厚生	山田清治
理事	技対組織	阿部勝仁
〃	広報 財務総務	片桐寿樹
〃	技対組織	大川久直
〃	学術厚生	三田正徳
〃	学術厚生 技対組織	高木和順
監事		浅井貞雄
〃		長谷川　進

(社) 愛知県歯科技工士会　組　織　図　(平成17年度)



会員数の推移



年度（年）	会員数（人）	年度（年）	会員数（人）	年度（年）	会員数（人）
昭和 30	96	47	357	平成元	1,087
31	126	48	394	2	1,073
32	234	49	410	3	1,068
33	331	50	417	4	1,072
34	320	51	426	5	1,067
35	275	52	445	6	1,063
36	275	53	449	7	1,069
37	263	54	502	8	1,070
38	273	55	504	9	1,047
39	262	56	720	10	1,032
40	263	57	755	11	1,004
41	263	58	759	12	995
42	270	59	793	13	1,008
43	296	60	1,088	14	991
44	327	61	1,084	15	968
45	359	62	1,160	16	935
46	390	63	1,130	17	874

平成17年12月現在

名称並びに事務所の変遷

昭和６年　県下に小グループが散在していて、主に世話人宅を事務所にグループの名称は、南部倶楽部・名古屋技工組合　等
昭和12年　名古屋が統一
昭和13年　県下ほぼ統一成る
昭和14年　愛知県技工会
　事務所　曽我重郎会長宅（名古屋市西区泥江町）
昭和17年　愛知県歯科技工組合と改称
昭和18年　愛知県歯科技工協会と改称
昭和21年　「協会」と「組合」交互に改称
～24年　事務所　中根源一郎理事長宅（名古屋市中村区日置通り）
昭和26年　愛知県歯科技工士協会に改称
　事務所　二村貴祐一理事長宅に移転（名古屋市西区内江町）
昭和29年　愛知県歯科技工士会に改称
　事務所　二村貴祐一理事長宅（名古屋市西区内江町）
昭和33年　事務所　村井瀞一会長宅（名古屋市中区南大津通）
昭和39年　事務所　名古屋市西区江川端　伊藤金次郎方に移転
昭和45年　事務所　名古屋市西区深井町　比良政ビルに移転
法人認可　社団法人愛知県歯科技工士会に改称
昭和55年　所在地名変更　名古屋市西区城西五丁目21番14号
平成７年　会館竣工移転　名古屋市東区矢田町三丁目49番地３
平成16年　所在地名変更　名古屋市東区矢田二丁目13番15号

＊　＊　＊

連盟の歩み

＜昭和34年度＞

◇**政治団体を設立**（４月）

歯科技工士の身分・生活権擁護の政治的活動が必要となり、設立。

名　称　愛知県歯科技政協会

事務所　名古屋市西区西内江町１の46

役　員

会　長　　二村貴祐一

副会長　　相馬　栄

会　計　　鈴木吉夫

常任委員　加藤久四・桂木正之

社本昇貴

監　査　　増田四郎・岩附　実

幹　事　　各地区支部長

＜昭和46年度＞

◇参院選全国区鹿島俊雄候補　選挙事務所開所式に出席（６月５日、県歯科医師会館）

永野本会会長は「独自の選挙戦をしていきたい」と激励のあいさつ。

＜昭和50年度＞

◇県議選に出馬の亀田候補を激励（３月11日）

４月に施行された県会議員選挙に、亀田昭治元副会長（新城市、定員１名）が出馬。善戦空しく次点。事務所開きに本会の推薦状を携えた岩見会長、水野副会長及び東三支部会員が亀田候補を激励した。

＜昭和54年度＞

◇県選管へ**政治団体の届け出**（１月16日）

本技政協会は、県選挙管理委員会へ法による政治団体の届け出を行った。近く参院選を控え「会員相互の協力により、民主的政治力を強化し、業権の確保と拡張を図り、以って医療体制を整えることを目的とする」技政協会が、その活動を活発化するとともに寄付金など金銭の授受を公明正大にしたい、ということから。

後日、役員名簿を提出して届け出をした。

＜昭和55年度＞

◇参院選で関口恵造氏へ強力支援

６月22日に執行された第12回参院選に「歯科界の浮沈を賭ける戦い」を標榜し、歯科界の単一候補として全国区に立候補した関口恵造氏は、931,070票を得て18位で初当選。うち愛知県では66,263票を獲得、全国第２位の得票数であった。

本会は後援会活動に続いて、総決起大会や各地区での集会に多数の会員が参加し、選挙期間中は連日連夜、延べ約500人が県歯科医師会館内の選挙事務所に詰めかけた。そして、懸命な電話戦術を展開、最終的にその実績数は報告のあった分だけで１万2000に上った。

◇今枝顧問、衆院選に初当選

＜昭和56年度＞

◇亀田会長、名古屋市長選挙で「市民の会」理事

４月26日執行の名古屋市長選挙で、亀田会長は本山政雄市長の当選を図る推進母体の「市民の会」理事を務めた。

＜昭和57年度＞

◇横山利秋後援会に出席（９月22日）

◇小沢元厚相との懇談会及び「今枝敬雄を支持する会」に出席（10月２日）
＊懇談会の席上、亀田会長は小沢元厚相に歯科技工士の実状を訴えて、陳情書を手渡した。
◇顧問・高橋先生の会に出席（１月12日）
◇横山利秋を守る会に出席（２月26日）
◇浅井副会長、高橋則行事務所開きに出席（３月10日）

＜昭和58年度＞
◇林厚相との懇談会に出席（６月14日、県歯科医師会）
◇横山利秋後援会に出席（10月24日）
◇「今枝敬雄を守る会」に出席（11月21日）
亀田会長及び服部専務理事
◇「自民党懇談会」に出席（11月26日）
小切間副会長
◇「今枝敬雄代議士を励ます集い」に出席（11月30日）
亀田会長及び服部専務理事

＜昭和60年度＞
◇技稲会が発足（４月21日、岡崎市竜美丘会館）
日技より酒井会長、亀田副会長、斎藤副理事長。山本会長以下役員18人と会員多数が出席した。
日技の重点議員である稲垣実男衆院議員に日技、県技より歯科技工料問題、歯科技工士養成数等の要望が出された。
日ごろ技工士会に理解のある同氏の支援体制を固めるため、斉藤年寛氏を同会会長に。
◇自由民主党職域支部結成（７月28日）
全国で12番目の自民党歯科技工士支部が結成され、支部長に浅井副会長。

＜昭和61年度＞
◇技稲会第１回総会（４月20日、岡崎市竜美ヶ丘会館）
終了後、技政協会総会。**政治連盟に改称。**
◇今枝・片岡両衆院議員との懇談会（11月15日）
山本会長、大沢副会長、後藤専務、杉本常務、斉藤・服部正連副理事長

＜昭和63年度＞
◇稲垣実男衆院議員を囲む会に出席（６月４日、岡崎）
衆院社会労働委員長、自民党歯科問題小委員長としてのご尽力に対し稲垣先生に謝意を申し上げる会。酒井日技会長、東海４県技会長、本会役員や技稲会会員など多数出席。

＜平成元年度＞
◇今枝敬雄衆院議員との懇談会（９月２日、西区「志の島茶屋」）
今枝敬雄顧問と本会および政連役員15人との懇談会が、「消費税と歯科業界への影響」をメインテーマに。

＜平成２年度＞
◇衆院議員補選で大島慶久候補を支援
本政連も全面的に支援、出陣式には会長はじめ役員など多数が出席。

＜平成３年度＞
◇大島よしひさ後援会決起大会に出席（10月17日、県歯科医師会館）
本会・政連役員が出席

＜平成５年度＞

◇愛知県歯科技工士連盟に名称変更

◇顧問に浜田一徳県議（海部郡選挙区）が加わり、それまでの今枝敬雄衆院議員、高橋則行県議と合わせて３人に。

＜平成６年度＞

◇橋本大臣との懇談会に出席（８月28日）

柴田会長、浅井副会長、丸山専務、鈴木理事長、仲尾・古畑副理事長。

◇鈴木県知事と懇談（11月16日、知事公舎）

柴田会長、浅井副会長、丸山専務、鈴木連盟理事長、小切間相談役出席。

歯科技工士の現況並びに会館建設等の懸案を「請願文」にして持参。知事選への立候補を強く要請して、推薦状を手渡した。

◇中原爽後援会決起大会、吉川博衆院議員を励ます会（３月12日、熱田神宮文化殿）

出席者450人。

＜来賓＞佐野日技会長
村田自民党県連会長
浜田県議
宮下県歯連盟会長

◇顧問に鈴木政二県議も

◇顧問に３氏追加決定（３月26日）

新たに次の名古屋市議３氏に顧問を委嘱することを決定。（敬称略）谷田武彦（中区）・桜井治幸（千種区）・岡本善博（中川区）

＜平成７年度＞

◇村田敬次郎先生叙勲を祝う会に出席（９月４日、東京プリンスホテル）

＜平成８年度＞

◇第41回衆院選（10月20日執行）に次の候補者を推薦

比例区

東海ブロック　稲垣実男

選挙区

１区	今枝敬雄	２区	田辺広雄
３区	片岡武司	４区	塚本三郎
５区	木村隆秀	６区	あみ岡雄
７区	丹羽太一	８区	久野統一郎
９区	吉川　博	10区	江崎鐵磨
11区	浦野悠興	12区	杉浦正健
13区	大村秀章	14区	浅野勝人
15区	村田敬次郎		

全区に連盟理事が推薦状を持参し、「経済基盤の確立」「大学化への支援」を要望した。

◇会費改定

月額40円から70円に。

＜平成11年度＞

◇統一地方選に立候補の本会顧問の出陣式に役員多数出向（４月２日）

＜平成12年度＞

◇第42回衆院選（６月25日執行）に次の候補者を推薦

比例区

東海ブロック　谷田武彦・吉田幸弘

選挙区

１区	平田よねお	２区	谷口守行
３区	片岡武司	５区	木村隆秀
６区	草川昭三	７区	鈴木じゅんじ
８区	大木ひろし	10区	江崎鐵磨
12区	杉浦正健	13区	大村秀章
14区	浅野勝人	15区	山本明彦

「歯科技工製作料の制度内への位置

付けと、団体による直接請求」という最重要懸案を掲げて、推薦立候補者本人に直接要望した。



＜平成13年度＞

◇中原そう・鈴木政二総決起大会＝**写真**（7月8日、名古屋市中区役所ホール）

500人以上が参加。

鈴木政二顧問は「経済基盤の確立のために歯科製作技工料の団体請求による直接請求の実現を図る」と明言。

＜平成14年度＞

◇鈴木政二顧問の時局講演会（1月9日）

本会、連盟役員参加。

◇桜井　充議員と懇談会

民主党医療問題担当の桜井充議員と懇談。

＜平成15年度＞

◇坂口　力厚生労働大臣と会談（9月4日、名古屋国際ホテル）



坂口力厚生労働大臣（中）と会談した丸山会長（右）と鈴木理事長（左）

丸山会長、鈴木理事長

◇会員市議会議員誕生

西尾支部会員の中村行男氏が、西尾市議会議員に当選。

◇第43回衆院選（11月9日執行）に次の候補者を推薦

会長、理事長が全候補者に直接推薦状と要望書（＝**次頁**）を手渡した。

選挙後候補者に要望書の確認をした。

比例区　鈴木じゅんじ

小選挙区

1区	谷田武彦	2区	斉藤幸男
3区	吉田幸弘	4区	近藤ひろし
5区	木村隆秀	6区	丹羽秀樹
7区	青山　丘	8区	大木ひろし
9区	海部俊樹	10区	江崎鐵磨
12区	杉浦正健	13区	大村秀章
14区	浅野勝人	15区	山本明彦

◇自由民主党に800人入党（7月）

◇「直接請求を実現させる会」に出席（9月）

◇「中西しげあき躍進の会」事務所開きに出席（9月）

要　望　書

一、歯科製作技工料の医療保険制度内への位置づけと団体による直接請求ができるようにしていただきたい

我が国では、昭和36年の国民健康保険の施行以降、全ての国民が何れかの医療保険制度に加入して医療サービスの提供を受ける国民皆保険制度が今日まで維持されてきました。私達、歯科技工士も国民歯科医療の一翼として歯科補綴技工に昭和30年歯科技工士法の制定以来、従事して約40年という歳月にあります。

歯科製作技工料に関しては、国民皆保険制度下にあって社会保険診療に関わる歯科技工所の全収入は９割前後を占めるものであり、当初は関係団体との合議での歯科技工標準料金によるものでしたが、長年にわたる「歯科技工士の経済基盤の確立」という運動のもとで、下記の通り昭和63年５月30日に

厚生省告示　第165号　第12部　歯冠修復及び欠損補綴の通則５

> ５．歯冠修復及び欠損補綴料には、製作技工に要する費用及び製作管理に要する費用が含まれ、その割合は、製作技工に要する費用がおおむね100分の70、製作管理に要する費用がおおむね100分の30である。

厚生省告示され、その趣意に沿って、遵守の徹底に組織を挙げてくりかえし指導を行ないましたが、12年の歳月の今日では形骸化の一途にあります。その上、歯科医療界の内外環境の厳況下にあって歯科製作技工料の現状は言うまでもなく更に厳しいものとなっております。

もとより、私達が要望し願ってきたものは、国における制度でありますから国への団体による直接請求方法でありました。この要望は、全ての歯科技工士が長年を懸けての念願であり命題とするものであります。

この度の医療制度の抜本改革において、私達のように医療周辺に従事する多くの人達へも配慮あるものを、何卒、貴党の施策のひとつとして下さるようにご高配を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

平成13年度 国・県予算及び政策に関する要望書

本連盟は自由民主党愛知県支部連合会及び自民党愛知県団体協議会に昨年に引き続き平成13年の政策に関する要望書を提出した。要望書の内容については次の通り。



「中西しげあき君を励ます会」で会員のエールに応える中西茂昭氏（右）

◇参院選（７月11日執行）

中西しげあき候補の得票数

愛知県全体	5138票
名古屋市	1413票
他都市	2879票
郡　部	845票

＜平成16年度＞

◇「中西しげあき君を激励する会」に出席　（１月、東京赤坂プリンスホテル）

◇愛知県内遊説

５月24日　名古屋地区
25日　三河地区
26日　尾張地区
27日　他地区

◇「中西しげあき君を励ます会」（６月６日、名古屋逓信会館）

会員・家族500人が参加し、大きなエールを送った。

＜平成17年度＞

◇９月11日執行の第44回衆議院議員選挙で９人の自民党候補を推薦した（○印は日技連盟も推薦）

第１区　しのだ陽介
第２区　岡田ゆうじ
第４区　藤野真紀子
第６区　丹羽ひでき
○第７区　鈴木じゅんじ
第９区　海部俊樹
第11区　土井真樹
○第12区　杉浦正健
第13区　大村ひであき

連盟役員名簿

（愛知県歯科技工士連盟に名称変更以降）

平成5年度

会長	柴田桂太
副会長	浅井貞雄
	三輪英朗
	安形敏男
理事長	田口好樹
副理事長	鈴木克彦
	井口昭嘉
	古畑正士
監事	藤井清治
	大沢昭二
	丹羽安之

平成6年～7年度

会長	柴田桂太
副会長	浅井貞雄
	三輪英朗
	安形敏男
理事長	鈴木克彦
副理事長	井口昭嘉
	古畑正士
	中尾為二
監事	藤井清治
	大沢昭二
	丹羽安之

平成8年～10年度

会長	(8～9年)	浅井貞雄
	(10年)	安形敏男
副会長	(8～9年)	安形敏男
		島田邦夫
		藤末二
	(10年)	藤野進
理事長		鈴木克彦
副理事長		古畑正士
		中尾為二
		村上進
常任理事		安藤嘉明
		斉藤幸夫
		戸ケ崎淳
		大川久直
		山田年清
		加藤義昭
監事		大野正之

平成11年～12年度

会長	丸山功
副会長	長谷川進
	中島勝
	前野功雄
理事長	鈴木克彦
副理事長	斉藤幸夫
	古畑正士
	森晴美
常任理事	前野友彦
	戸ケ崎淳
	大川久直
	近藤幸作
	木村嘉雄
	高瀬敏夫
監事	大野正之
	島田邦夫

平成13年度

会長	丸山　功
副会長	長谷川　進
	中島　勝
	前野功雄
理事長	鈴木克彦
副理事長	中尾為二
	古畑正士
	森　晴美
常任理事	堀　博
	河田　宏
	大川久直
	落合法正
	榊原好春
	高瀬敏夫
監事	大野正之
	島田邦夫

平成14年度

会長	丸山　功
副会長	鈴木克彦
	中島　勝
	前野功雄
理事長	鈴木克彦
副理事長	堀　博
	大川久直
	榊原好春
常任理事	河田　宏
	中尾昌光
	今福　茂
	大林英二
監事	島田邦夫
	三輪英朗

平成15年度

会長	丸山　功
副会長	鈴木克彦
	中島　勝
	前野功雄
理事長	鈴木克彦
副理事長	堀　博
	大川久直
	榊原好春
常任理事	中尾昌光
	鈴木正隆
	今福　茂
	亀井鋭次
	浅井静男
	大林英二
監事	島田邦夫
	三輪英朗

平成16年～17年度

会長	丸山　功
副会長	鈴木克彦
	中島　勝
	前野功雄
理事長	鈴木克彦
理事長代行、事務局長	河田　宏
副理事長、事務次長	下川勝喜
副理事長	大川久直
	榊原好春
常任理事	中尾昌光
	鈴木正隆
	大藤　隆
	亀井鋭次
	杉村頼幸
	白石政二郎
	浅井静男
	大林英二
	奥村英世
監事	浅井貞雄
	長谷川　進

あ と が き

歯科技工士法制定から50年、社団法人化35年という年を迎えました。愛知の歴史を偲へば、多くの先輩諸氏の労苦を昔の資料を探し読むことによって、まざまざと知らされ、現在では想像だにしない環境の中での汗が、現在の礎を築いてくれていることを思い感謝の気持ちでいっぱいです。昨年は中部国際空港が開港し、愛・地球博が開催された年でもあり、愛知の元気が我々の組織のますますの発展のもととならんことを願うものです。

平成17年錦秋

(F)

会史編纂委員会委員

(◎ 委員長、○ 副委員長)

〈特別委員〉　丸山　功　　鈴木克彦

◎島田邦夫　○古畑正士　　三輪英朗　　下川勝喜

田中　等　　落合法正　　大川久直　　片桐寿樹

会　　史

平成18年3月　発刊

発　刊　社団法人 **愛知県歯科技工士会**

名古屋市東区矢田二丁目13番15号

発刊人　丸　山　　功

編　纂　会史編纂委員会

印刷所　手島印刷株式会社

